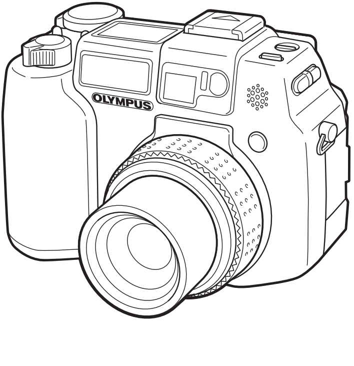
OLYMPUS

CAMEDIA
デジタルカメラ

C-5050ZOOM

取扱説明書



- このたびは、オリンパス製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、大切な撮影（海外旅行など）の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、開発中のものです。実際の製品とは異なる場合があります。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF 」です。

INDEX

もくじ

1 準備 26

2 撮影と再生の基本 45

3 モードダイヤルとダイレクトボタンの機能 65

4 メニューとタブのしくみ 75

5 フラッシュ 85

6 撮影の応用 97

7 画像・画質・露出の調整 128

8 再生 150

9 カメラの便利機能 167

10 プリント予約 198

11 その他 208

●本書の表記について

! 注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
?	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。** 目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。
- **幼児、子供の手の届く場所に置かない。** 以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **カメラで日光や強い光を見ない。** 視力障害をきたすおそれがあります。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。** 充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。** 火災や感電の原因となることがあります。

● **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
● **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
● **AC アダプタのコードを傷つけない**。AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- AC アダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD の褪色・焼きつきを起こすことがあります。

● 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。

● 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

● レンズに無理な力を加えないでください

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

● 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。

● 火中への投下や、加熱をしないでください。

● ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。

● 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用•放置しないでください。

● 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。

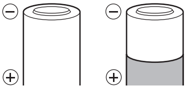
● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。

● 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

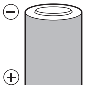
⚠ 警告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
- このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
- 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
- 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
- ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
- 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
- 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。

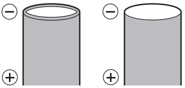
● このような形状の電池はご使用になれません。



シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。



負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。



負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。）

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
● 液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
● 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
● カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
● 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア）」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0 ～40 ℃
  充電：0 ～40 ℃
  保存：－20 ～30 ℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には（＋）（－）端子をテープで絶縁してから最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。

液晶モニタとバックライトについて

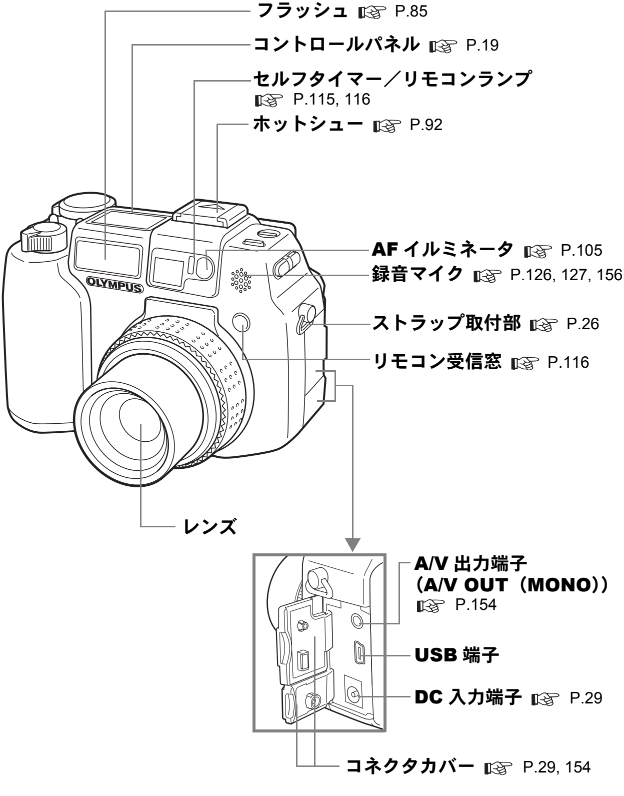
本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネル※には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

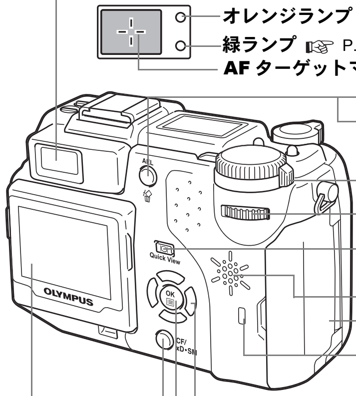
※　一部搭載していない機種もあります。

各部の名称

カメラ



フラッシュ ☞ P.85
コントロールパネル ☞ P.19
セルフタイマー／リモコンランプ ☞ P.115, 116
ホットシュー ☞ P.92
AF イルミネータ ☞ P.105
録音マイク ☞ P.126, 127, 156
ストラップ取付部 ☞ P.26
リモコン受信窓 ☞ P.116
レンズ
A/V 出力端子（A/V OUT（MONO）） ☞ P.154
USB 端子
DC 入力端子 ☞ P.29
コネクタカバー ☞ P.29, 154



ファインダ ☞ P.44

オレンジランプ ☞ P.46

緑ランプ ☞ P.46

AF ターゲットマーク ☞ P.46

AEL ボタン（AEL） ☞ P.111

消去ボタン（🗑） ☞ P.64

パワースイッチ ☞ P.37

ダイヤル ☞ P.69

液晶モニタボタン（Quick View [◫]） ☞ P.48, 60

スピーカ ☞ P.188

カードカバー ☞ P.32

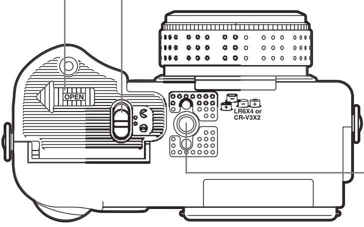
カードアクセスランプ ☞ P.46

十字ボタン（△ ▽ ◁ ▷） ☞ P.59, 75

OK/ メニューボタン（OK） ☞ P.75

カード切換えボタン（CF/xD•SM） ☞ P.35

液晶モニタ ☞ P.21, 49



電池カバー ☞ P.27

電池カバーロック ☞ P.27

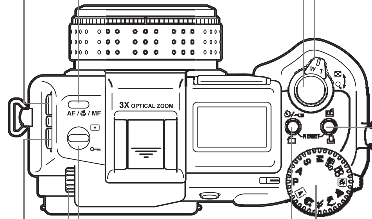
三脚穴

露出補正ボタン（ ）P.99, 134

AF／マクロ／MF ボタン（AF / / MF ）P.106, 113

シャッターボタン P.46

ズームレバー（T/W• ）P.56, 150, 151



カスタムボタン（ ）P.169

プリント予約ボタン（ ）P.200

モードダイヤル P.65

セルフタイマー／リモコンボタン（ ）P.115, 116

回転再生ボタン（ ）P.155

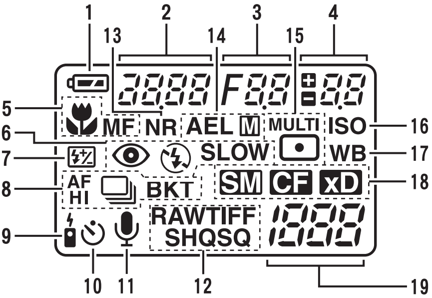
測光ボタン（ ）P.108

プロテクトボタン（ ）P.63

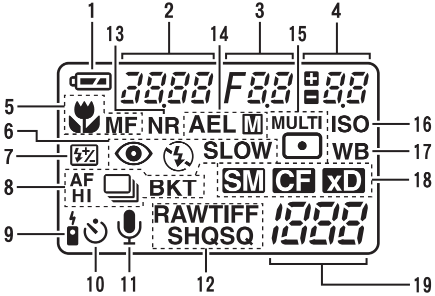
視度調節ダイヤル P.44

フラッシュモードボタン（ ）P.85

コントロールパネルの表示



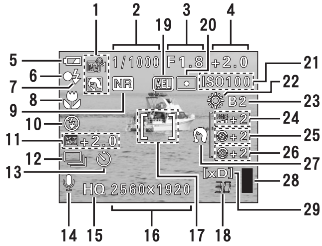
	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	P.24
2	シャッター速度	2ooo（1/2000秒）、2.5"	P.98
3	絞り値	F1.8	P.97
4	露出補正値 フラッシュ補正値	+2.0、+1.0、0.0、-1.0、-2.0	P.134 P.91
5	マクロ マニュアルフォーカス スーパーマクロ スーパーマクロMF	（点灯） MF（点灯） （点滅） MF（点滅）	P.113 P.106 P.114 P.114
6	フラッシュモード	、、、SLOW、SLOW	P.85
7	フラッシュ補正		P.91
8	連写モード	HI、、AF、BKT	P.118
9	リモコン		P.116
10	セルフタイマー		P.115
11	録音		P.126, 127, 156



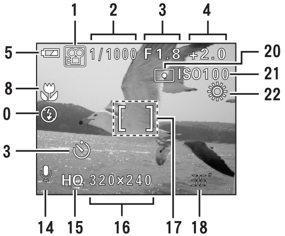
	項目	表示例	参照頁
12	画質	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ（SQ1/SQ2）	P.128
13	ノイズリダクション	NR	P.145
14	AEロック AEメモリ	AEL AEL M	P.111 P.112
15	測光	[•]、MULTI [•]	P.108
16	ISO感度	ISO	P.133
17	ホワイトバランス	WB	P.136
18	使用カード	xD、SM、CF	P.35
19	撮影可能枚数・撮影可能秒数 エラーコード	30 -E-	P.54, 129 P.208

液晶モニタの表示

●撮影モード



静止画



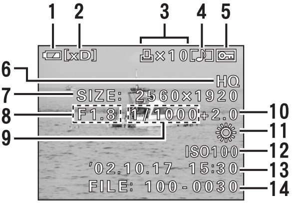
ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	撮影モード	P、A、S、M、、、、、、、	P.65
2	シャッター速度	16～1/2000	P.98
3	絞り値	F1.8～F8.0	P.97
4	露出補正 露出状態	-2.0～+2.0 -3.0～+3.0	P.134 P.99
5	電池残量	、	P.24
6	緑ランプ	●	P.48
7	フラッシュ発光予告・手ぶれ警告 フラッシュ充電	点灯 点滅	P.86
8	マクロ スーパーマクロ マニュアルフォーカス	 MF	P.113 P.114 P.106
9	ノイズリダクション	NR	P.145

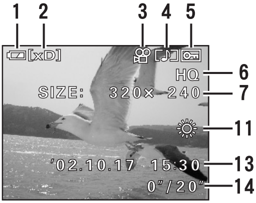
	項目	表示例	参照頁
10	フラッシュモード	、、、 SLOW1、 SLOW2、 SLOW1	P.85
11	フラッシュ補正	-2.0～+2.0	P.91
12	ドライブ	、HI、、AF、BKT	P.118
13	セルフタイマー リモコン		P.115 P.116
14	録音		P.126, 127, 156
15	画質	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.128
16	画像サイズ	2560×1920、2560×1696、1280×960、640×480、320×240	P.129
17	AFターゲットマーク	[ ]	P.48
18	撮影可能枚数 撮影可能秒数	30 36"	P.129 P.54
19	AEロック AEメモリ	AEL MEMO	P.111
20	スポット測光		P.108
21	ISO感度	ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.133
22	ホワイトバランス	、、、、、、、、AWB、CWB	P.136
23	WB補正	B1～B7、R1～R7	P.141
24	彩度	RGB -5～+5	P.144
25	シャープネス	S -5～+5	P.142
26	コントラスト	C -5～+5	P.143
27	シーンプリセット	、、	P.145
28	メモリゲージ	、、、	P.24
29	使用カード	[xD]、[SM]、[CF]	P.35

●再生モード

画面に表示される情報量を「情報表示」機能のオン／オフで選択できます。下の画面は「情報表示」の機能をオンにしたときの画面です。☞「情報表示」（P.180）



静止画



ムービー

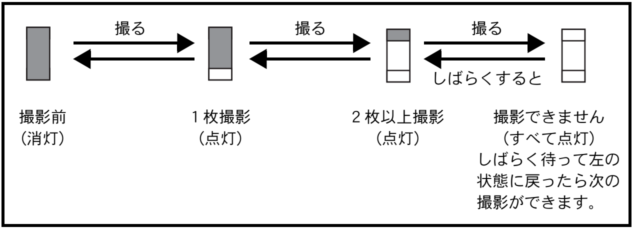
	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	P.24
2	使用カード	[xD]、[SM]、[CF]	P.35
3	プリント予約・枚数 ムービー	×10	P.200 P.61
4	録音	[♪]	P.126
5	プロテクト		P.63
6	画質	RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2	P.128
7	画像サイズ	2560×1920、2560×1696、1280×960、640×480、320×240	P.129
8	絞り値	F1.8～F8.0	P.97
9	シャッター速度	16～1/2000	P.98
10	露出補正	-2.0～+2.0	P.134
11	ホワイトバランス	WB AUTO、 、 、 、 、 、 、 、 、AWB、CWB	P.136
12	ISO感度	ISO 64、ISO 100、ISO 200、ISO 400	P.133
13	日時	'02.10.17　15:30	P.42
14	ファイル番号 秒数	FILE : 100 - 0030 0"／20"	P.198

注意

- ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

●メモリゲージについて

静止画の撮影をすると、メモリゲージが点灯します。点灯中は撮影した画像をカードへ記録しています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。ムービーの撮影中は、この表示はありません。



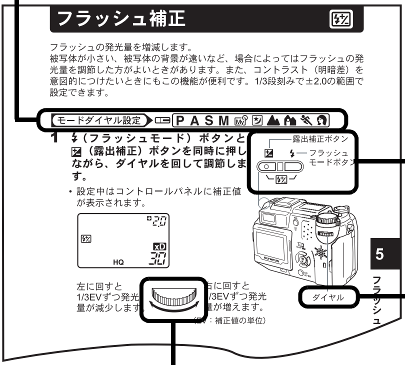
●電池マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、コントロールパネルや液晶モニタの電池残量表示が以下のように変化します。

電池マーク	コントロールパネル	液晶モニタ	状態
	点灯	点灯(緑) （しばらくすると消灯）	電池残量は十分にあります。
	点滅	点滅(赤)	電池残量が少なくなりました。新しい電池を準備してください。
表示なし	ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが点滅（コントロールパネルは自動的に消灯します。）		電池残量が完全になくなりました。新しい電池と交換してください。

本書の見方

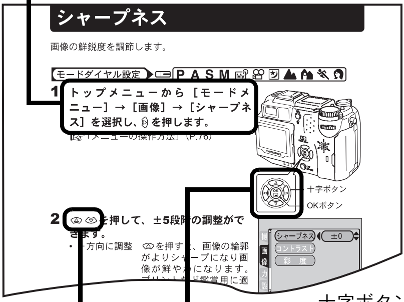
モードダイヤルをここに示されているいずれかのマークに設定します。



この機能で操作するボタンとその位置がわかるように表記しています。

ダイヤルの操作を表記しています。

メニューは矢印の順に操作します。操作方法の詳細については「メニューの操作方法」（P.76）を参照してください。

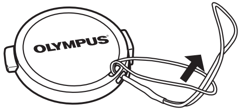


十字ボタンを表しています。操作手順では使用する十字ボタンのみ表記しています。

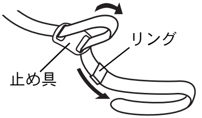
このページは説明のためのサンプルです。実際のページの説明とは異なる場合があります。

ストラップを取り付ける

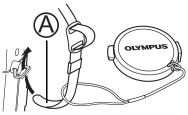
1 レンズキャップの穴にレンズキャップ用ひもを通し、通したひもをもう一方の輪にくぐらせて引っ張ります。



2 ストラップの先端をそれぞれの止め具とリングから外します。



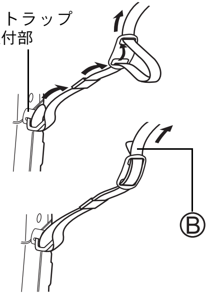
3 ストラップの先端（Ⓐ）を、手順1でレンズキャップに取り付けたレンズキャップ用ひもの一方に通します。カメラのストラップ取付部の金具にストラップの先端を通します。



4 図の矢印にしたがい、ストラップの先端をリングと止め具に通します。ストラップの長さを決めます。

5 ストラップの止め具のところ（Ⓑ）を引っ張ってゆるみをとり、ストラップが抜けないことを確かめます。

6 手順3～5にしたがって、もう一方の金具にもストラップを取り付けます。



注意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れて本体を落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

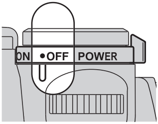
電池を入れる

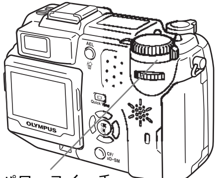
電池はリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個、または単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

重要

- **CR-V3は充電式電池ではありません。**
- **リチウム電池パックCR-V3のラベルは、はがさないでください。**

1 パワースイッチがOFFの位置に合っていることを確認します。



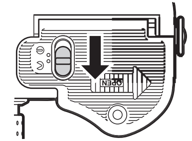


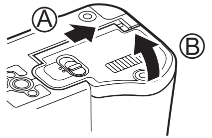
パワースイッチ

2 電池カバーロックを⊖から⊂の方向へスライドします。

3 電池カバーの ➡ マークに指をおいてⒶの方向へスライドさせ、Ⓑの方向に引き上げます。

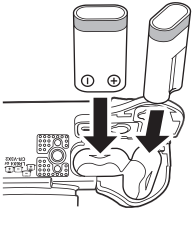
- カバーをスライドさせるときは指の腹を使って開けてください。爪などを使うとけがをすることがあります。





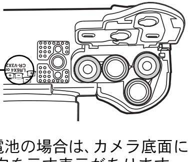
4 図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。

リチウム電池パックの場合



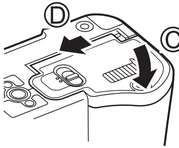
単3型電池の場合

電池挿入マーク



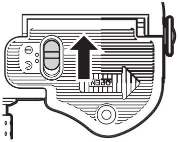
単3型電池の場合は、カメラ底面に電池挿入方向を示す表示があります。

5 電池カバーで電池を押さえながらⒸの方向に閉じて、Ⓓの方向にスライドさせます。



- カバーの端を押すと、カバーが閉まりにくくなります。
- 正しく閉じられると電池カバーは固定されます。

6 電池カバーロックを〈から⊖の方向へスライドします。



注意

- 電池を外して約1時間放置すると、初期状態に戻る設定もあります。

電池使用時のご注意

デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池やアルカリ電池などをお使いのときは、電池残量警告（P.24）が表示されずにカメラの電源がオフになる場合があります。

別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●リチウム電池パックCR-V3（充電できません）

リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）は寿命が長く、旅行などにも便利です。

●ニッケル水素電池（充電式電池）

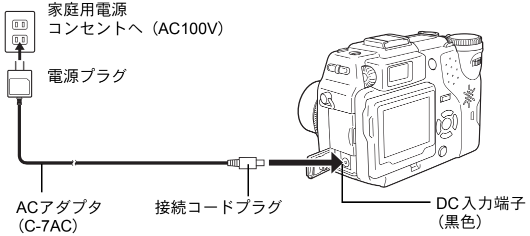
当社製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、繰り返し使用できるので経済的です。
ただし、電池の容量を使いきらずに充電を繰り返すと1回の使用時間が次第に短くなります。

●単3アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。ご使用の際は液晶モニタをこまめにお切りください。

●ACアダプタ

画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタの使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（C-7AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ず100Vでご使用ください。



注意

- マンガン電池は使用できません。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
  - 液晶モニタが点灯している。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - フルタイムAFをオンにしている。
  - パソコンとの接続時。
- 本書の「安全にお使いいただくために」(P.10）およびACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。
- カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。

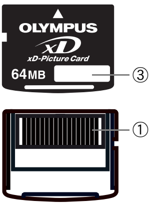
カードを入れる

本書では、xDピクチャーカード、スマートメディア、コンパクトフラッシュ、マイクロドライブを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。
xDピクチャーカードとスマートメディア、コンパクトフラッシュとマイクロドライブは、それぞれ同時に使うことはできません。

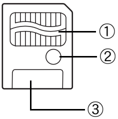
カードについて

カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。
以下のカードが使用できます。カードの取扱説明書を必ずお読みください。

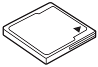
xDピクチャーカード（付属）
•16～128MB



スマートメディア（SM）（別売）
•4～128MB



コンパクトフラッシュ（CF）（別売）
•小型のフラッシュメモリーカード、市販のカードが使用できます。

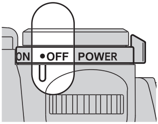


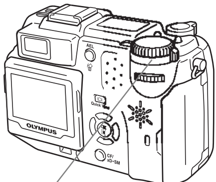
マイクロドライブ（別売）
•CF+Type II（コンパクトフラッシュの拡張規格）準拠のマイクロドライブが使えます。大容量で小型軽量のハードディスク•ドライブです。「マイクロドライブを使用する場合のご注意」（P.35）を必ずお読みください。

① 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。
② ライトプロテクトエリア
書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。xDピクチャーカードにはライトプロテクトエリアはありません。
③ インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入します。スマートメディアはカードに付属しているラベルを貼ります。

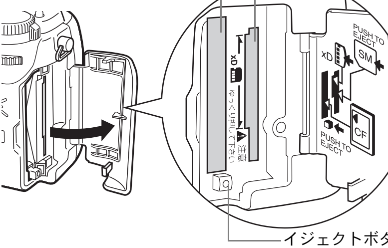
注意
- 2MBのスマートメディアは使用できません。
- 市販の5Vのスマートメディアは使用できません。
- 340MBのマイクロドライブは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）スマートメディアなど）や、パソコンなどの他の機器でフォーマット（初期化）したカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「カードのフォーマット」（P.178）

1 パワースイッチがOFFの位置に合っていることを確認します。





2 カードカバーを開けます。



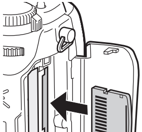
注意

• xDピクチャーカードとスマートメディア、コンパクトフラッシュとマイクロドライブは、それぞれ同じ挿入口を使います。1つの挿入口に2枚のカードを同時に入れることはできません。

3 カードを入れます。

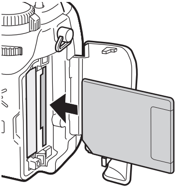
xDピクチャーカード

• xDピクチャーカード／スマートメディア用挿入口に、図の向きにまっすぐ奥まで差し込みます。
• 挿入口にxDピクチャーカードを入れる位置を示すイラストがあります。



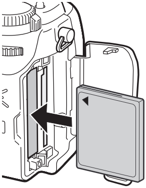
スマートメディア

- xDピクチャーカード／スマートメディア用挿入口に、図の向きにまっすぐ奥まで差し込みます。



コンパクトフラッシュ／マイクロドライブ

- コンパクトフラッシュ／マイクロドライブ用挿入口に、まっすぐ奥まで差し込みます。

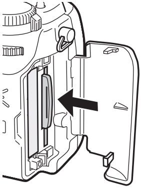


4 カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。

カードを取り出す

xDピクチャーカード

- カードを一度奥に押し込んで、そのままゆっくり戻します。
  カードが手前に出て止まります。カードをつまんで取り出します。

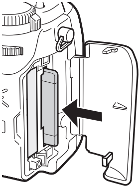


注意

カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

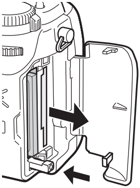
スマートメディア

- カードを一度奥に押し込んでからはなすと、カードが手前に出て、取り出せるようになります。



コンパクトフラッシュ／マイクロドライブ

- イジェクトボタンを一度奥に押します。
  イジェクトボタンが出てきます。
- イジェクトボタンを再度奥まで押し込むと、カードが出てきます。イジェクトボタンは押し込んだ位置でとまります。
- カードを指でつまんで取り出します。
- イジェクトボタンはゆっくり押してください。



注意

- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

カードを切り換える

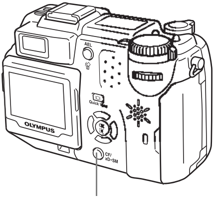
撮影した画像はコントロールパネル、または液晶モニタに表示されているカードに記録されます。記録するカードのタイプを選んでから撮影します。初期設定では、xDピクチャーカード／スマートメディア用挿入口に入っているカードが選択されています。カードが1枚しか入っていない場合は、そのカードが自動的に選択されます。カード切換えの機能は再生モードでも同様です。

1 カード切換えボタンを繰り返し押して、使用したいカードを選択します。

- コントロールパネルの表示が交互に切り換わります。



使用カード



カード切換えボタン

xD :xDピクチャーカード
SM :スマートメディア
CF ：コンパクトフラッシュ、またはマイクロドライブ

●マイクロドライブを使用する場合のご注意

マイクロドライブを使用する場合、次の制限があります。ご注意ください。また、お使いのマイクロドライブの取扱説明書を、よくお読みください。
大切な撮影には、xDピクチャーカード、スマートメディアまたはコンパクトフラッシュのご使用をおすすめします。

使用環境

マイクロドライブは小型軽量のハードディスク・ドライブです。回転系記録媒体なので、他のカードのような固体記録媒体に比べ、振動や衝撃に強くありません。
マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分注意してください。（特に記録中や再生中にはご注意ください。）

- 記録中にカメラを机の上にゴツンと置いたりしないでください。
- 肩からぶらさげたカメラを何かにぶつけないよう注意してください。
- 工事などで地盤が振動している場所では使用しないでください。
- 悪路を走る自動車など、カメラに激しく振動が伝わる乗り物の上では、使用しないでください。

マイクロドライブの取り扱い

- ・ラベルにはペンなどで書き込みをしないでください。
- ・ラベルをはがさないでください。
- ・ラベルを重ねて貼らないでください。
- ・持ち運びや保管の時は、マイクロドライブに同梱される専用保護ケースに入れてください。
- ・長時間使用すると熱くなることがあります。取り扱いには十分注意してください。
- ・強い磁気のある所へ近づけないでください。
- ・カバーを強く押さないでください。

カメラの操作

マイクロドライブを使用すると電池の消耗が早くなる場合があります。電池の消耗をおさえるためには、次のことに注意してください。

- ・撮影中はなるべく液晶モニタを使用しないでください。
- ・特に必要がなければ、xDピクチャーカードまたはスマートメディアを同時に使用しないでください。xDピクチャーカードまたはスマートメディアは取り出しておいてください。
- ・リチウム電池パックCR-V3など、容量の大きな電池をお使いください。
- ・スイッチ類を操作してもまったく動作しない場合は、一度電池を抜いて入れなおしてください。
- ・電池が消耗しているときにマイクロドライブを使用すると、カメラの電源が入らない場合があります。

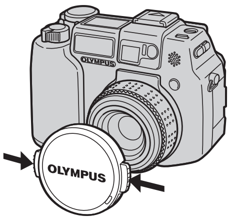
「このカードは使用できません」と表示された場合

- ・画像の記録や読み出しができなくなった場合は、パソコンでSCANDISKをかけてください。☞ 「エラーコード表示」（P.208）

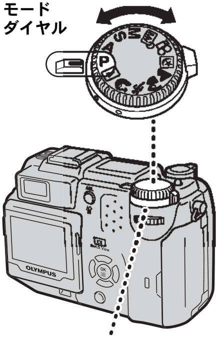
電源のON／OFF

●撮影するとき（撮影モード）

1 レンズキャップのつまみを図の矢印のように押して、レンズキャップを外します。

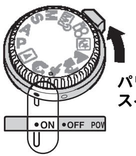


2 モードダイヤルを回して、P / A / S / M / My / 動画 / 夜景 / 風景 / 風景＆人物 / スポーツ / 人物 から使いたいモードを赤い線の位置に合わせます。

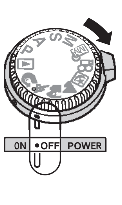


3 パワースイッチを回して、ONを白い線の位置に合わせます。

- 電源が入り、レンズがせり出してきます。
- レンズキャップがついていると警告音が鳴り、電源が入りません。必ず、レンズキャップを外してください。



4 パワースイッチを回して、OFF を白い線の位置に合わせると、電源が切れます。

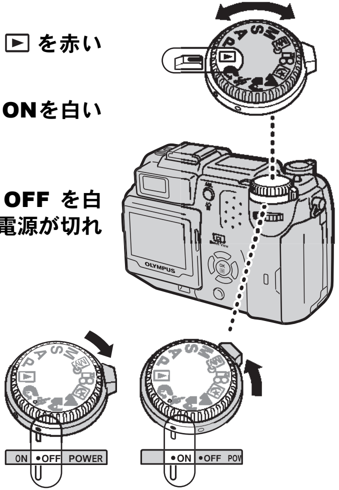


●再生するとき（再生モード）

1 モードダイヤルを回して、▶ を赤い線の位置に合わせます。

2 パワースイッチを回して、ONを白い線の位置に合わせます。
- 液晶モニタが点灯します。

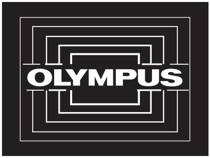
3 パワースイッチを回して、OFF を白い線の位置に合わせると、電源が切れます。
- 液晶モニタが消灯します。



ヒント
- 電源を入れたまま約 3 分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になります。ズームレバーやシャッターボタンなどを操作するとスリープモードは解除されます。
- 電源を入れたまま約4時間何も操作しないと、電源の消耗を防ぐために自動的に電源がオフになり、レンズが収納されます。もう一度、電源を入れてください。

スタートアップ／シャットダウン画面

電源をON／OFFすると、液晶モニタに画像が表示され、音声が再生されます。このときの画像と音声を自分で登録することができます(P.189)。また、音量を調整することもできます(P.188)



スタートアップ／シャットダウン画面（初期設定）

カードが認識されないときは（カードチェック）

電源をONにすると、カードチェックが自動的に行われます。カードが入っていなかったり、このカメラで使用できないカードが入っているときは、以下の画面が表示されます。

注意
- フォーマット（初期化）するとカード内の全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

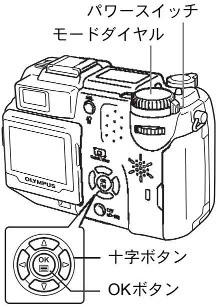
コントロールパネル	液晶モニタ表示	こうしましょう
- - -	[!] カードを認識できません	カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。 → カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
xD - E -	[!] このカードは使用できません	カードに問題があります。 → このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
xD - F -		カードがこのカメラのシステムでは読み込めません。 カードをフォーマットするか、新しいカードに入れ換えます。 → 十字ボタンの△▽を押して［電源オフ］を選択し、OKボタンを押して新しいカードを入れてください。 → カードをフォーマットしてください。 十字ボタンの△▽を押して［フォーマット］を選択し、OKボタンを押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度［フォーマット］を選択してOKを押します。 フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

1 準備

表示言語を切り換える

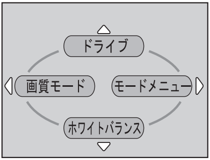
液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることもできます。日本語に戻すこともできます。

1 モードダイヤルをP にして、パワースイッチをONにします。
- 電源を入れる前に、必ずレンズキャップを外してください。
- **P** の他、すべてのモードで設定できます。



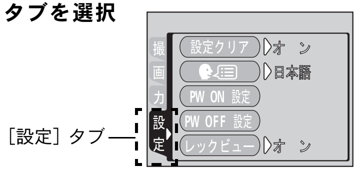
2 OK ボタンを押します。
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▷を押して［モードメニュー］を選択します。

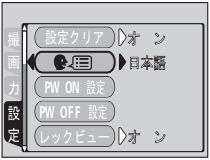


トップメニュー画面

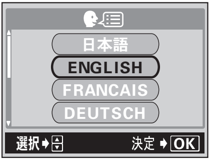
4 △▽を押して［設定］タブを選択し、▷を押します。



5 △▽を押して［ ］を選択し、▷を押します。

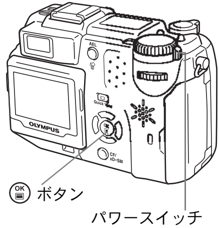


6 ⊜⊝を押して表示したい言語を選択し、㊞を押します。



7 再度㊞を押してメニューを終了します。

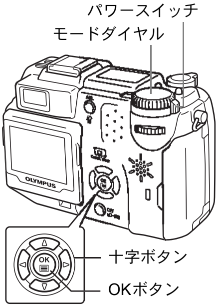
8 電源を切るときは、パワースイッチをOFFにします。



日付・時刻を設定する

1 モードダイヤルをにP して、パワースイッチをONにします。

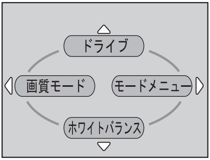
- 電源を入れる前に、必ずレンズキャップを外してください。
- **P** の他、すべてのモードで設定できます。



2 (OK) ボタンを押します。

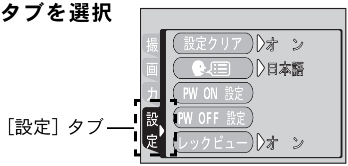
- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの▷を押して［モードメニュー］を選択します。



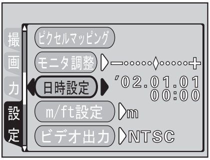
トップメニュー画面

4 △▽を押して［設定］タブを選択し、▷を押します。



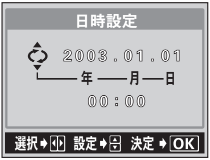
5 △▽を押して［日時設定］を選択し、▷を押します。

- 選択した項目に緑の枠が移動します。



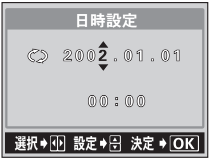
6 ⊜⊝を押して日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、⊳を押します。

- 年の入力に移動します。
- 以下の手順は"年-月-日"に設定した場合の説明です。



7 ⊜⊝を押して最初の項目を入力し、⊳で次の項にすすみます。

- ⊲を押すと、1つ前の項目に戻ります。"年"の上2桁は固定されています。

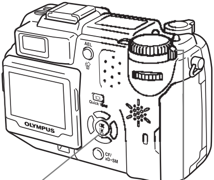


8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

9 ⓞを押します。

- 0秒の時報に合わせてⓞを押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

10 電源を切るときは、パワースイッチをOFFにします。



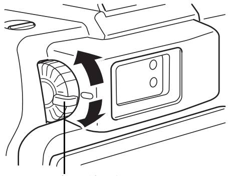
注意

- 電源を切っても、日時の設定は変更するまで保持されます。
- 電池を抜いた状態で約1時間放置すると、日時の設定は解除されます（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。

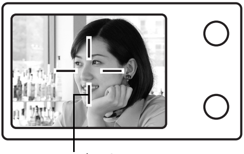
ファインダを見やすくする

より使いやすくするために、お使いになる方の視力に合わせてファインダを調整することができます。

1 ファインダをのぞきながら、視度調節ダイヤルを少しずつ回します。



2 AFターゲットマークがはっきり見えるところにダイヤルを合わせます。

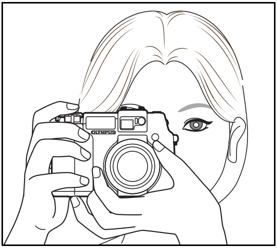


2 撮影と再生の基本

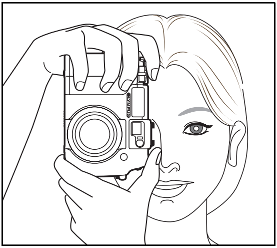
カメラの正しい構え方

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。縦位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにします。
レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

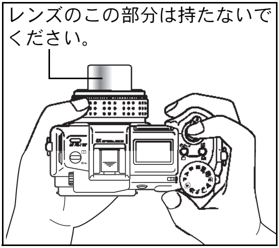
横位置



縦位置



上面図



- シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

注意

静止画を撮る

ファインダを見て撮る方法と、液晶モニタを見て撮る方法があります。

ファインダを見て撮る

ファインダをとおして決めた構図よりも、やや広い範囲が撮影されます。

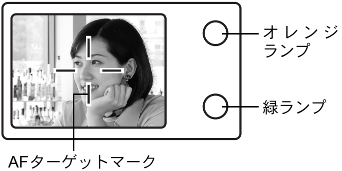
モードダイヤル設定 P A S M

1 モードダイヤルを P A S M にして、パワースイッチをONにします。

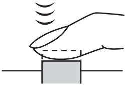
☞「電源のON／OFF」（P.37）



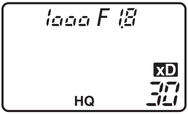
2 ファインダ内のAFターゲットマークに被写体を合わせます。



3 シャッターボタンを軽く押して（半押し）、ピントを合わせます。

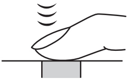


- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- フラッシュが自動で発光するときは、オレンジランプが点灯します。
- コントロールパネルにカメラが自動的に決めたシャッター速度や絞り値が表示されます。



Pモードの時

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。



- 撮影されます。
- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。
- 緑ランプの点滅が終わると、次の撮影が可能になります。

ヒント

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。20cm以上離れて撮影してください。スーパーマクロモードに設定すると、約3cmまで近づいて撮影できます。（P.114）

→ 被写体の条件によってはピントや露出が固定されないことがあります。☞「オートフォーカスが苦手な被写体」（P.53）

シャッターボタンを半押ししたときに、オレンジランプが点滅している

→ フラッシュ充電中です。消灯するまでお待ちください。

撮影した画像をすぐに確認したい

→［レックビュー］を［オン］にします。☞「レックビュー」（P.184）

撮影時の音声を録音したい

→ 静止画撮影時、音声が録音できます。［スチル録音］を［オン］に設定してください。☞「スチル録音」（P.126）。また、撮影後の画像に後から音声メモを録音することもできます ☞「音声の録音」（P.156）。

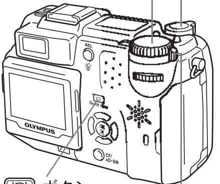
液晶モニタを見て撮る

実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。また、絞り値やシャッター速度などの撮影状態を確認しながら撮影できます。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 モードダイヤルを P A S M にして、パワースイッチをONにします。

☞「電源のON／OFF」（P.37）



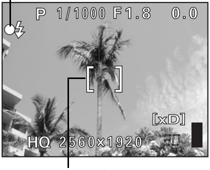
2 を押して、液晶モニタを点灯させます。

- 液晶モニタの角度を変えて、撮影することもできます。

3 液晶モニタを見ながらAFターゲットマークに被写体を合わせます。構図を決めます。

4 ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します。

☞「ファインダを見て撮る」（P.46）

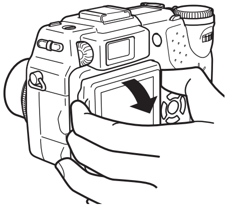


- シャッターボタンを半押ししてピントが合ったときは、液晶モニタの緑ランプが点灯します。ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。ねらった被写体にピントが合わない場合は、AF方式をスポットに設定して撮影してください。☞「AF方式－ピント合わせの範囲を変える」（P.102）

●液晶モニタの角度を変える

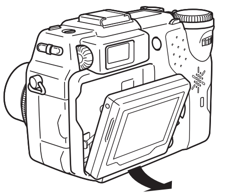
ローアングルでの撮影など、ファインダや液晶モニタが見にくい角度で撮影するときに便利です。

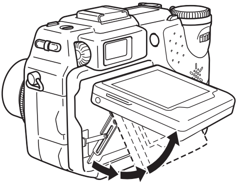
1 液晶モニタの図の位置に指をかけて、液晶モニタの上部を引き出します。



2 液晶モニタを上に向けて使うときは、図のように液晶モニタの下部を持って角度を変えます。

- 液晶モニタは下向きに 20 度、上向きに20度、45度、90度の位置でとまります。
- ハイアングルでの撮影は右の図の状態で使用すると便利です。





ヒント

液晶モニタが点灯しない

→ 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームレバーを操作すると再び点灯します。

液晶モニタが見にくい

→ 晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダを使って撮影してください。

ピントの合っている範囲を確認したい

→ シャッターボタンを半押ししているときに を押すと、ピントの合っている範囲が拡大表示されます。もう一度 を押すと、元に戻ります。デジタルズーム領域では拡大できません。☞「デジタルズームを使う」（P.57）



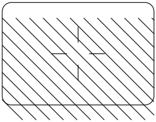
「ファインダを見て撮る」のヒント（P.47）も参照ください。

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
- 電源を OFF にしたり、電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- カードアクセスランプの点滅中は、絶対に電池やACアダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつくことがあります。
- 明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合がありますが、撮影画像への影響はありません。

ファインダと液晶モニタを使い分ける

	ファインダ	液晶モニタ
長所	手ぶれがしにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。（約80cm～遠距離）	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいとき。人物や花のアップなど被写体が80cm以内のとき。（マクロ撮影）



- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 左図のように写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

ピントが合わないときは

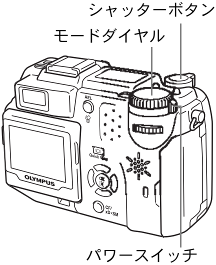
ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときは、次の操作で構図の好きな場所にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

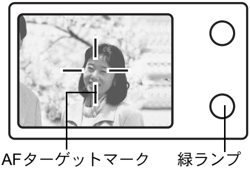
1 モードダイヤルを P A S M にして、パワースイッチをONにします。

☞ 「電源のON／OFF」（P.37）



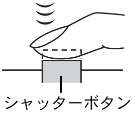
2 ピントを合わせたいものにAFターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。



3 シャッターボタンを、緑ランプが点灯するまで半押しします。

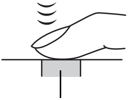
- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- 液晶モニタを点灯させているときは、ピントの合った位置にAFターゲットマークが移動します。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントと露出が固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。



4 **半押しの状態のまま撮影したい構図にします。**



5 **シャッターボタンを全押しします。**

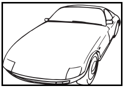


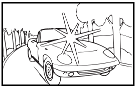
ヒント
ピント合わせをする構図と露出を合わせたい構図が異なる
☞ 「AEロック撮影－露出を固定するには」（P.111）

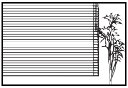
オートフォーカスが苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。
いずれの方法でもピントが合わない場合は、マニュアルフォーカスを使用してください。☞ 「マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる」（P.106）

緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

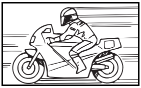

コントラストがはっきりしない被写体


画面中央に極端に明るいものがある場合


縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない


遠いものと近いものが混在する場合


動きの速いもの


ピントを合わせたいものが中央にない

ムービーを撮る

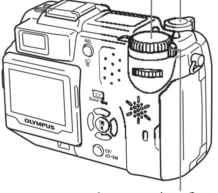
ムービー（動画）を撮影します。音声も同時に記録されます。撮影中はピントとズームが固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなる場合があります。

モードダイヤル設定

1 モードダイヤルを にして、パワースイッチをONにします。

「電源のON／OFF」（P.37）

- 液晶モニタが点灯し、使用しているカードで記録できる撮影可能秒数が表示されます。



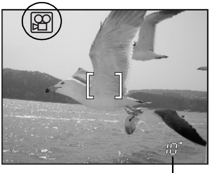
2 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

- ズームレバーで被写体を拡大できます。



3 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- ファインダ横のオレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は マークが赤く点灯します。
- ピントとズームは固定されます。



撮影可能秒数

4 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- カードアクセスランプが点滅し、カード記録が始まります。
- 撮影可能秒数が0になると、自動的に撮影を終了します。
- カードに空き容量がある場合は、撮影可能秒数が表示され、次の撮影ができます。

ヒント

撮影中、常に被写体にピントを合わせたい

→［ムービー録音］を［オフ］に設定して、［フルタイムAF］を［オン］に設定します。☞「フルタイムAF－ピント合わせの時間を短くする」（P.103）

注意

- 撮影中、カードの状態によっては、撮影可能秒数が急激に減ることがあります。この場合は、このカメラでカードをフォーマットしてから使用してください。☞「カードのフォーマット」（P.178）。
- ムービー録音がオンに設定されているときは、撮影中の光学ズーム使用はできません。撮影中にズームするには［デジタルズーム］を［オン］に設定してください。☞「デジタルズームを使う」（P.57）
- ムービー録音がオンに設定されているときは、手順3でシャッターボタンを押したときのピントで撮影されます。被写体との距離が変化すると、ピントが合いにくくなることがありますので、ご注意ください。
- 🎥 モードでは、フラッシュ、MF（マニュアルフォーカス）は使用できません。また、ファンクション撮影の白板、黒板モードは選択できません。

長時間ムービー撮影をする場合のご注意

- 撮影中は、再度シャッターボタンを押してムービー撮影を終了しない限り、カードの空き容量がなくなるまで撮影は続きます。
- 長時間撮影したムービーは編集できません。（P.161）
- 一度のムービー撮影でカードの空き容量がなくなったときは、その画像を消去するか、パソコンにダウンロードしてから消去して、カードに空きを作ってください。

拡大して撮る

ズーム倍率3.0倍（光学ズーム35mmカメラ換算：35mm~105mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約10倍の撮影が可能です。

光学ズームを使う

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 モードダイヤルを P A S M にして、パワースイッチをONにします。

☞ 「電源のON／OFF」（P.37）



2 ズームレバーを回します。

広角：ズームレバーをW側に回す　望遠：ズームレバーをT側に回す



2

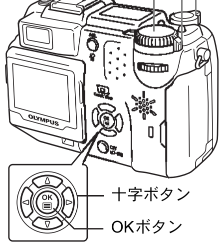
撮影と再生の基本

デジタルズームを使う

モードダイヤル設定 ▶ P A S M [My] [動画] [夜景] [風景] [風景人物] [スポーツ] [人物]

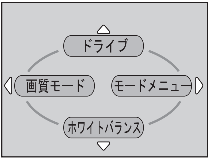
1 モードダイヤルを P A S M [My] [動画] [夜景] [風景] [風景人物] [スポーツ] [人物] にして、パワースイッチをONにします。

☞「電源のON／OFF」（P.37）



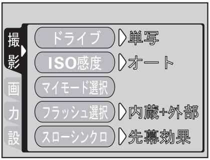
2 [OK] を押します。

• トップメニューが表示されます。

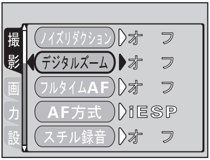


3 [▷] を押して［モードメニュー］を選択します。

4 [△][▽] を押して［撮影］タブを選択し、[▷] を押します。



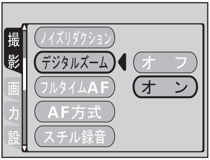
5 [△][▽] を押して［デジタルズーム］を選択し、[▷] を押します。



2 撮影と再生の基本

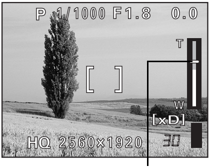
6 ⊘⊘を押して[オン]を選択し、㊐を押します。

• 再度 ㊐ を押すとメニューが終了し、液晶モニタに被写体が表示されます。



7 ズームレバーを T 側に回します。

• ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。



ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。
デジタルズームの領域に入るとカーソルがオレンジになります。

注意

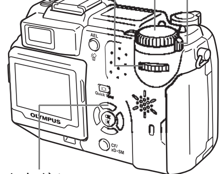
• 🎥 モードでは、デジタルズームの倍率が最大2.5倍になります。
• デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
• 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
• 液晶モニタを消灯させるとデジタルズームは解除されます。ただし、デジタルズームがオンに設定されている場合、再び液晶モニタを点灯させるとデジタルズームが使用できる状態になります。

静止画を見る

モードダイヤル設定 ▶ ▶

1 モードダイヤルを ▶ にして、パワースイッチをONにします。

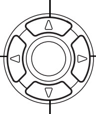
☞「電源のON／OFF」（P.37）



- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 十字ボタンまたはダイヤルで、見たい画像を表示します。

• 十字ボタン



• ダイヤル



注意

- 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。 などのボタンを操作すると再び点灯します。

2 撮影と再生の基本

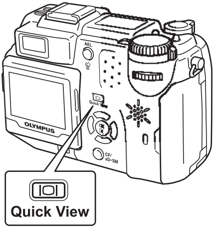
簡単再生（Quick View）

撮影モードのままで画像を再生することができます。撮影した画像を確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。
簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 撮影モードで [QUICK VIEW] をすばやく 2 回続けて押します。（ダブルクリック）

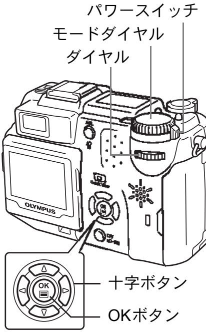
- すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）



2 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

ムービーを見る

モードダイヤル設定 ▶ [▶]



1 モードダイヤルを ▶ にして、パワースイッチをONにします。

☞「電源のON／OFF」（P.37）

- 液晶モニタが点灯します。



2 十字ボタンまたはダイヤルで、再生したい 🎥 マークの付いた画像を表示させます。

☞「静止画を見る」（P.59）



3 Ⓞ を押します。

- トップメニューが表示されます。

4 △を押して［ムービープレイ］を選択します。



5 △▽を押して［ムービー再生］を選択し、Ⓞ を押します。

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻ります。

• 再生終了後に、再び ⓞ を押すとメニューが表示されます。



再生　もう一度再生します。
コマ送り　コマ送りをします。
中止　再生を中止します。

△ ▽を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選択し、ⓞ を押します。

●［コマ送り］を選択したときの操作

△　：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽　：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷　：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁　：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
ⓞ　：ムービー再生メニューが表示されます。

ヒント
• 撮影モードからも簡単再生（Quick View）でムービーを再生できます。☞「簡単再生（Quick View）」（P.60）

注意
• カードアクセスランプが点滅しているときは、カードからカメラへの画像の読み出しが行われています。画像の読み出しには時間がかかることがあります。カードアクセスランプの点滅中は、絶対にカードカバーを開けないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、カードが破壊され使用できなくなる場合があります。

画像にプロテクトをかける

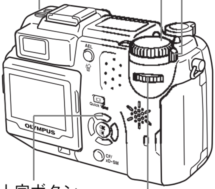
残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

モードダイヤル設定 ▶ ▶

1 モードダイヤルを ▶ にして、パワースイッチをONにします。

☞「電源のON／OFF」（P.37）

- 液晶モニタが点灯します。



2 十字ボタンまたはダイヤルで、プロテクトをかけたい画像を表示します。

☞「静止画を見る」（P.59）

3 （プロテクト）ボタンを押します。

- プロテクトを解除するには、再び ボタンを押します。



プロテクトされると表示されます。

注意

- プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるスマートメディアはプロテクト操作できません。

2 撮影と再生の基本

画像を消去する（1コマ消去）

ここでは再生中のコマのみを消去する1コマ消去について説明します。カード内の全ての画像を消去する方法もあります。☞「全コマ消去」（P.166）

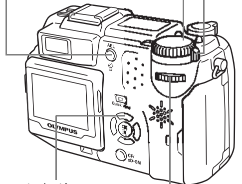
注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合、またはライトプロテクトシールが貼ってあるスマートメディアに画像が保存されている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除する、またはライトプロテクトシールをはがす、などの操作を行ってから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクトをかける」（P.63）
- パソコンを使ってプロテクト（読み取り専用）を設定した画像も消去されます。プロテクトはカメラを使って設定してください。☞「画像にプロテクトをかける」（P.63）

モードダイヤル設定 ▶ ▭ ▶

1 モードダイヤルを ▶ にして、パワースイッチをONにします。
☞「電源のON／OFF」（P.37）

- 液晶モニタが点灯します。



2 十字ボタンまたはダイヤルで、消去したい画像を表示します。
☞「静止画を見る」（P.59）

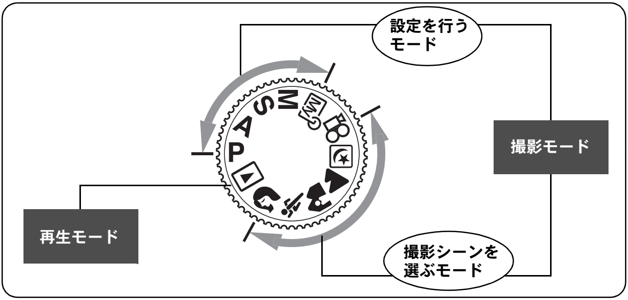
3 （消去）ボタンを押します。
- 「1コマ消去」画面が表示されます。

4 ⊗⊗を押して[消去]を選択し、㊫を押します。
- 画像が消去され、メニューが終了します。



モードダイヤルについて

モードダイヤルを合わせて、撮影／再生の切り換えをします。撮影モードには、モードダイヤルを合わせるだけで撮影シーンに適した設定が用意されているモードと、撮影状況や表現したい内容に合わせて設定を行うモードがあります。



設定を行うモード P A S M

P プログラム撮影

絞り値とシャッター速度はカメラが自動的に決めて、静止画を撮影します。フラッシュモードやドライブなどのその他の機能は、自由に設定できます。

A 絞り優先撮影

絞り値を自分で設定できます。シャッター速度はカメラが自動的に設定します。絞り値（F値）を小さくすると、ピントの合う範囲が狭くなって、背景のぼけが強くなります。絞り値を大きくすると、ピントの合う範囲が前後に広くなって、背景にもピントが合いやすくなります。背景の描写に変化をつけたいときに、このモードをお使いください。

☞「絞り優先撮影」（P.97）





絞り値(F値)を小さくする　　絞り値(F値)を大きくする

S シャッター優先撮影

シャッター速度を自分で設定できます。絞り値はカメラが自動的に設定します。目的に応じて、シャッター速度を設定してください。

☞「シャッター優先撮影」(P.98)



シャッター速度を速くすると、すばやい動きをとらえて止まっているように撮影します。



シャッター速度を遅くすると、動いているものはぶれて撮影されます。このぶれが躍動感や動きのある仕上がりになります。

M マニュアル撮影

絞り値とシャッター速度を自分で設定します。適正露出かどうかは、露出レベル表示で確認できます。このモードでは、適正露出にとらわれることなく、独自の撮影意図を反映することができます。

☞「マニュアル撮影」(P.99)

マイモード撮影

撮影に関する各種機能を設定し、マイモードとして登録しておくと、オリジナルのモードで撮影することができます。現在使用している設定をこのモードで呼び出せるように登録することもできます。☞「マイモード設定」（P.175）
☞「マイモード撮影」（P.101）

撮影シーンを選ぶモード

ムービー撮影

ムービー（動画）を撮影します。絞り値とシャッター速度は、カメラが自動的に決めます。音声も同時に記録されます。撮影中はピントとズームが固定されますので、被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなる場合があります。（フルタイムAFがオフの場合（初期設定））。
☞「ムービーを撮る」（P.54）

夜景撮影

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。**P** モードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景撮影モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。





風景撮影

風景を撮るのに最適です。近景から遠景までピントが合うように写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のなかでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

記念写真撮影

人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。空・緑・人物をきれいに撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

スポーツ撮影

スポーツなどの動きのある被写体を撮るのに最適です。すばやい動きのものでも、止まっているように撮れるので、人物の表情など、被写体の様子も逃しません。カメラが自動的に撮影に適した条件を設定します。

ポートレート撮影

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

再生モード

撮影した静止画やムービーを再生します。画像の編集やプリント設定も再生モードで行います。
カメラをパソコンに接続するときも、このモードで行います。

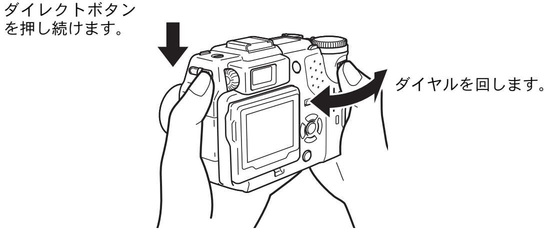
注意
• モードによって設定可能な機能は異なります。☞「撮影モード別の設定可能な機能」（P.224）

ダイレクトボタンについて

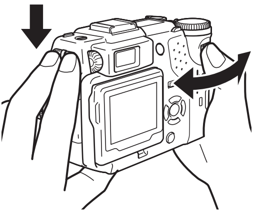
このカメラには、撮影や再生に関するいろいろな機能をすばやく操作・設定できるダイレクトボタンがあります。ダイレクトボタンは、撮影モードと再生モードでそれぞれ異なった機能を持っています。ダイレクトボタンを1個または2個同時に押しながらダイヤルを回して、設定項目の選択や設定値の変更など各機能の設定を行います。
ダイレクトボタンを繰り返し押して設定する場合もあります。

ダイレクトボタンとダイヤル

±（露出補正）ボタンや⚡（フラッシュモード）ボタンなどダイレクトボタンを押しながら、ダイヤルを回すと、各機能の設定値を変更することができます。
左手または右手でダイレクトボタンを押しながら、右手親指でダイヤルを回すと、スムーズに操作できます。±（露出補正）ボタンと⚡（フラッシュモード）ボタンを同時に押しながら、ダイヤルを回して設定する機能もあります。



●2つのダイレクトボタンを同時押しする場合



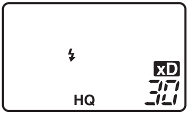
ダイレクトボタンの操作の流れ

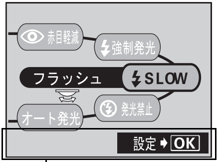
ダイレクトボタンとダイヤルを使って設定する操作の流れを以下に示します。ダイレクトボタンを押すと、液晶モニタに設定画面が表示されますので、画面下に表示される操作ガイドにしたがって設定していきます。

例）フラッシュモードボタンを使う

1 ϟ（フラッシュモード）ボタンを押しながら、ダイヤルを回して、フラッシュモードを選択します。

- 液晶モニタが点灯し、設定画面が表示されます。
- ダイレクトボタンから指をはなすとその時点で設定され、液晶モニタが消灯します。





操作ガイド：
更に細かい設定ができるときに表示されます。

2 ϟ ボタンを押した状態で、(OK) を押してメニューを表示させます。
メニューが表示されたあとは、ダイレクトボタンから指をはなします。

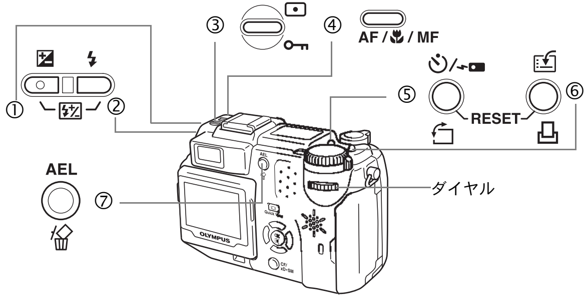


操作ガイド：
操作可能なボタンが表示されます。

3 △▽ を押して選択し、(OK) を押します。

ダイレクトボタンの機能

●撮影モード

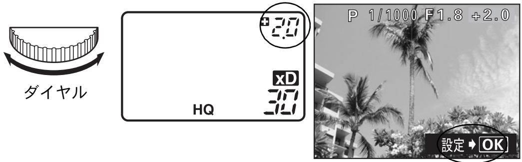




ダイレクトボタンを押しながらダイヤルを回して、機能の設定を行うことを示しています。

①	(露出補正)ボタン	☞ P.134

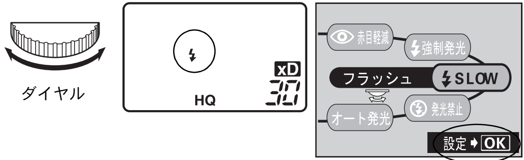
露出補正値を変更します。



ヒストグラム表示の設定ができます。☞ P.147

②	ϟ（フラッシュモード）ボタン	☞ P.85

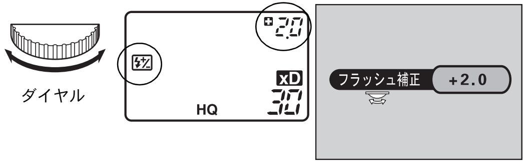
フラッシュモードをオート発光（表示なし）、赤目軽減（◉）、強制発光（ϟ）、スローシンクロ（ϟ SLOW／◉ϟ SLOW）、発光禁止（⊛）から選択します。



スローシンクロの設定ができます。☞ P.90

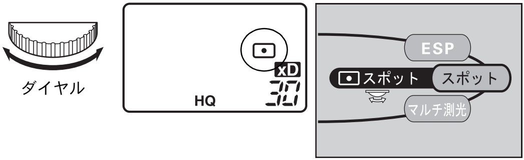
①+② 同時押し	（フラッシュ補正）ボタン	☞ P.91

フラッシュの発光量を調節します。



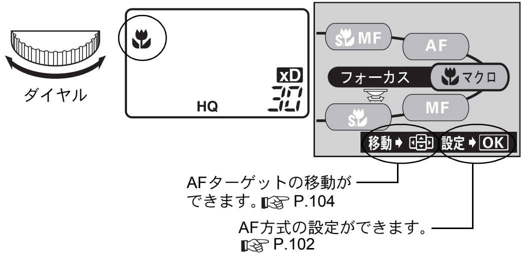
③	（測光）ボタン	☞ P.108, 109

測光方式をESP測光（表示なし）、スポット測光（▣）、マルチ測光（MULTI）から選びます。



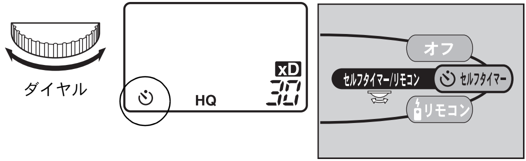
④	**AF / 🌷 / MF**（AF／マクロ／ＭＦ）ボタン☞ P.106, 113, 114

フォーカスモードをオートフォーカス(表示なし)、マクロ(🌷)、マニュアルフォーカス(MF)、スーパーマクロ(🌷点滅)、スーパーマクロMF(MF点滅)から選択します。



⑤	（セルフタイマー／リモコン）ボタン ☞ P.115, P.116

セルフタイマー撮影( )、リモコン撮影( )をします。



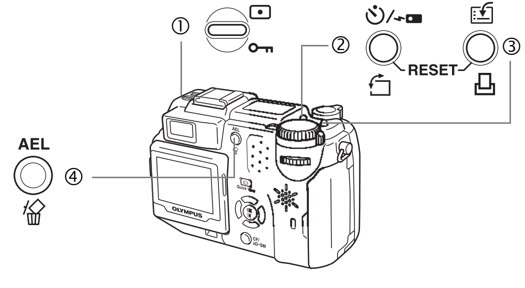
⑥	（カスタム）ボタン ☞ P.169

カスタムボタン設定で登録した機能の設定をします。
機能の登録方法やボタンの使い方は「カスタムボタン設定」(P.169)を参照してください。

⑦	AEL（AEロック）ボタン ☞ P.111

露出を固定します。押すたびにロックと解除を繰り返します。

● 再生モード

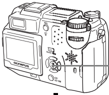


①	（プロテクト）ボタン	☞ P.63
	大切な画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。	
②	（回転再生）ボタン	☞ P.155
	撮影した画像を時計回り（+90°）、または反時計回り（-90°）に回転して表示します。	
③	（プリント予約）ボタン	☞ P.200
	カードにプリント予約します。	
②+③ 同時押し	RESET（カメラリセット）ボタン	☞ P.196
	同時に3秒以上押すと、カメラ内の設定がリセットされます。	
④	（消去）ボタン	☞ P.64
	選択した画像を消去します。	

4 メニューとタブのしくみ

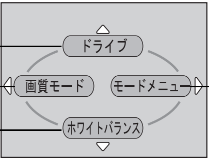
メニューについて

カメラの電源がONのときに Ⓞ ボタンを押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは **P** モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。



Ⓞ ボタンを押します。

トップメニューが表示されます。





十字ボタンでメニューを選択します。

ショートカットメニュー

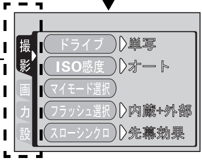
- 直接、各項目の設定画面に進みます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示されます。
- ショートカットメニューに登録した機能をモードメニューから設定することもできます。
- 🎥 ▶ モード以外のショートカットメニューは、変更することができます。☞「ショートカット設定」（P.172）



モードメニュー

- ISO感度やシャープネスなどいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとに4つのタブで分類されています。
- ⊚ ⊚ボタンでタブを選択すると［撮影］［画像］［カード］［設定］のそれぞれのメニュー項目が表示されます。

タブ



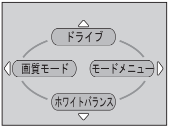
4

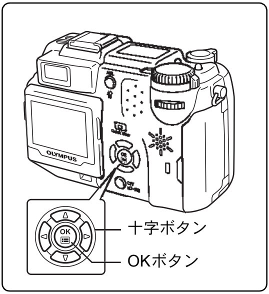
メニューとタブのしくみ

メニューの操作方法

1 OKを押してトップメニューを表示させ、▷を押します。

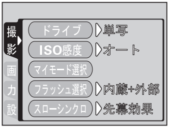
トップメニュー





2 △▽を押してタブを選択し、▷を押します。

撮影タブ

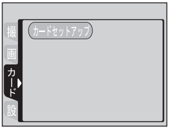


◁を押すとタブの選択に戻ります。

画像タブ



カードタブ

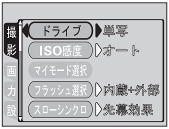


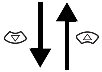
設定タブ

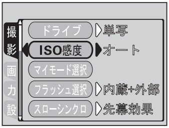


3 △ ▽ を押して設定する項目を選択し、▷ を押します。

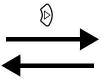
4 △ ▽ を押して設定を変更します。OK を押すと設定が完了します。
再度 OK を押すと、メニューが終了し、撮影できる状態になります。





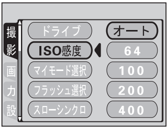


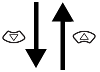
選択された項目に緑色の枠が移動します。

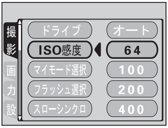


◁ または OK

◁ または OK を押すとメニュー項目の選択に戻ります。







注意

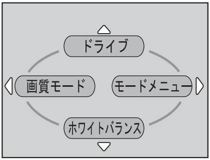
- カメラの状態や設定内容などにより選択できない項目があります。
- 撮影時に設定メニュー以外のメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定状態で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、［設定クリア］の機能を［オフ］に設定してください。☞「設定クリアー設定を保持するには」（P.167）

ショートカットメニュー一覧

●撮影モード

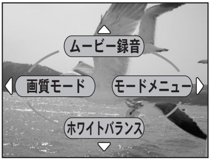
P A S M モードのショートカットメニューは他の機能に変えることができます。「ショートカット設定」（P.172）
また、ショートカットメニューに登録した機能はモードメニューから設定することもできます。
ここでは、初期設定で登録されているショートカットメニューを説明しています。

P A S M モード
（静止画撮影時）



（初期設定）

モード
（ムービー撮影時）



ドライブ

撮影方法を［単写］［高速連写］［連写］［AF連写］［BKT］から選択します。	P.118

ムービー録音

ムービー撮影時に音声を録音します。	P.127

画質モード

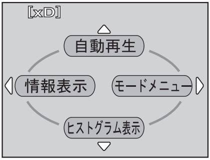
撮影する画像の画質や画像の画像サイズを選択します。 静止画　：RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.128

ホワイトバランス

光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.136

●再生モード

静止画再生時



ムービー再生時



自動再生

記録されている静止画を順に表示します。	P.153

ムービープレイ

ムービー再生	ムービーを再生します。	P.61
インデックス作成	撮影したムービーを 9 分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.161
ムービー編集	ムービーの編集を行います。	P.163

情報表示

画像の撮影情報をすべて表示します。	P.180

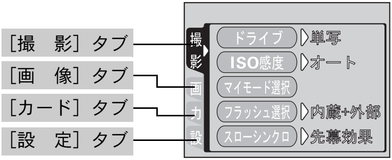
ヒストグラム表示

静止画再生時にヒストグラム（輝度分布）を表示します。	P.147

モードメニュー一覧

モードメニューの中は4つのタブに分けられています。△▽ボタンを押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

●撮影モード



［撮　影］タブ		
ドライブ	撮影方法を[単写][高速連写][連写][AF連写][BKT]から選択します。	P.118
ISO感度	ISO感度を［オート］［64］［100］［200］［400］から選択します。	P.133
マイモード選択	My モード撮影時に使用するマイモードを選択します。	P.101
フラッシュ選択	外部フラッシュを使用して撮影するときに、［内蔵＋外部］［外部］［スレーブ］から選択します。［スレーブ］を選択した場合は、内蔵フラッシュの発光量を調整します。	P.92
スローシンクロ	フラッシュモードをスローシンクロに設定したときの効果を［先幕効果］［赤目・先幕効果］[後幕効果]から選びます。	P.90
ノイズリダクション	長時間露光時に、画像に発生するノイズを軽減します。	P.145
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率（最大約10倍）のズーム撮影が可能です。	P.57
フルタイムAF	シャッターボタンを半押ししなくても、カメラを向けている被写体に常にピントを合わせます。	P.103
AF方式	オートフォーカスの方式を［iESP］［スポット］から選択します。	P.102
スチル録音	静止画撮影時に音声を録音します。	P.126

パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.121
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.123
ファンクション撮影	［モノクロ］［セピア］［白板］［黒板］の特殊効果をつけた撮影をします。	P.125
ヒストグラム表示	画像のヒストグラム（輝度分布）を表示します。	P.147

［画　像］タブ		
画質モード	撮影する画像の画質や画像の画像サイズを選択します。 静止画　：RAW、TIFF、SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.128
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.136
WB補正	ホワイトバランスを微調整します。	P.141
カスタムWB登録	お好みのホワイトバランスの設定を登録します。	P.138
シーンプリセット	［ポートレート］［風景］［夜景］の撮影に適した画質にします。	P.145
シャープネス	画像の鮮鋭度を調節します。	P.142
コントラスト	画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。	P.143
彩度	色合いを変化させずに色の濃さを調節します。	P.144

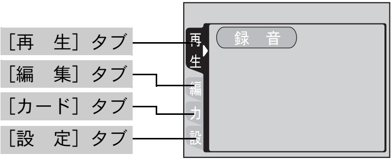
［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.178

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.167
	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.40

4
メニューとタブのしくみ

PW ON設定	電源をONにしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。	P.189
PW OFF設定	電源をOFFにしたときに液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。	P.189
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示するかどうか選択します。	P.184
ビープ音	カメラの警告音をオフにしたり、その音量を変更します。	P.185
シャッタ音	シャッターボタンを押すときの音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.187
操作音	カメラの操作音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.186
マイモード設定	MY モードで撮影するときの設定を登録します。	P.175
ファイル名メモリー	ファイル名のつけかたを変更します。	P.192
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックを行います。	P.193
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.183
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.42
m／ft設定	マニュアルフォーカス時に表示される長さの単位をメートル、またはフィートに切り換えます。	P.194
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて[NTSC][PAL]から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.195
ショートカット設定	お好みの機能をショートカットメニューに登録します。	P.172
カスタムボタン設定	お好みの機能をカスタムボタンに登録します。	P.169
スーパーコンパネ	液晶モニタを使用して撮影していないときに、液晶モニタにコントロールパネルと同様の情報を表示します。	P.181
AFイルミネータ	低輝度時にAFイルミネータを点灯させます。	P.105

●再生モード



［再　生］タブ※		
録音	撮影した静止画に音声を記録します。	P.156

※［再生］タブはムービー再生時は表示されません。

［編　集］タブ		
RAW編集	RAWで撮影した画像の画質やホワイトバランスなどを設定して、別の画像として保存します。	P.160
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくして、別の画像として保存します。	P.158
トリミング	撮影した画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。	P.158
コピー	画像をカード間でコピーします。［全コマ］［選択コマ］から選びます。	P.165

［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.178
	カード内の全ての画像・データを消去します。	P.166

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.167
	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.40
PW ON設定	電源をONにしたときに液晶モニタに表示されるスタートアップ画面の選択をします。	P.189

PW OFF設定	電源をOFFにしたときに液晶モニタに表示されるシャットダウン画面の選択をします。	P.189
画面登録	スタートアップ画面やシャットダウン画面に自分で撮影した画像を使用できるように登録します。	P.190
再生音量	再生時の音量を調節します。「PW ON設定」「PW OFF設定」で選択した音の音量も調節されます。	P.188
ビープ音	カメラの警告音をオフにしたり、その音量を変更します。	P.185
操作音	カメラの操作音をオフにしたり、その音と音量を選択します。	P.186
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.183
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.42
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.195
インデックス表示	インデックス再生時に、液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P.152

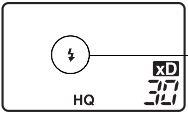
フラッシュ撮影

撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。フラッシュの発光量を補正することもできます。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 ϟ（フラッシュモード）ボタンを押しながらダイヤルを回して、フラッシュを設定します。

- フラッシュモードは以下のように切り換わり、コントロールパネルに表示されます。（全モード設定可能の場合）





表示なし（オート発光）⟷ 赤目軽減発光 ⟷ ϟ（強制発光）

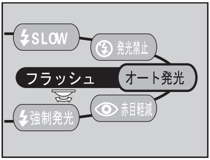
↕ ↕

（発光禁止）⟷ ϟ SLOW、または ϟ SLOW（スローシンクロ）

2 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光する前に、オレンジランプが点灯します。

3 シャッターボタンを全押しして、撮影します。



フラッシュの到達距離
広角時：約0.8～5.6m
望遠時：約0.2～3.8m

ヒント

オレンジランプまたは ⚡（フラッシュ充電中）マークが点滅した

→ フラッシュ充電中です。オレンジランプが消灯するまでお待ちください。

フラッシュ自動発光時（オート発光・赤目軽減・強制発光）のシャッター速度について

→ オレンジランプまたは ⚡（手ぶれ警告）マークが点灯するとフラッシュは自動発光しますが、シャッター速度はその時点の秒時（最も遅い秒時）に固定され、それより遅くはなりません。また、固定される秒時はズームの位置によって変わります。

ズーム位置	シャッター速度
W端	1/30秒
T端	1/100秒

注意

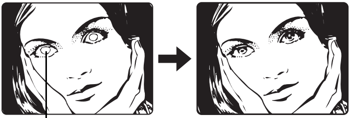
- **S M** モードでは［オート発光］［赤目軽減］［強制発光］［赤目・先幕効果］は選択できません。
- 以下の場合、フラッシュ使用はできません。
  被写体が明るいとき(オート発光、赤目軽減のみ）／ムービー撮影モード／連写（高速連写・連写・AF連写・オートブラケット撮影）／スーパーマクロ撮影／ファンクション撮影の白板・黒板モード／パノラマ撮影
- マクロ撮影でズームがW（広角）側にあるときは特に、画面内で光の量がムラになることがあります。必ず再生して画像を確認してください。
- コンバージョンレンズ使用時はフラッシュは使用しないでください。

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットマークを合わせて撮影してください。

●赤目軽減（◎）

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。



目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（ϟ）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。



注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

5 フラッシュ

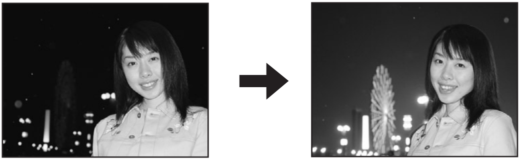
●発光禁止（⚡︎）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景の夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意
・暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

●スローシンクロ　⚡ SLOW1 ⚡ SLOW2 ◉⚡ SLOW

遅いシャッター速度でフラッシュを発光させます。通常のフラッシュ撮影では手ぶれを防ぐため、シャッター速度が遅くならないように設定されていますが、このとき夜景などをバックに撮影すると、フラッシュの光が背景まで届かないため、暗くつぶれてしまいます。遅いシャッター速度で撮影すると背景を写し込むことができ、被写体と背景の両方を撮影することができます。シャッター速度が遅いので、背景がぶれないように三脚などでカメラを固定してください。



先幕効果（先幕シンクロ）　⚡ SLOW1

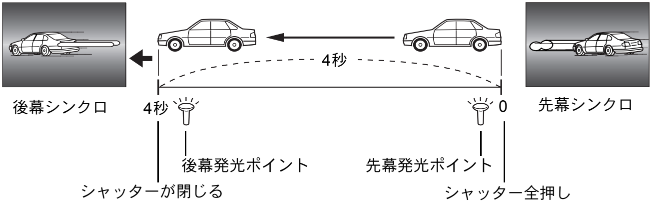
フラッシュはシャッター速度にかかわらず、シャッターが開いた瞬間（直後）に光るようになっています。これを先幕シンクロといい、一般的にフラッシュ撮影はこの方法で行なわれます。スローシンクロの初期設定は［先幕効果］です。

後幕効果（後幕シンクロ） ⚡ SLOW2

シャッターが閉じる直前にフラッシュが光るようになっています。フラッシュを発光させるタイミングを変えることで、夜間走行中の車のテールライトが後方に流れる様子を表現するなど、作画に変化をつけることができます。シャッター速度が遅いほうがより効果的です。
シャッター速度の最長は、撮影モードにより異なります。

Mモード　　　：16秒
P／A／Sモード：1秒

シャッター速度が 4 秒のとき



赤目・先幕効果　👁⚡ SLOW

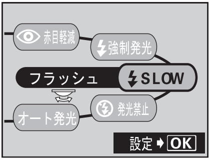
スローシンクロを使ってフラッシュ撮影をしながら、赤目軽減効果も得たいときに使用します。夜景などをバックにして人物を写すときに、赤目現象を起こりにくくします。後幕シンクロでは予備発光から撮影までにかかる時間が長くなり、赤目軽減効果が得られにくいため、先幕シンクロのみの設定となります。

スローシンクロの設定

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 ϟ（フラッシュモード）ボタンを押しながらダイヤルを回して、［ϟ SLOW］に設定します。





2 ϟ ボタンを押した状態で Ⓞ を押します。

- スローシンクロメニューが表示されたら、ϟ ボタンから指をはなします。

3 ⊜⊝を押して［先幕効果］［赤目・先幕効果］［後幕効果］から選択し、Ⓞ を押します。



スローシンクロメニュー

ヒント

モードメニューからもスローシンクロの設定ができます

→ トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スローシンクロ］→［先幕効果］［赤目・先幕効果］［後幕効果］から選択し、Ⓞ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

5
フラッシュ

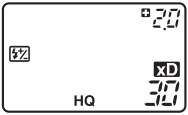
フラッシュ補正

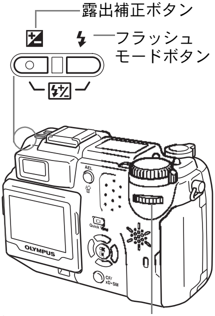
フラッシュの発光量を増減します。
被写体が小さい、被写体の背景が遠いなど、場合によってはフラッシュの発光量を調節した方がよいときがあります。また、コントラスト（明暗差）を意図的につけたいときにもこの機能が便利です。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。

モードダイヤル設定 P A S M

1 (フラッシュモード）ボタンと (露出補正）ボタンを同時に押しながら、ダイヤルを回して調節します。

- 設定中はコントロールパネルに補正値が表示されます。





左に回すと1/3EVずつ発光量が減少します。



右に回すと1/3EVずつ発光量が増えます。

（EV：補正値の単位）

注意

- シャッター速度が速い場合は、フラッシュ補正の効果が十分に得られないことがあります。

5 フラッシュ

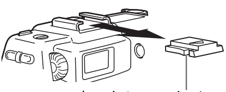
外部フラッシュ（別売）

専用外部フラッシュを使って撮る

専用外部フラッシュFL-40で、多彩なフラッシュ撮影を行うことができます。専用外部フラッシュのみでの撮影だけでなく、内蔵フラッシュと併用しての撮影も可能です。
専用外部フラッシュを使うと、カメラのフラッシュモードと露出設定を自動的に検出するなど、内蔵フラッシュと同様に扱うことができます。さらに内蔵フラッシュと併用すると、内蔵フラッシュでキャッチライト効果を得られるなど、高度なフラッシュ撮影が可能になります。
専用外部フラッシュは、カメラ上部のホットシューに取り付けて使うか、専用フラッシュブラケットFL-BK01（別売）と専用ブラケットケーブルFL-CB02（別売）を組み合わせて使います。

モードダイヤル設定 P A S M

1 ホットシューカバーを矢印の向きにスライドさせて外します。専用外部フラッシュを取り付けます。

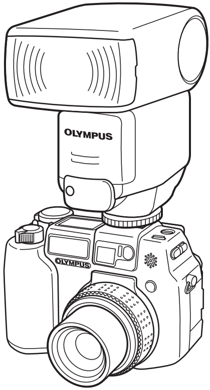


- 専用外部フラッシュの取り付け方は、専用外部フラッシュFL-40の取扱説明書をご覧ください。
- ホットシューカバーはなくさないように保管し、専用外部フラッシュを取り外したあとは、もう一度取り付けてください。

5 フラッシュ

2 トップメニューから[モードメニュー]→［撮影］→［フラッシュ選択］の順に選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



専用外部フラッシュのみを使う場合

→［外部］を選択し、Ⓞを押します。再びⓄを押すと、メニューが終了します。

内蔵フラッシュと併用して、専用外部フラッシュを使う場合

→［内蔵+外部］を選択し、Ⓞを押します。再びⓄを押すと、メニューが終了します。

3 専用外部フラッシュの電源を入れます。

- 専用外部フラッシュのモードは、「TTL-AUTO」になります。
- シャッターボタンを半押しすると、専用外部フラッシュはカメラと通信をして自動的に「TTL-AUTO」に設定されます。通信を続けている間はカメラの液晶モニタが点灯し、常に「TTL-AUTO」と表示されます。
- フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに装着してから入れてください。

4 ⚡（フラッシュモード）ボタンを押しながらダイヤルを回して、フラッシュモードを選択します。

☞「フラッシュ撮影」（P.85）

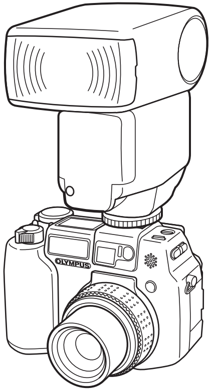
注意

- 近距離撮影時は露出オーバー（明るすぎ）になることがありますので、その際は内蔵フラッシュのみで撮影してください。
- 内蔵フラッシュとFL-40を両方発光させる場合は、内蔵フラッシュは補助光源として発光しますので、FL-40の光量が不足する場合は露出が不足することがあります。

市販の外部フラッシュを使って撮る

市販の外部フラッシュは、ホットシューに接続できるものであれば、使うことができます。（FL-40以外の市販の外部フラッシュは、カメラから発光量の調整をすることはできません。）
使用できる市販の外部フラッシュについては次頁をご覧ください。

モードダイヤル設定 ▶ M



1 外部フラッシュをホットシューに取り付けてカメラと接続します。

• 外部フラッシュの取り付け方は、外部フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

2 M モードに設定します。シャッター速度と絞り値を設定します。

☞「マニュアル撮影」（P.99）

• シャッター速度を遅く設定した場合、画像がぶれて撮影されますのでご注意ください。また、フラッシュの効果を出すために、シャッター速度は1/200～1/300の間に設定されることをおすすめします。

3 外部フラッシュの電源を入れます。

• フラッシュの電源は、必ずフラッシュをカメラに装着してから入れてください。

4 外部フラッシュ側で、発光量を自動（オート）に設定し、外部フラッシュのISOと絞り値をカメラのISOと絞り値に合わせます。

• 外部フラッシュ側のモードの選択方法は、各フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

注意

• カメラのフラッシュモードは、市販の外部フラッシュには適用されません。外部フラッシュは、カメラのフラッシュモードが発光禁止でも発光します。
• お使いになる外部フラッシュがカメラに同調するか、あらかじめご確認の上、ご使用下さい。

使用できる市販外部フラッシュについて

市販の外部フラッシュをお使いになる前に、下記の事項を必ずご確認ください。

(1) 市販のフラッシュには、シンクロ端子が高圧タイプのものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、カメラを故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。お使いのフラッシュのシンクロ端子の仕様については、フラッシュのメーカーにお問い合わせ下さい。

(2) 市販のフラッシュには、シンクロ端子の極性が逆の機種があり、この場合接続しても発光しません。フラッシュのメーカーへご相談下さい。

(3) 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で調節する必要があります。外部フラッシュをオートモードでご使用になる場合は、カメラで設定されているF値とISO感度に合わせることのできる製品をお使い下さい。

(4) 外部フラッシュのオートF値やISO感度をカメラと同条件に設定しても、撮影条件によっては適正露出にならない場合があります。このような場合は外部フラッシュ側のオートF値かISO値をシフトするか、マニュアルモードで距離を計算してご使用ください。但し、オートF値、ISO値のシフトは1段刻みが一般的でそれ以下の露出補正はできません。（カメラ側の露出補正は外部フラッシュ撮影においては無効となります。）

(5) 照射角度は35mmフィルム換算で、35mmレンズ以上カバーする製品をご使用ください。但し、ワイド側の近距離撮影においては、画面下がけられる場合があります。フラッシュの配光を広げるワイドアダプタが付属されているものが理想的です。

(6) フル発光時の閃光時間が1/200秒以下の製品をご使用ください。
リングフラッシュ等閃光時間が長いものは、光の一部が露出に寄与しなくなる場合があります。

(7) **FL-40以外の通信機能付きフラッシュ、およびその付属品をお使いになると正常に機能しないだけでなく、故障の原因となることがありますのでご使用にならないでください。**

スレーブモードを使って撮る

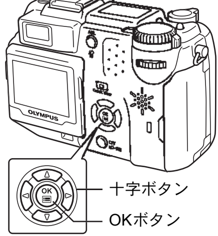
市販のスレーブフラッシュを使う場合などに設定します。
フラッシュの発光量を調節して、固定します。連写を設定してもフラッシュを発光させることができます。ただし、発光量を大きくすると、連写の間隔が長くなります。

赤目軽減　　　：オート発光に設定が変更されます。
赤目・先幕効果：先幕効果に設定が変更されます。

モードダイヤル設定 ▶ A M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［フラッシュ選択］→［スレーブ］を選択、▷を押します。

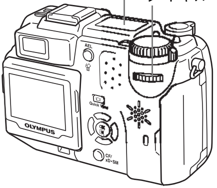
☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して、発光量を［1］～［10］から選択し、OKを押します。

絞り優先撮影　A

（モードダイヤル設定）▶ A



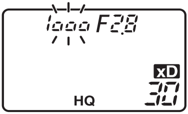
1 ダイヤルを回して、絞り値を設定します。

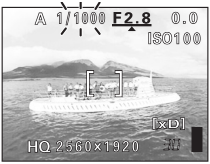
左に回すと絞りが開き（F値が小さくなり）ます。



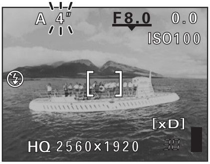
右に回すと絞りが絞られ（F値が大きくなり）ます。

- シャッターボタンを半押しすると、コントロールパネルにシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたとき、適正露出でない場合はシャッター速度が点滅します。

コントロールパネル		液晶モニタの絞り値表示	意味
	点灯	緑の表示	適正露出
	点滅	赤の表示	適正露出が得られません。液晶モニタを点灯させているときは、以下のように対応してください。







▲が表示されるとき…露出オーバー
ダイヤルを右に回して、絞り値を大きくします。

▼が表示されるとき…露出アンダー
ダイヤルを左に回して、絞り値を小さくします。

設定範囲　W側 ：F1.8～F8.0
　　　　　T側 ：F2.6～F8.0

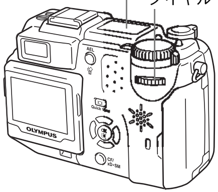
注意
- フラッシュがオート発光に設定されているとき、シャッター速度は、ズームの設定がもっとも広角側（W端）で1/30秒、もっとも望遠側（T端）で1/100秒よりも低速にはなりません。

シャッター優先撮影 S

モードダイヤル設定 ▶ S

1 **ダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。**

コントロールパネル
ダイヤル

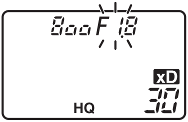


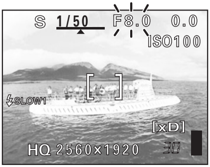
左に回すとシャッター速度が遅くなります。



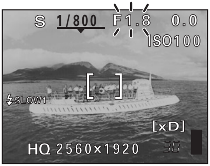
右に回すとシャッター速度が速くなります。

- シャッターボタンを半押しすると、コントロールパネルに絞り値が表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたとき、適正露出でない場合は絞り値が点滅します。

コントロールパネル		液晶モニタのシャッター速度表示	意味
	点灯	緑の表示	適正露出
	点滅	赤の表示	適正露出が得られません。液晶モニタを点灯させているときは、以下のように対応してください。







▲が表示されるとき…露出オーバー
ダイヤルを右に回して、シャッター速度を速くします。
▼が表示されるとき…露出アンダー
ダイヤルを左に回して、シャッター速度を遅くします。

設定範囲：4～1/1000（秒）

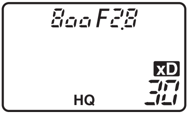
- シャッター速度の設定範囲はフラッシュの設定により変わります。

注意

マニュアル撮影

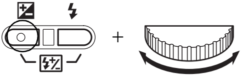
モードダイヤル設定 M

1 （露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回して、絞りを設定します。





左に回すと絞りが開き（F値が小さくなり）ます。



右に回すと絞りが絞られ（F値が大きくなり）ます。

ダイヤルを回して、シャッター速度を設定します。

左に回すとシャッター速度が遅くなります。



右に回すとシャッター速度が速くなります。

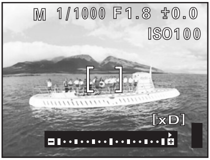
- シャッターボタンを半押しすると、設定されている絞り値とシャッター速度から算出される露出と、カメラが算出する適正露出との露出差が－3.0～＋3.0EVの範囲で、表示されます。
- 液晶モニタの露出状態が赤く表示されたときは、露出差が-3.0EVよりも小さい、または+3.0EVよりも大きいことを示しています。



6

撮影の応用

• AEL（AE ロック）ボタンを押すと、右図のような露出状態を示すバーが表示されます。シャッターボタンを半押しすると、適正露出との差を表示します。



絞り値：F1.8～F8.0
シャッター速度：16～1/1000（秒）
（絞り値F8.0のときは1/2000まで）

注意

• シャッター速度を遅く設定して撮影するときは、カメラぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

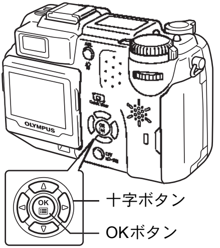
マイモード撮影

モードは、メニューのマイモード設定で登録した設定で撮影します。あらかじめ、使用する撮影モードや機能の設定をマイモードとして登録しておくことで、お好みの撮影がすばやくできます。また、現在使用している設定を登録することもできます。モードは8種類のパターンが登録可能です。「マイモード設定」（P.175）

モードダイヤル設定

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［マイモード選択］→［マイモード1］～［マイモード8］から選択し、を押します。

「メニューの操作方法」（P.76）



- 再度を押すと、メニューが終了します。
- ［マイモード1］のみ、あらかじめ設定値が登録されています。［マイモード2］～［マイモード8］は設定値を登録しないと選択できません。
「マイモード設定」（P.175）

注意

- 現在使用している設定を登録して、その設定を選択して撮影するときに、ズームの位置が登録時の設定とずれる場合があります。

ピント合わせの応用

AF方式－ピント合わせの範囲を変える

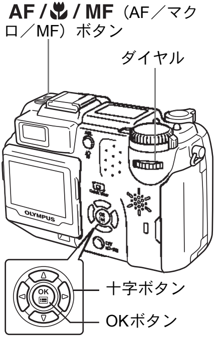
被写体の焦点を合わせる方式を選択します。

iESP 画面の範囲内からピントを合わせる被写体を判断します。被写体が中央にない場合もピントは合います。
スポット AFターゲットマーク内の被写体にピントを合わせます。

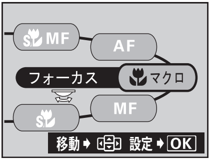
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 **AF / 🌷 / MF（AF ／マクロ／ MF）ボタンを押しながらダイヤルを回して、AF（オートフォーカス）、🌷 マクロ、または S🌷（スーパーマクロ）に設定します。**

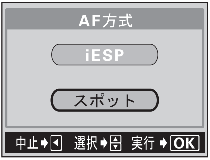




2 **AF / 🌷 / MF ボタンを押した状態で Ⓞ を押します。**
• AF方式メニューが表示されます。



3 **△▽を押して［iESP］、または［スポット］から選択し、Ⓞ を押します。**



ヒント

モードメニューからもAF方式の設定ができます

→トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［AF 方式］→［iESP]、または［スポット］から選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.76)

注意

- モードでは、AF 方式は［iESP］に固定されています。設定は変更できません。

フルタイムAF－ピント合わせの時間を短くする

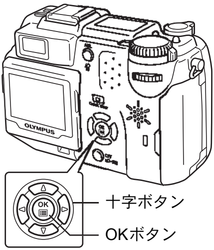
シャッターボタンを半押ししなくても、常にレンズの前のものにピントを合わせます。「オン」に設定すると、ピント合わせの時間が短縮され、シャッターチャンスを逃すことなく撮影できます。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［フルタイムAF］→［オン］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.76)

- 液晶モニタに被写体が表示されます。
- 液晶モニタが点灯していないとフルタイムAFは作動しません。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



注意

- モードでは、「ムービー録音」がオンに設定されていると撮影中はフルタイムAFは働きません。
- フルタイムAFを設定しているときは、電池寿命が短くなります。

6 撮影の応用

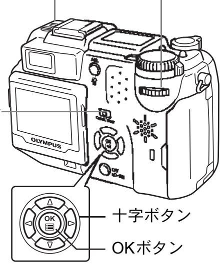
AFターゲット移動

AFターゲットマークの位置を移動させて、ピント合わせをするエリアを選択します。

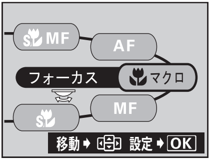
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 AF方式を［スポット］に設定します。

☞「AF方式－ピント合わせの範囲を変える」（P.102）

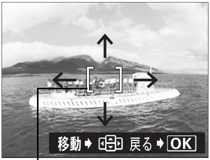


2 AF / 🌷 / MF（AF／マクロ／MF）ボタンを押した状態でダイヤルを回して、AF（オートフォーカス）、🌷マクロ、または S🌷（スーパーマクロ）に設定します。



3 AF / 🌷 / MF ボタンを押した状態で十字ボタンを押して、AF ターゲットマークをピントを合わせたいエリアに移動させます。

- AF ターゲットマークは、画面中央から十字方向に移動できます。



AFターゲットマーク

4 撮影します。

- AFターゲットマークの位置を元(中央)に戻すには、**AF / 🌷 / MF** ボタンを押しながら Ⓞ を押します。
- 再度 Ⓞ を押すとAFターゲットマーク選択のモードから抜けます。

注意
- AF ターゲットマークを移動した状態で記憶させておくことはできません。

AFイルミネータについて

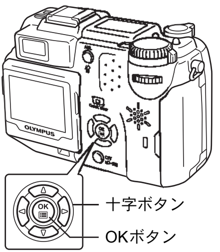
被写体が暗い場合でも、オートフォーカスでのピント合わせを可能にします。シャッターボタンを半押しすると自動的にAFイルミネータが発光し、被写体を照らします。初期設定は「オン」です。AFイルミネータを「オフ」にするには、以下の手順にしたがって設定してください。

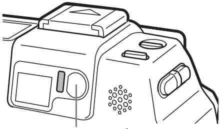
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［AFイルミネータ］→［オフ］を選択し、Ⓞ を押します。

☞ 「メニューの操作方法」(P.76)

- 再度 Ⓞ を押すと、メニューが終了します。





注意
- 80cm以下の近接撮影では、AFイルミネータを点灯させてもピントが合わない場合があります。

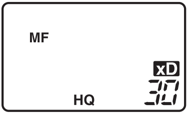
マニュアルフォーカス－手動でピントを合わせる

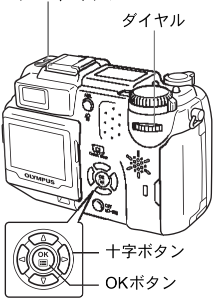
オートフォーカスでピント合わせがうまくいかないときは、手動でのピント合わせが可能です。

モードダイヤル設定 P A S M

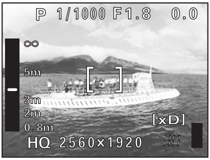
1 AF / 🌷 / MF（AF ／マクロ／ MF）ボタンを押しながら、ダイヤルを回して［MF］に設定します。

- コントロールパネルに MF が表示されます。

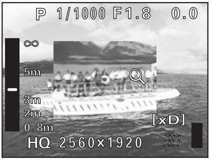




- AF / 🌷 / MF ボタンから指をはなすと、液晶モニタに被写体が表示されます。



2 △▽を押して、撮影距離を設定します。



- 操作中はピントを合わせている範囲が拡大表示されます。ピントを合わせている位置が正しいかどうか、確認してください。
- 液晶モニタの左側の距離表示は、目安です。
- 0.8m以下にカーソルを移動させると、自動的に目盛りが20cm～80cmになります。

3 ㊙ を押して、撮影距離を決定します。

4 撮影します。

• ピントは設定した距離で固定されます。

ヒント

いつも同じピント位置で撮影したい

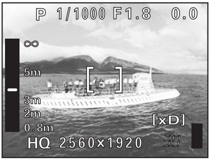
→ フォーカスロックした位置で、ピント位置を固定させます。

1 距離を合わせたいものに AF ターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

2 シャッターボタンを半押しした状態で **AF / 🌷 / MF** ボタンを押します。

• 液晶モニタが点灯し、距離表示が表示されます。

• MF に設定され、フォーカスロックをした位置でピント位置が固定されます。



• オートフォーカスに戻すには、［AF］に設定してください。

距離表示の一番上にカーソルを合わせても、ピントが ∞（無限位置）に合わない

→ 液晶モニタを見ながら ⊘ ⊘ を押して、カーソルの位置を少しずつ調整してください。

至近距離で撮影したい

→ スーパーマクロMFモードで撮影すると、約3cmまで近づいて、マニュアルフォーカスで撮影できます。**AF / 🌷 / MF**（AF／マクロ／MF）ボタンを押しながら、ダイヤルを回して S🌷 MFに設定してください。☞「スーパーマクロモード撮影－至近距離で撮るには」（P.114）

注意

• デジタルズームの倍率が2.5倍以上のときは、ピントを合わせている範囲は拡大表示されません。

• 撮影距離を設定した後でズーム操作をすると、設定距離が変わることがあります。再度、ピント位置を設定してください。

測光

被写体の明るさを測るには、以下の3通りの方法があります。

デジタルESP測光 画面の中央部と周辺部を別々に測光し、演算して最適な露出を決定します。

スポット測光 AFターゲットマークの範囲を測光し、露出を決定します。逆光などで被写体が暗くなるときに背景の光などに影響されることなく、被写体を適正露出で撮影できます。☞ P.108

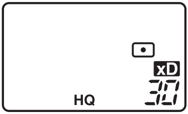
マルチ測光 被写体の数カ所（最大8カ所）を測光し、その平均値から最適な露出を決定します。明暗の差の大きい被写体など、適正露出がでにくい場合に有効です。☞ P.109

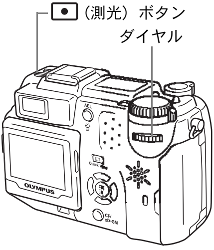
スポット測光

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 [•]（測光）ボタンを押しながらダイヤルを回して、[•]（スポット測光）に設定します。

- コントロールパネルに[•]が表示されます。



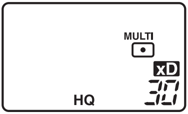


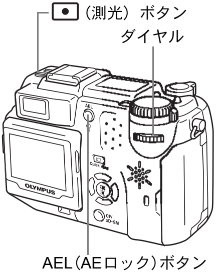
マルチ測光

モードダイヤル設定 ▶ P A S

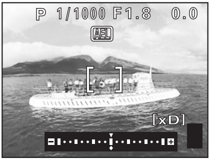
1 （測光）ボタンを押しながらダイヤルを回して、MULTI（マルチ測光）に設定します。

- コントロールパネルにMULTIが表示されます。





2 測光したいところに AF ターゲットマークを合わせて、AEL（AEロック）ボタンを押します。最大8カ所まで測光を繰り返します。



- 液晶モニタが点灯し、マルチ測光バーが表示されます。
- 9回目以降の操作は無効です。
- 測光をやり直すには、AELボタンを1秒以上押して MEMO と表示させます。再度AELボタンを押すと、測光値は取り消されます。

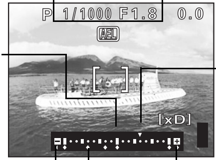
6

撮影の応用

例：2つのポイントを測光した場合（AELボタンを2回押した場合）

2回の測光の平均値から算出されたシャッター速度／絞り値。さらにポイントを測光して、平均値を出すたびに、ここの数値は更新されます。

2回の測光の平均値。バーの中央は、常に測光したポイントの平均値を示します。



レンズを向けている被写体を測光して、平均値との差を表示します。シャッターボタンを半押しすると、測光値は固定され、このマークは止まります。（AELボタンを押さないと、平均値の計算にはここの値は含まれません。）

AELボタンを押したポイントの測光値。◇ の数は、押した回数分表示されます。測光値と平均値との差の分だけ、バーの中央からはなれた位置に ◇ が表示されます。

平均値を示すバーの中央から、◇ が±3以上はなれると、◁ ▷ が赤く表示されます。

ヒント

マルチ測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→ 手順2で測光した後に、AELボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度AELボタンを押します。

測光値が取り消されてしまった

→ 手順2で測光した後に、ボタンやモードダイヤルを操作すると、マルチ測光値が取り消されます。

AEロック撮影－露出を固定するには AEL

被写体のコントラストが強いときなど、適正露出が得られないときに使います。
例えば、空が構図の広い範囲を占めていると被写体が暗くなってしまうことがあります。この場合、空を外した構図の状態でAEL（AEロック）ボタンを押して測光値を一時的にロックします（露出を固定します）。次に、空を入れた構図に戻して撮影をします。

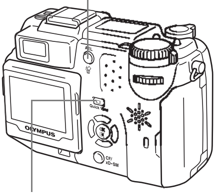




モードダイヤル設定 ▶ P A S

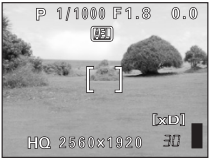
1 測光値をロックしたい構図にして、AEL（AEロック）ボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯し、測光値が記憶されます。
- AE ロックをやり直したいときは、再度AELボタンを押してAEロックを解除します。AELボタンを押すたびに、ロックと解除が繰り返されます。



2 ピントを合わせたいものに AF ターゲットマークを合わせて、シャッターボタンを半押しします。

- 緑ランプが点灯します。
- シャッターボタンを半押しした後は、AEロックの解除はできません。

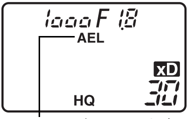


6

撮影の応用

3 シャッターボタンを全押しします。

- AEロックは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。



AEロック中はAELと表示されます。



ヒント

ロックした測光値を撮影後も記憶させたい（AEメモリ）

→ 手順1でAEロックした後、または手順2でシャッターボタンを半押しした後に、AELボタンを1秒以上押します。MEMO と表示されます。MEMO が表示されている間、露出は記憶されています。AEメモリを解除するには、再度AELボタンを押します。

AEロックをしたのに、解除されてしまった

→ AEロックした後で、ボタンやモードダイヤルを操作しないでください。AEロックが解除されます。

→ スリープモードから復帰したときや、電源を一度OFFにしたときは、AEロックが解除されます。

注意

- マルチ測光が設定されているときは、AE ロックできません。測光方式を［ESP］または［スポット］に設定してください。☞「測光」（P.108）
- メニューが表示されているときは、AEロックできません。メニューを終了してください。☞「メニューの操作方法」（P.76）

マクロ撮影ー近くのものを撮るには

20cm～80cmの距離で撮影するときに使います。
通常の撮影では、近接した被写体にピントを合わせるのに時間がかかりますが、（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くなります。
モードでは、名刺サイズをほぼフレームいっぱいに撮影できます（光学ズームをもっとも広角にして、20cmまで近づいて撮影した場合）。



通常撮影



マクロ撮影

モードダイヤル設定 P A S M

1 AF / / MF（AF ／マクロ／ MF）ボタンを押しながらダイヤルを回して、に設定します。

- コントロールパネルに が表示されます。



- **AF / / MF** ボタンから指をはなすと、液晶モニタに被写体が表示されます。



注意

- 被写体との距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。撮影には液晶モニタの使用をおすすめします。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

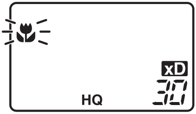
スーパーマクロモード撮影－至近距離で撮るには

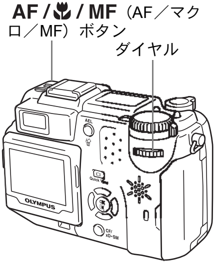
被写体に約3cmまで接近して撮影できます。約2.7×3.7cmの被写体をフレームいっぱい撮影できます。
スーパーマクロモードは通常の撮影距離にも対応しますが、ズーム位置は自動的に固定されて変更はできません。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 AF / 🌷 / MF（AF／マクロ／MF）ボタンを押しながらダイヤルを回して、S🌷（スーパーマクロ）に設定します。

- コントロールパネルの 🌷 が点滅します。





- **AF / 🌷 / MF** ボタンから指をはなすと、液晶モニタに被写体が表示されます。

●スーパーマクロMF

被写体に近づいて撮影する場合、被写体が影になりやすく、オートフォーカスではピントが合いにくくなることがあります。この場合は、スーパーマクロMFに設定してマニュアルフォーカスで撮影します。

1 AF / 🌷 / MF ボタンを押しながらダイヤルを回して、S🌷 MF（スーパーマクロMF）に設定します。

- コントロールパネルのMFが点滅します。

2 AF / 🌷 / MF ボタンから指をはなすと、液晶モニタに被写体とマニュアルフォーカスの距離表示が表示されます。

3 ⊗⊗を押してピントを合わせます。

注意

- スーパーマクロ撮影では、ズームは使えません。
- スーパーマクロ撮影では、内蔵フラッシュは使えません。外部フラッシュは使用できますが、フラッシュの光がけられる場合があります。撮影した画像は液晶モニタで確認してください。

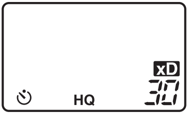
セルフタイマー撮影

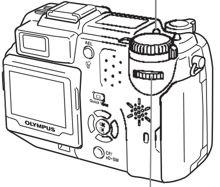
セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真を撮るときなどに便利です。

モードダイヤル設定 P A S M

1 （セルフタイマー／リモコン）ボタンを押しながらダイヤルを回して、（セルフタイマー）に設定します。

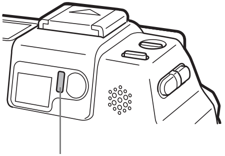
- コントロールパネルに が表示されます。





2 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

- ピントと露出はシャッターボタンを半押しした時点で固定されます。
- セルフタイマー／リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- ムービー撮影の場合、再度シャッターボタンを全押しして、撮影を終了してください。



- 作動中のセルフタイマーを中止するには、 ボタンを押します。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

注意

- セルフタイマー撮影で連写をすると、設定にかかわらず最大5コマ撮影されます。

6 撮影の応用

リモコン撮影（リモコン別売）

別売のリモコンを使って撮影できます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。

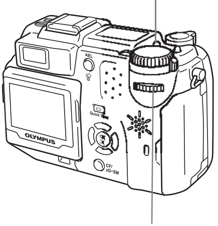
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 カメラを三脚などでしっかり固定させます。

2 （セルフタイマー／リモコン）ボタンを押しながらダイヤルを回して、（リモコン）に設定します。

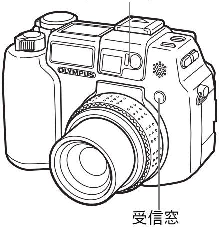
- コントロールパネルにが表示されます。

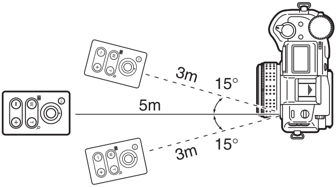




3 リモコンをカメラの受信窓に向け、リモコンのWまたはTボタンを押します。

- カメラのズーム操作ができます。操作中はセルフタイマー／リモコンランプが点滅します。





4 リモコンのシャッターボタンを押します。

- ピントと露出が固定され、カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

ヒント

リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンランプが点滅しない

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

→ リモコン信号が混信しています。リモコンの取扱説明書にしたがってチャンネルを変えてください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順2にしたがってオフ（表示なし）に設定してください。

注意

- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコンの届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコンの受信状態が悪くなると、連写が途中で終了してしまうことがあります。
- リモコンを使用して再生する方法は、リモコンの取扱説明書をお読みください。

連写(高速連写／連写／AF連写／オートブラケット)

連続撮影（連写）には、高速連写、連写、AF連写、オートブラケットの4種類があります。連写は、モードメニューのドライブを切り換えて設定します。画質モードがTIFFに設定されているときは、連続撮影はできません。

ドライブモード

単写 一度のシャッターボタンの押しで、1コマだけ撮影されます。（通常の撮影モード、1コマ撮影）

高速連写 通常の連写より高速で連写できます。記録する画質設定によって連写速度が異なります。
3コマ／秒で約4枚（SHQのプリント拡大のみ3枚）

連写 最初の1コマでピント、明るさ（露出）、ホワイトバランスが固定されます。
約1.4コマ／秒で約11枚（HQモード使用時）

AF連写 1コマごとにピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。

オートブラケット ☞「オートブラケット撮影」（P.119）

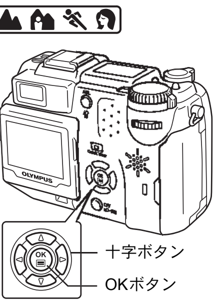
連写•高速連写•AF連写

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［高速連写］または［連写］［AF連写］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



2 撮影します。

- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- ファインダを使って撮影してください。連写中、液晶モニタに被写体は表示されません。



オートブラケット撮影

状況によっては、カメラが算出する最適な露出で撮影するより、露出を補正して撮影するほうが良い仕上がりになる場合があります。
オートブラケット撮影を設定すると、一度のシャッターボタンの全押しで1コマごとに自動的に露出を変えて連続撮影します。変化させる露出差と連続撮影枚数は、メニューで選択します。ピントとホワイトバランスは最初の1コマで固定されます。

例：BKT設定が［±1.0］［×3］の場合

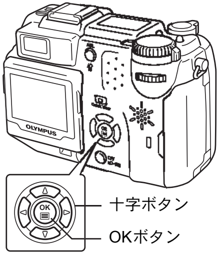


－1.0　　±0　　＋1.0

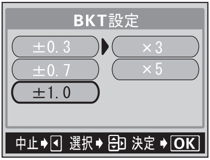
モードダイヤル設定 ▶ P A S

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［BKT］を選択し、◎を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 露出差を選択します。◎◎を押して［±0.3］または［±0.7］［±1.0］を選択し、◎を押します。



6

撮影の応用

3 撮影枚数を選択します。⊛ ⊜ を押して［× 3］または［× 5］を選択し、㊈ を押します。

- 画像サイズと画質の組み合わせにより、［×3］しか選択できない場合があります。
- メニューが消えるまで繰り返し ㊈ を押します。

4 撮影します。

- 設定した枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンを全押しし続けます。途中でやめるときは、シャッターボタンをはなします。

注意

- 以下の場合、高速連写・連写・AF 連写・オートブラケット撮影 はできません。
  画質モードがTIFF
  ノイズリダクションの設定がオンの場合
- 画質モードがRAWの場合、連写・AF連写は選択できません。
- 連写モード（高速連写・連写・AF 連写・オートブラケット撮影 ）時は、内部フラッシュは発光しません。オートブラケット撮影では外部フラッシュも発光しません。
- オートブラケット撮影では、カードの空きが設定枚数以上ないと続けて次の撮影することはできません。
- 静止画撮影モードのセルフタイマー撮影では、連写に設定されていると自動的に5 コマ撮影します。
- ISO 感度設定を200 以上に設定して撮影すると、条件によっては画像にノイズが写ることがあります。
- 連写中、電池の消耗により電池残量マークが点滅すると、撮影を中止してカードに記録を始めます。電池の状態によっては、すべての画像を記録できない場合があります。
- シャッター速度は、手ぶれを抑えるため最長1/30 秒に設定されています。そのため暗い被写体では露出不足の画像になります。
- 外部フラッシュ使用時は、フラッシュ側を連写速度に追従できるように発光量が小さくなる設定にしてください。

パノラマ撮影

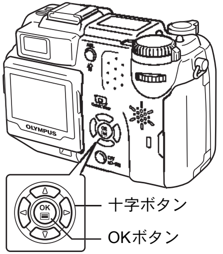
当社製の標準カード（xDピクチャーカード・スマートメディア）を使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

モードダイヤル設定 ▶ P

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- パノラマが設定されます。液晶モニタに被写体が表示されます。



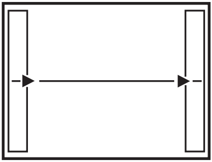
2 液晶モニタを見ながら、十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。

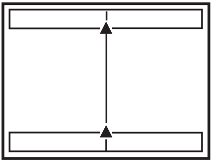
◁ ：次の画像を左につなげます。

△ ：次の画像を上につなげます。

▽ ：次の画像を下につなげます。



左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合



下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

6

撮影の応用

3 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。



この端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

- 10 枚撮り終わると警告マークが表示されます。



4 パノラマ撮影を終了するには、Ⓞ を押します。

- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。



注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- HQ ／ SHQ モードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写は使用できません。
- 画質モードをTIFF（非圧縮）に設定してパノラマ撮影をすると、同じ画像サイズのJPEG（圧縮）で記録されます。
- パノラマ撮影中にモードダイヤルを操作すると、パノラマ撮影は解除され、通常の撮影モードに戻ります。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

6

撮影の応用

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。



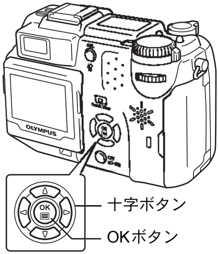
再生時の画面

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択し、▷を押します。

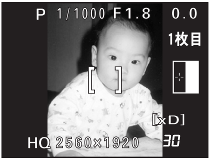
☞「メニューの操作方法」（P.76）

• 合成ツーショットが設定されます。液晶モニタが自動的に点灯します。



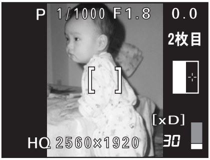
2 液晶モニタを見ながら1回目を撮影します。

• 撮影した被写体は左側に配置されます。



3 続けて2回目を撮影します。

• 撮影した被写体は右側に配置されます。



撮影時の画像

6

撮影の応用

注意

- 合成ツーショット撮影中、パノラマ撮影、連写は使用できません。
- 電池消耗時（ マーク表示）は、フラッシュが自動的にオフになります。
- 1 枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは を押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。
- 合成ツーショット撮影中にモードダイヤルを操作すると合成ツーショット撮影は解除されます。

ファンクション撮影（モノクロ／セピア／白板／黒板）

特殊効果をつけて撮影します。次の4種類から選択することができます。

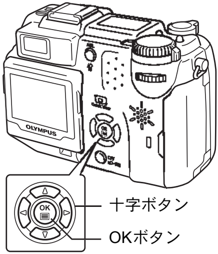
モノクロ　白黒に撮影できます。
セピア　セピア色に撮影できます。
白板　白黒写真になり白板に書いた黒字が強調され、読みやすくなります。
黒板　白黒写真になり黒板に書いた白字が白黒反転して強調され、読みやすくなります。

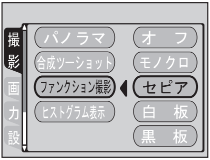
モードダイヤル設定　P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ファンクション撮影］→ファンクション撮影の種類を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- モードでは、［白板］［黒板］は選択できません。
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。





ヒント

白板、黒板を選択しても、文字がきれいに撮影されない
→露出補正をします。☞「露出補正」（P.134）

注意

- ［白板］［黒板］を設定すると、フラッシュは発光しません。
- ファンクション撮影を設定すると、ホワイトバランス、WB 補正、彩度の設定はできません。

スチル録音

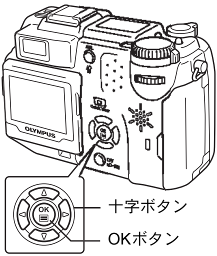
静止画撮影時に音声を録音します。シャッターが切れてから約0.5秒後に録音を開始し、約4秒間録音します。
スチル録音をオンに設定すると、撮影後、毎回自動的に録音します。

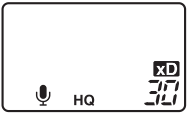
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［スチル録音］→［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

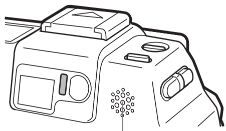
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。
- コントロールパネルに🎙が点灯します。





2 シャッターボタンを押して録音が始まったら、カメラのマイクを録音する対象に向けます。

- 録音中を示す画面が表示されます。
- 録音中は緑ランプが点滅し、コントロールパネルの🎙が点滅します。



ヒント

- スチル録音／ムービー録音した画像は液晶モニタに［♪］が表示されます。録音した画像を再生すると、音声がスピーカから出力されます。音量は調節することができます。☞「再生音量」（P.188）
- 静止画再生中に、音声をあとから録音することができます。また、撮影中に録音済みの音声を録音し直すこともできます。☞「音声の録音」（P.156）

注意

- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。

- 録音中は次の撮影ができません。
- 以下の場合は、録音できません。
  画質モードがTIFFに設定されている場合／連写（連写・AF連写・高速連写）が設定されている場合
- 録音中にボタン操作などを行うと、その音が録音されてしまうことがあります。

ムービー録音

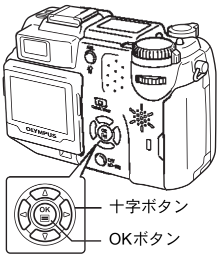
ムービー撮影と同時に音声を録音します。

モードダイヤル設定

1 トップメニューから［ムービー録音］→［オン］を選択し、OK を押します。

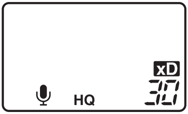
「メニューの操作方法」（P.76）

- コントロールパネルに 🎙 が点灯します。



2 撮影と同時に録音が開始されます。

- 録音中はコントロールパネルの 🎙 が点滅します。



注意

- ムービー録音がオンに設定されていると、ムービー撮影中は、ピントとズームが固定されます。ムービー録音をオフに設定すると、ムービー撮影中、光学ズームとデジタルズームがどちらも動作します。
- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されない場合があります。

画質モード

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご覧ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
RAW	画像処理を行わない撮影したままの生データです。撮影後にRAW編集機能で画像編集を行い、下記の画質モードで記録することができます。また、専用のソフトを使用してパソコンで加工することも可能です。	−	−
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。また、目的に応じて画像サイズを変更できます。「3：2」は写真店でのプリントに近いサイズにするので、画像の端が切れずにプリントできます。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。「3：2」は写真店でのプリントに近いサイズにするので、画像の端が切れずにプリントできます。「プリント拡大」は、大きいサイズでプリントする際に有利です。		
HQ	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。SHQと同様に、「3：2」や「プリント拡大」で画像サイズを変更することができます。		
SQ1／SQ2	SHQやHQより小さい画像サイズを選べるモードです。各画像サイズで「高画質（JPEGノイズを抑制）」または「標準（より多く撮影）」を選択できます。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて選んでください。	↓ 普通	↓ 小さい

スチル画質モード

画質モード	画像サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）32MB 音声あり	音声なし	ファイルサイズ(MB)
RAW	2560×1920		非圧縮	ORF	4	4	約7.4
TIFF	2560×1920		非圧縮	TIFF	—	2	約14.7
	3:2 2560×1696				—	2	約13.0
	2288×1712				—	2	約11.8
	2048×1536				—	3	約9.4
	1600×1200				—	5	約5.8
	1280×960				—	8	約3.7
	1024×768				—	13	約2.4
	640×480				—	33	約0.9
SHQ	2560×1920		低圧縮	JPEG	8	8	約3.6
	3:2 2560×1696				9	10	約3.2
	プリント拡大3200×2400				6	6	約4.7
HQ	2560×1920		標準		25	26	約1.2
	3:2 2560×1696				28	29	約1.1
	プリント拡大3200×2400				16	16	約1.9
SQ1	2288×1712	高画質	*		11	11	約2.7
		標準			31	32	約1.0
	2048×1536	高画質			14	14	約2.2
		標準			39	40	約0.8
	1600×1200	高画質			22	22	約1.4
		標準			60	64	約0.5
SQ2	1280×960	高画質			33	34	約0.9
		標準			90	99	約0.3
	1024×768	高画質			51	53	約0.6
		標準			132	153	約0.2
	640×480	高画質			117	132	約0.2
		標準			248	331	約0.1

*高画質→低圧縮／標準→標準

ムービー画質モード

画質モード	画像サイズ	32MB 音声あり	音声なし
HQ	320×240（15コマ／秒）	93秒	96秒
SQ	160×120（15コマ／秒）	374秒	424秒

- カードの記録可能枚数はおおよその目安です。
- 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行ってもコントロールバネルや液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。
- ビデオ出力をPALに設定してAVケーブルを接続した状態で撮影すると、ムービーの撮影時間は「ムービー画質モード」の表の時間とは異なります。

注意

画質モードを選択する

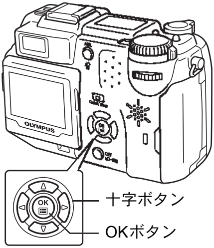
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［画質モード］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 「画質モード」がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、「画質モード」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

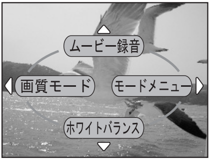
☞「ショートカット設定」（P.172）



モードダイヤル設定 ▶

トップメニューから◁を押して［画質モード］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して画質モードを選択します。スチル画質モードの場合は［RAW］［TIFF］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。ムービー画質モードの場合は［HQ］［SQ］から選択します。

☞ 手順4

3 スチル画質モードで［TIFF］［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］を選択した場合は、▷ を押して画像サイズを選択する画面を表示し、△▽を押して選択します。
［SQ1］［SQ2］を選択した場合は画像サイズを選択後▷ を押し、さらに△▽を押して［高画質］または［標準］を選択します。



4 OK を押します。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

ヒント

- **画像サイズ**
  画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

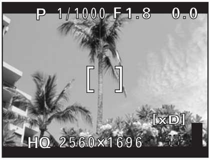
- **画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
  撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

- **圧縮率**
  TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります

- **ファイル形式**
  このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります（ムービーはMotion JPEG（.mov）形式です）。

3：2

通常、画像の縦横比は4：3の比率になっていますが、縦横の比率を3：2に設定することで、写真店でプリントする際に画像の端が切れないでプリントできます。画像サイズは「2560×1696」です。画質モードがTIFF、SHQ、HQのとき設定できます。ムービーモードでは3：2の設定はありません。
3：2を選択すると、液晶モニタは自動的に点灯します。撮影範囲を液晶モニタで確認してから撮影してください。



3:2に設定したときのモニタ表示

プリント拡大

プリント拡大を選択すると、総画素数の500万画素を800万画素相当（3200×2400）に拡大することができ、A3用紙など大きなサイズでプリントするときに有効です。画素数を増やすほどきれいにプリントすることができますが、ファイルサイズも大きくなります。画質モードがSHQ、HQのとき設定できます。ムービーモードではプリント拡大の設定はありません。

注意
画質モードがSHQのプリント拡大の設定では、高速連写の最大撮影枚数は3枚になります。

RAWデータ

ホワイトバランス、シャープネス、コントラスト、色変換などの処理を行っていない未加工のデータです。画像として表示するにはCAMEDIA Masterを使います。Photoshopで再生するためのプラグインソフトもあります（当社ホームページからダウンロードできます）。一般のソフトウェアで表示したり、プリント予約することはできません。
このカメラで、画質モードをRAWデータに設定して撮影した画像を編集することができます。
☞「RAW編集」（P.160）

ISO感度

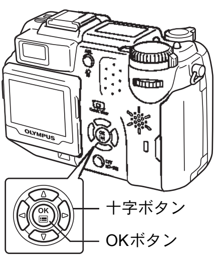
ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ（光量が少ないところ）での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増えて画像が粗くなります。

オート 被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
64/100/200/400 感度を低くすると、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、より暗いところで撮影ができます。

モードダイヤル設定 P A S M

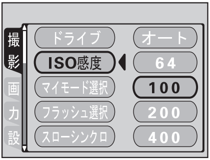
1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ISO感度］を選択して最適なISO感度を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- A、S、M モードの場合、［オート］は選択できません。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。
- ISO 感度をオート以外に設定するとコントロールパネルに「ISO」が表示されます。





注意

- 感度を高く設定するほど画像のノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルムを基準に設定されていますが、数値は目安です。
- ISOがオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO感度がオートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。
- P、A、Sモードでは、フラッシュをスローシンクロにしたとき、設定したISO感度により最長シャッター秒数が変わります。

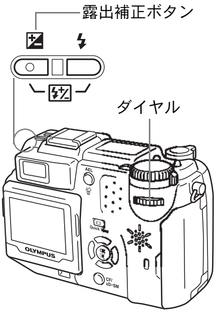
露出補正

（露出補正）ボタンとダイヤルを使って、露出を手動で微調整します。撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。設定値は、コントロールパネルおよび液晶モニタで確認できます。液晶モニタを点灯させているときは、露出を補正した結果が確認できます。

モードダイヤル設定 ▶ P A S

1 （露出補正）ボタンを押しながら、ダイヤルを回します。

- ＋方向に補正する　右方向に回すと 1/3 段刻みで＋2.0 まで設定できます。
- －方向に補正する　左方向に回すと 1/3 段刻みで－2.0 まで設定できます。



- コントロールパネルに露出補正値が表示されます。



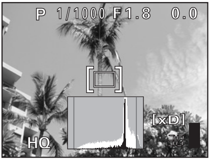


–2.0　　±0　　+2.0

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に－に補正すると効果的です。
- ヒストグラム表示を［ オン］に設定しているとき、液晶モニタが点灯中に （露出補正）ボタンを押すと、液晶モニタにヒストグラム表示されます。
- （露出補正）ボタンを押しながら を押すと、ヒストグラム表示を設定する画面が表示されます。この画面でヒストグラム表示のオン／オフを切り換えることができます。☞「ヒストグラム表示」（P.147）
- ヒストグラムターゲットは移動することができます。☞「●ヒストグラムターゲットを移動する」（P.149）
- M モードではヒストグラム表示できません。





注意

- Mモードでは （露出補正）ボタンを押しながらダイヤルを回すと、絞り設定になります。☞「マニュアル撮影」（P.99）
- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

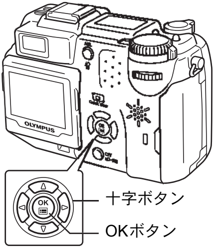
ホワイトバランス

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［ホワイトバランス］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- 「ホワイトバランス」がショートカットメニューとしてトップメニューに表示されている場合は、「ホワイトバランス」のそばに示されている矢印と同じ方向の十字ボタンを押します。

☞「ショートカット設定」（P.172）

2 △▽を押して、［オート］［プリセット1］［プリセット2］［カスタム］［ワンタッチ］から撮影状況にあわせて選択します。



オートを選択	Ⓞ を押します。再度 Ⓞ を押すと、メニューが終了します。
プリセット1を選択	▷ を押して次の選択画面を表示します。 ☞「プリセット1ホワイトバランス」
プリセット2を選択	▷ を押して次の選択画面を表示します。 ☞「プリセット2ホワイトバランス」
カスタムを選択	▷ を押して次の選択画面を表示します。 ☞「カスタムホワイトバランス」
ワンタッチを選択	▷ を押して次の選択画面を表示します。 ☞「ワンタッチホワイトバランス」

オートホワイトバランス

光源によらず、全体の色のバランスを自動的に調整します。

プリセット1ホワイトバランス

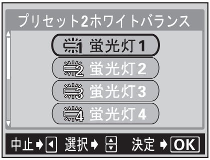
屋外で撮影するとき、光源に応じてホワイトバランスを選択します。
を押して次の中から選択し、を押します。
再度を押すと、メニューが終了します。



日陰（） 日陰での撮影
曇天（） 曇天時の撮影
晴天（） 晴天時の撮影
夕日（） 夕日があたっている時の撮影

プリセット2ホワイトバランス

屋内で撮影するとき、光源に応じてホワイトバランスを選択します。
を押して次の中から選択し、を押します。
再度を押すと、メニューが終了します。





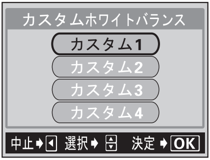
蛍光灯1（） 昼光色(6700K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼白色の蛍光灯は、主に家庭で使われています。
蛍光灯2（） 昼白色(5000K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。昼白色の蛍光灯は、デスク上のスタンドなどに一般的に使われています。
蛍光灯3（） 白色(4200K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。白色の蛍光灯は、オフィスなどで一般的に使われています。
蛍光灯4（） 温白色(3500K)* の蛍光灯の灯りのもとでの撮影。
電球（） 電球(3000K)* の灯りのもとでの撮影。

*色温度(K)はあくまでも目安です。正確な色を示すものではありません。

ヒント
- 実際の光源とは異なるプリセットホワイトバランスを選択し、その設定を液晶モニタで確認すると、様々な色調が楽しめます。

カスタムホワイトバランス

［カスタムWB登録］で登録したホワイトバランスを選択します。△▽を押して［カスタム1］［カスタム2］［カスタム3］［カスタム4］から選択し、(OK)を押します。
再度(OK)を押すと、メニューが終了します。
未登録のカスタムホワイトバランスはグレー表示され、選択できません。



☞ 次項「カスタムホワイトバランスを登録する」

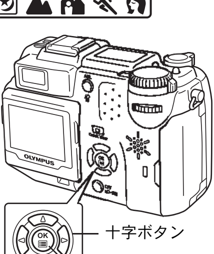
●カスタムホワイトバランスを登録する

現在設定されているホワイトバランスと補正値を［カスタム1］～［カスタム4］に登録し、ホワイトバランスのカスタムメニューとして選択できるようにします。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［カスタムWB登録］→［カスタム1］［カスタム2］［カスタム3］［カスタム4］から選択し、(OK)を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- 現在設定されているホワイトバランスと補正値が、カスタムWBとして登録されました。
- 指定した番号にすでにカスタムホワイトバランスが登録されている場合は、確認の画面が表示されます。新たに登録する場合は［解除する］を選択して(OK)を押します。
- 再度(OK)を押すと、メニューが終了します。

7 画像・画質・露出の調整

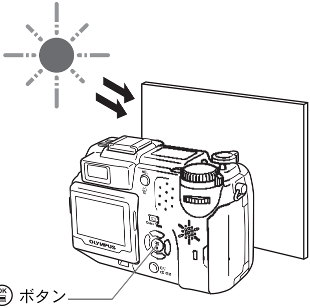
ワンタッチホワイトバランス

プリセットホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いを設定します。撮影する光源で照らされた白いものにカメラを向けてホワイトバランスを設定することにより、実際の撮影状況に最適なホワイトバランスをカメラに記憶させることができます。

1 ワンタッチホワイトバランス画面が表示された状態で、カメラを白い紙に向けます。

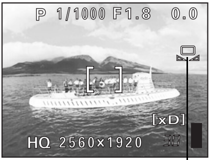
- 紙は画面いっぱいになるように置き、影の部分ができないようにしてください。





2 ㊋ を押します。

- 新しいホワイトバランスが設定されます。
- ワンタッチホワイトバランスの設定を中止するときは、◁ を押します。
- 何度か ㊋ を押すと、メニューが終了します。



注意

- ワンタッチホワイトバランスでは、紙に反射している光が明るすぎたり暗すぎたりする場合は、適切な設定ができません。
- 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

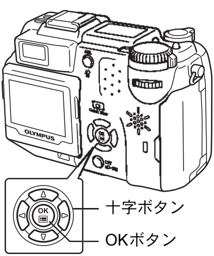
WB補正

ホワイトバランスのオート、プリセット1、プリセット2、ワンタッチごとに補正値を設定して微調整します。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［WB補正］を選択し、▷ を押します。

「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して［オート］［プリセット1］［プリセット2］［ワンタッチ］から選択し、▷ を押します。

- WB補正画面上にWB補正バーが表示されます。



3 現在のホワイトバランスの値に対し、△を押すたびに青みがかり、▽を押すたびに赤みがかった画像になります。OK を押すと、調整値が決定されます。

- ホワイトバランスはBLUE方向、RED方向ともそれぞれ7段階の調節が可能です。
- 調整値決定後、再度 OK を押すと、メニューが終了します。



7
画像・画質・露出の調整

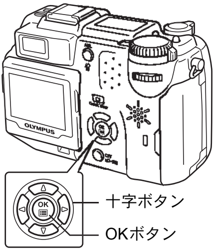
シャープネス

画像の鮮鋭度を調節します。

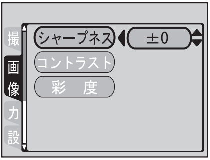
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［シャープネス］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して、±5段階の調整ができます。



- ＋方向に調整　△を押すと、画像の輪郭がよりシャープになり画像が鮮やかになります。プリントなど鑑賞用に適しています。
- －方向に調整　▽を押すと、画像の輪郭がソフトになります。パソコンでの加工に適しています。

- 設定が終わったら、OKを押します。再度OKを押すと、メニューが終了します。

注意
- ＋方向に調整しすぎると、画像にノイズが目立つ場合があります。

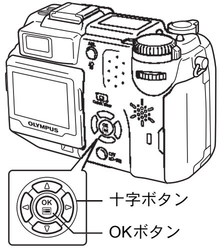
コントラスト

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上がりにすることができます。

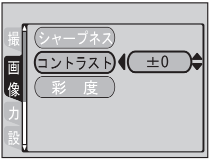
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［コントラスト］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して、±5段階の調整ができます。



- ＋方向に調整　△を押すと、明暗の差がより大きくなりメリハリのある画質になります。
- －方向に調整　▽を押すと、明暗の差がより小さくなり、比較的柔らかい印象の画質になります。パソコンでの加工に適しています。

- 設定が終わったら、OK を押します。再度 OK を押すと、メニューが終了します。

7

画像・画質・露出の調整

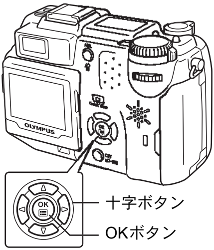
彩度

画像の色の濃さを調節します。

モードダイヤル設定 P A S M

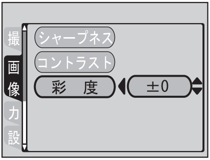
1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［彩度］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して、±5段階の調整ができます。

- ＋方向に調整　△を押すと、色が濃くなります。
- －方向に調整　▽を押すと、色が薄くなります。



- 設定が終わったら、OK を押します。再度 OK を押すと、メニューが終了します。

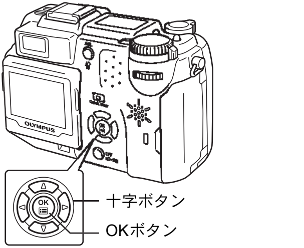
シーンプリセット

P、A、S、M、My、ムービーモードのとき、目的にあった画像処理を選択します。色再現、シャープネス、コントラスト、彩度の調節値のみが設定されています。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M My 🎥

1 トップメニューから［モードメニュー］→［画像］→［シーンプリセット］→［標準］または［ポートレート］［風景］［夜景］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- ポートレート、風景、夜景については「撮影シーンを選ぶモード」（P.67）を参照して下さい。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

ノイズリダクション

長時間露光時に発生するノイズを軽減します。夜景の撮影など、遅いシャッター速度で撮影する際、画像にはノイズが目立つようになります。この機能をオンに設定すると、カメラが自動的にノイズを軽減してきれいな画像を撮影することができます。ただし、撮影時間は通常の約2倍になります。
シャッター速度の設定が1秒より遅いときに動作します。



ノイズリダクション：オフ



ノイズリダクション：オン

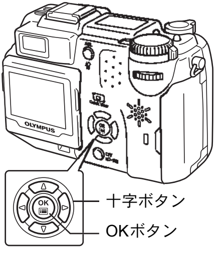
ここでの画像は、単にノイズリダクションの効果を示しているものです。
実際の画像とは異なります。

7 画像・画質・露出の調整

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ノイズリダクション］→［オン］または［オフ］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。
- ノイズリダクションを［オン］にするとコントロールパネルに「NR」が表示されます。



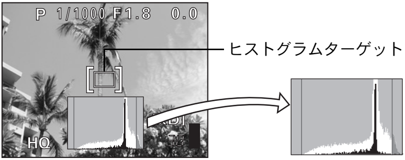
注意

- モードに設定していると、ノイズリダクションは常にオンに固定されています。
- ノイズリダクションをオンに設定すると、撮影後にカメラがノイズを取り除く動作をします。
- ノイズリダクションの設定がオンのとき、高速連写、連写、AF 連写、オートブラケット撮影はできません。
- 撮影条件や被写体により効果が出にくい場合があります。
- シャッター速度が遅いので、三脚の使用をおすすめします。

ヒストグラム表示

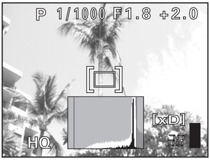
撮影時および再生時にヒストグラム表示します。
撮影時は、液晶モニタに写っている画像の輝度成分をグラフ化して表示します。被写体の明るさのコントラストがわかるので、より厳密に露出をコントロールすることができます。
再生時は、 撮影した画像のヒストグラムを表示します。
ヒストグラム表示は、撮影モードと再生モードで別々に設定することができます。

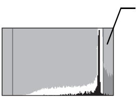
例：Pモードでヒストグラムが表示されたとき



ヒストグラムの緑色の部分は、ヒストグラムターゲットマーク内の輝度分布です。

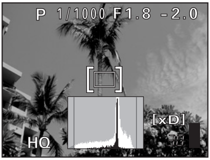
明るい画像のとき

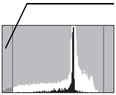




枠内に多く入ると、画像は白くとび気味に写ります。

暗い画像のとき



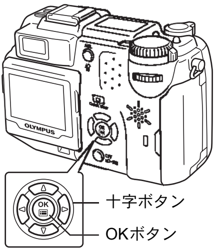


枠内に多く入ると、画像は黒くつぶれ気味に写ります。

モードダイヤル設定 P A S

1 トップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ヒストグラム表示］を選択し、ヒストグラムの表示方法を選択して ㊃ を押します。

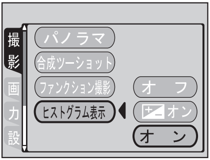
☞「メニューの操作方法」（P.76）



オフ　ヒストグラムを表示しません。

☒ オン　☒（露出補正）ボタンを押したとき、ヒストグラムを表示します。☞「露出補正」（P.134）

オン　常にヒストグラムを表示します。



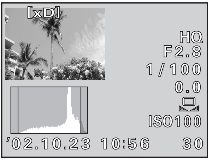
- 再度 ㊃ を押すと、メニューが終了します。
- ［オン］を選択すると、自動的に液晶モニタが点灯してヒストグラムが表示されます。

モードダイヤル設定 ▶

トップメニューで ▽ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- ヒストグラムが表示されます。
- 再度 ㊃ を押してトップメニューを表示して ▽ を押すと、通常の再生画面に戻ります。



再生モードのヒストグラム表示画面

7

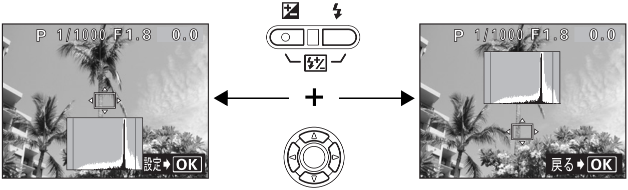
画像・画質・露出の調整

注意

- ヒストグラム表示を常時オンに設定していても、以下のときはヒストグラムが表示されません。
  ムービーモード／パノラマ撮影時／合成ツーショット撮影時／マルチ測光中
- 露出補正中にヒストグラム表示のオン／オフを切り換えることができます。☞「露出補正」（P.134）

●ヒストグラムターゲットを移動する

撮影モードでヒストグラム表示中に、露出補正ボタンを押しながら十字ボタンを押すとヒストグラムターゲットが移動できます。ターゲットの範囲内がヒストグラム上に緑で表示されます。
OKボタンを押すと、移動したヒストグラムターゲットの位置がリセットされます。



クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍と段階的に拡大表示します。

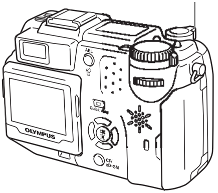
モードダイヤル設定 ▶

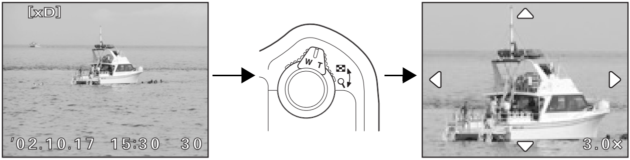
1 拡大したい静止画を選択します。

- のついた画像は、拡大できません。

2 ズームレバーをT側に回します。

- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。
- ダイヤルを回すと前後のコマを同じ拡大率で表示します。
- W側に回すと1倍の大きさに戻ります。





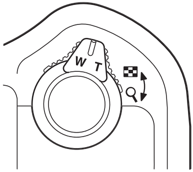
注意
- 拡大した状態で画像を保存することはできません。

インデックス再生

液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。表示するコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。☞「インデックス分割数を変えるには」（P.152）

モードダイヤル設定 ▶ ▶

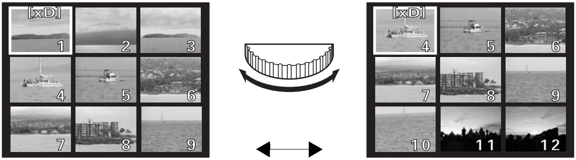
1 1コマ再生中、ズームレバーをW側に回します。



- 十字ボタンを押して画像を選択します。
  - ◁：1つ前のコマへ移動。
  - ▷：1つ次のコマへ移動。
  - △：上のコマへ移動。
  - ▽：下のコマへ移動。



- インデックス再生中、ダイヤルを回すとインデックス画面が前後にスクロールします。



- ズームレバーをT側に回すと1コマ再生に戻ります。

8 再生

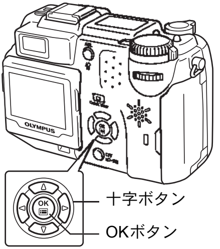
インデックス分割数を変えるには

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

モードダイヤル設定 ▶ [▶]

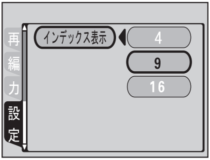
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［インデックス表示］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 ［4］［9］［16］から選択し、Ⓞを押します。

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。



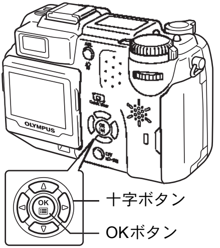
自動再生

カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

モードダイヤル設定 ▶ [▶]

1 静止画を選択して Ⓞ を押し、トップメニューを表示します。

2 △を押すと、自動再生がスタートします。



3 Ⓞ を押すと、自動再生が終了します。

- Ⓞ を押すまで自動再生が繰り返されます。



注意

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、スリープモード（待機状態）になります。

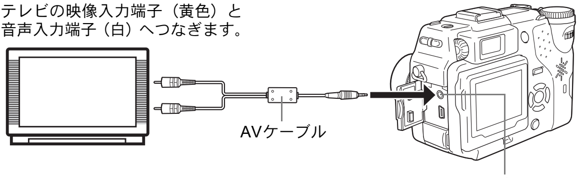
8 再生

テレビ再生

同梱のAVケーブルでテレビに接続して画像を再生します。

モードダイヤル設定 ▶ ▭ [▶]

1 カメラとテレビの電源を切り、AVケーブルでカメラのA/V出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。



2 テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 カメラの電源を入れてモードダイヤルを [▶] に合わせます。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。
- 「クローズアップ再生」、「インデックス再生」、「自動再生」が可能です。

ヒント

- テレビで再生する場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.195）
- AVケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のAVケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。
- テレビには画像全体を表示するために少し小さめに表示され、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠が表示されることがあります。

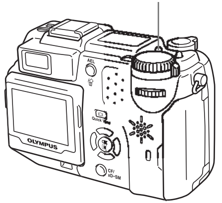
回転再生 ⎌

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

モードダイヤル設定 ▶ ▶

1　1 コマ再生中、⎌（回転再生）ボタンを押します。

- ボタンを押すたびに、画像が反時計方向に90度、時計方向に90度、元の位置の順に回転します。





注意

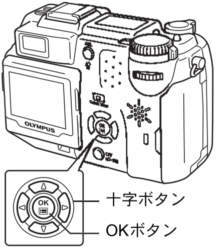
- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像／プロテクトシールを貼ったカードに保存された画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。
- 画像が回転した状態で拡大再生できますが、そのとき画像は回転しません。

音声の録音

撮影済みの静止画に音声を録音（アフレコ）します。また、録音済みの音声を新たに録音し直すこともできます。録音できる時間は1画面につき約4秒間です。

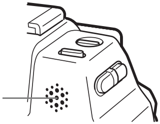
モードダイヤル設定 ▶ ▭ [▶]

1 十字ボタンで音声を録音したい静止画を選択します。

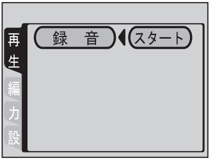


2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［録音］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



3 ▷ を押すと［スタート］が表示されます。



4 カメラのマイクを録音したい対象に向けて OK を押すと、録音が開始されます。

- 録音中を示すバーが表示されます。

注意

- 録音対象がカメラから1m以上はなれると、きれいに録音されません。
- 録音済みの画像に再度録音した場合は、前の音声が消えて新しい音声のみ残ります。
- カード残量がない場合（警告画面が表示されるカード）では、録音できないことがあります。
- 録音中にボタン操作をすると操作音が録音されることがあります。
- 一度録音したら音声のみを消すことはできません。音声を入れず（無音状態）再録音してください。

静止画の編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

リサイズ　画像サイズを640×480、または320×240に変更して、別の画像として保存します。

トリミング　画像の一部を拡大して、別の画像として保存します。

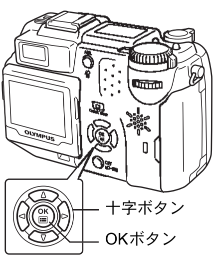
RAW編集　RAWデータ形式で記録した画像にホワイトバランスやシャープネスなどの画像処理を行って、TIFFやJPEGの別の画像として保存します。撮影後に結果を確かめながら、自分のイメージに近い画像にすることができます。

モードダイヤル設定 ▶ ▶

1 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→各編集項目を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- ［リサイズ］を選択　☞ P.158
- ［トリミング］を選択　☞ P.158
- ［RAW編集］を選択　☞ P.160
  RAW編集を選択するときは、画質モードが「RAW」で記録された画像をあらかじめ表示しておきます。



リサイズ

2 [リサイズ]を選択した状態で、▷ を押します。



3 十字ボタンで編集したい静止画を選択し、OK を押します。

4 △▽を押して画像サイズを選択し、OK を押します。

- リサイズを中止するときは［中止］を選択し、OK を押します。

5 △▽を押して画像を保存するカードを選択し、OK を押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは選択できません。
- カードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

6 △▽を押して［決定］を選択し、OK を押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順3に戻ります。

注意
- 次の場合はリサイズできません。
  ムービーやパソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合
- 撮影時の画像サイズが640×480の場合、［640×480］の設定はできません。

8 再生

トリミング

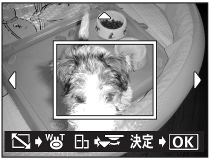
2 [トリミング］を選択した状態で、▷ を押します。

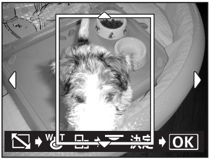


3 十字ボタンで編集したい静止画を選択し、OK を押します。

4 △▽を押して［新規作成］選択し、OK を押します。

5 十字ボタン、ズームレバー、ダイヤルを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。





- △▽◁▷を押してトリミングする位置を移動し、ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。
- ダイヤルでトリミング枠の縦と横を選択します。
- 画像サイズが2560×1920、または2560×1696の場合は、3:2のトリミングサイズが選択できます。

6 OKを押します。

- 設定されたトリミング画像が 1 秒間表示されます。

7 △▽を押して画像を保存するカードを選択し、OKを押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは選択できません。
- カードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

8 △▽を押して［決定］を選択し、OKを押します。



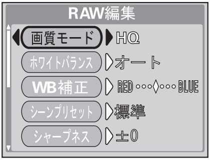
- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順3に戻ります。
- トリミングされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- トリミングをやり直す場合は［再設定］を選択してOKを押します。手順5からやり直します。
- トリミングをやめるときは［中止］を選択してOKを押してください。

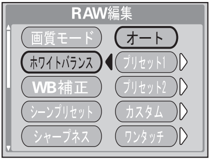
注意

- 次の場合はトリミングできません。
  ムービー／カードの空き容量が不足している場合／
  画質モードを［プリント拡大］に設定した画像
- 他のカメラで撮影した画像は、トリミングできない場合があります。
- 画質モードが3:2に設定した画像をトリミングすると、画像の縦横比は通常の4:3の画像になります。
- トリミングした画像を印刷した場合、粗くなることがあります。

8 再生

RAW編集





2 ［RAW 編集］を選択した状態で、▷を押します。

3 十字ボタンで編集したい画像を選択し、(OK) を押します。

- 画質モードがRAWで記録された画像以外は選択できません。

4 △▽を押して設定する項目を選択し、▷を押します。

5 △▽を押して詳細内容を選択し、◁を押します。

6 必要なすべての項目を設定したら(OK) を押します。

7 △▽を押して画像を保存するカードを選択し、(OK) を押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは選択できません。
- カードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

8 △▽を押して［決定］を選択し、(OK) を押します。

- 作成中を示すバーが表示され、画像が保存された後、手順3に戻ります。

●RAW編集で設定可能な項目

項目	詳細設定	参照頁
画質モード	TIFF／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.128
ホワイトバランス	オート／プリセット1／プリセット2／カスタム／ワンタッチ	P.136
WB補正	±7	P.141
シーンプリセット	標準／ポートレート／風景／夜景	P.145
シャープネス	±5	P.142
コントラスト	±5	P.143
彩度	±5	P.144
ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア	P.125
トリミング	—	P.158

ムービーの編集

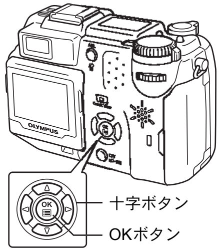
撮影したムービーからインデックスを作成したり、編集することができます。ただし、HQで約75秒、SQで約300秒以上撮影したムービー画像は編集できません。

インデックス作成　作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

ムービー編集　撮影したムービーから必要な部分を切り出して編集します。

モードダイヤル設定 ▶ ▶

1 十字ボタンで のついた画像を選択します。



2 トップメニューから［ムービープレイ］→各編集項目を選択します。

「メニューの操作方法」（P.76）
「ムービーを見る」（P.61）

- ［インデックス作成］を選択 P.161
- ［ムービー編集］を選択 P.163



8
再生

インデックス作成

3 を押して［インデックス作成］を選択し、 を押します。



4 インデックスの先頭のコマを選択します。



- △▽◁▷を押しながら、選択枠内に先頭コマにしたい画像が表示されるまで再生して (OK) を押します。

5 インデックスの後尾のコマを選択します。



- 手順 4 と同様に、△▽◁▷を押しながら、選択枠内に後尾コマにしたい画像が表示されるまで再生して (OK) を押します。

6 △▽を押して画像を保存するカードを選択し、(OK) を押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは選択できません。
- カードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

7 △▽を押して[決定]を選択し、(OK) を押します。



- 再生モードに戻り、ムービーから抜き出された9コマの画像がインデックス表示されます。作成された画像は新規の画像として保存されます。
- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択して (OK) を押します。手順4からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択して (OK) を押してください。

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ1（1024×768ピクセル：高画質）
SQ	SQ2（640×480ピクセル：高画質）

注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

ムービー編集

3 △▽を押して［ムービー編集］を選択し、OK を押します。



4 ムービーの残したい部分の先頭のコマを選びます。

- ◁▷を押しながらムービーを再生し、先頭コマにしたいショットを表示して OK を押します。



5 ムービーの残したい部分の最後のコマを選びます。

- 手順4と同様に、◁▷を押しながら再生し、後尾コマにしたいショットを表示して OK を押します。



6 △▽を押して画像を保存するカードを選択し、OK を押します。

- カメラに挿入されているカードが1種類のときは選択できません。
- カードの空き容量が不足するときは、設定画面に戻ります。

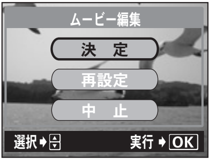
7 **△▽を押して［新規作成］または［上書き保存］を選択し、OKを押します。**



新規作成 編集したムービーを別の名前で新しいムービーとして保存します。

上書き保存 編集したムービーを元のムービーの名前で保存します。元のムービーは失われます。

8 **△▽を押して［決定］を選択し、OKを押します。**



- コマ指定をやり直す場合は［再設定］を選択してOKを押します。手順4からやり直します。
- インデックス作成をやめるときは［中止］を選択してOKを押してください。

- 編集されたムービーが新規作成または上書き保存され、再生モードに戻ります。

注意

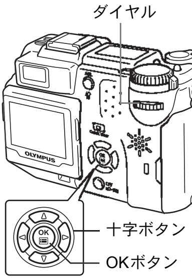
- 他のカメラで撮影した音声付きのムービーは編集できません。
- カードの空き容量が不足している場合は、［新規作成］は選択できません。

画像のコピー

xD ピクチャーカード／スマートメディアとコンパクトフラッシュ／マイクロドライブ間で画像をコピーします。両方にカードが入っていないと、このメニューは選択できません。
選択されているカードがコピー元になります。コピー元を変更する場合はカード切換えボタンを押して変更してください。
☞「カードを切り換える」（P.35）

全コマ　カードに記録されている全ての画像をコピーします。
選択コマ　画像を選択してコピーします。

モードダイヤル設定 ▶ ▭ ▶



1 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→［コピー］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 全コマコピーか選択コマコピーか選択する画面が表示されます。

2 △▽ を押して［全コマ］または［選択コマ］を選択し、▷ を押します。

●［全コマ］を選択



コピーするかどうか確認の画面が表示されますので、［実行］を選択して OK を押します。
コピーが実行され、メニューが終了します。

●［選択コマ］を選択



再生画面が表示されますので、コピーするコマをダイヤルを使って選択し、OK を押します。
コピーが実行されます。
複数のコマをコピーする場合は、この操作を繰り返します。
コピーを終了する場合は OK を押します。

注意
- 同じカード内での画像のコピーはできません。
- ファイル容量が25MB以上の場合（HQで約75秒、SQで約300秒以上のムービーコマ）はコピーができません。このような画像をコピーしようとした場合「コピーできません」という画面が表示されます。

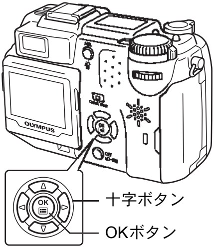
全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

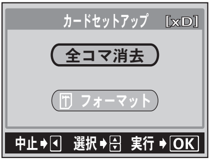
モードダイヤル設定 ▶ [▶]

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.76)



2 △▽を押して［全コマ消去］を選択して、OK を押します。



3 △を押して［消去］を選択して、OK を押します。

- すべての画像が消去されます。



8

再生

9 カメラの便利機能

設定クリアー設定を保持するには

電源を切った後も、変更した設定値を保持するかどうか選択します。保持される機能については、次項の「●設定クリアで設定が元に戻る機能とその設定」を参照してください。
設定クリアの［オン］［オフ］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで設定クリアを［オフ］に設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

オン 電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。
例：「画質モード」を SQ1 に変更しても「設定クリア」が「オン」になっていると電源を入れなおしたとき初期設定のHQに戻っています。

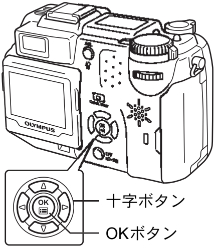
オフ 電源を切っても変更した設定値は保持されます。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［設定クリア］→［オフ］または［オン］を選択し、Ⓞを押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。



注意
- 設定クリアをオンに設定しても、マイモードの設定および設定メニュー項目の設定値は保持されます。

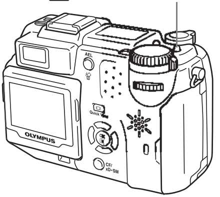
●設定クリアで設定が元に戻る機能とその設定

機能名	初期設定	参照頁	機能名	初期設定	参照頁
絞り値	F1.8	P.97	フルタイムAF	オフ	P.103
シャッター速度	1/1000	P.98	AF方式	iESP	P.102
露出補正	±0	P.134	スチル録音	オフ	P.126
フラッシュ	オート	P.85	ファンクション撮影	オフ	P.125
フラッシュ補正	±0	P.91	ヒストグラム表示	オフ	P.147
AF／マクロ／MF	AF	P.106, 113, 114	画質モード	HQ	P.128
測光	ESP	P.108	ホワイトバランス	オート	P.136
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.115, 116	WB補正	±0	P.141
液晶モニタ	オフ（消灯）	ー	シーンプリセット	標準	P.145
カード切換え	xD・SM	P.35	シャープネス	±0	P.142
光学ズーム	ワイド	P.56	コントラスト	±0	P.143
ドライブ	単写	P.118	彩度	±0	P.144
BKT設定	±1、3枚	P.119	TIFF設定	2560×1920	P.130
ISO感度	オート	P.133	SHQ・HQ設定	2560×1920	P.130
フラッシュ選択	内蔵+外部	P.92	SQ1設定	1600×1200 標準	P.130
スレーブ	1	P.96	SQ2設定	640×480 標準	P.130
スローシンクロ	先幕効果	P.90	情報表示	オフ	P.180
ノイズリダクション	オフ	P.145	リサイズ	640×480	P.158
デジタルズーム	オフ	P.57			

カスタムボタン設定

カスタムボタンに使用頻度の高い機能を登録します。カスタムボタンに登録すると、トップメニュー画面からショートカットメニューやモードメニューを選択して画面を表示するのではなく、カスタムボタンを押して直接、設定画面を表示することができます。
設定画面では、ダイヤルで設定項目を選択して OK を押すと、それぞれの詳細設定画面に進みます。そこでさらに、十字ボタンや OK を押して詳細設定をすることができます。

（カスタム）ボタン



カスタムボタンに設定できる機能	ダイヤルによる設定項目	参照頁
ドライブ(初期設定)	単写、高速連写、連写、AF連写、BKT*	P.118
ISO感度	オート、64、100、200、400	P.133
マイモード選択*	1、2、3、4、5、6、7、8	P.101
ノイズリダクション	オフ、オン	P.145
デジタルズーム	オフ、オン	P.57
フルタイムAF	オフ、オン	P.103
スチル録音	オフ、オン	P.126
ファンクション撮影	オフ、モノクロ、セピア、白板、黒板	P.125
画質モード	HQ*、SQ1*、SQ2*、RAW、TIFF*、SHQ*	P.128
ホワイトバランス	オート、プリセット1*、プリセット2*、カスタム*、ワンタッチ	P.136
シーンプリセット	標準、ポートレート、風景、夜景	P.145
シャープネス	－5～±0～＋5	P.142
コントラスト	－5～±0～＋5	P.143
彩度	－5～±0～＋5	P.144

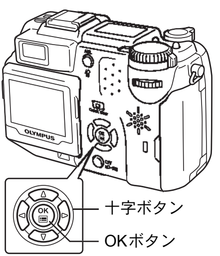
* さらに詳細を設定するためのサブメニューがあります。

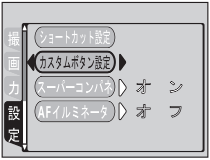
カスタムボタンに機能を登録する

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［カスタムボタン設定］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）





2 △▽を押して設定する機能を選択し、OKを押します。

• 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



注意

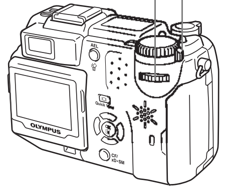
• カスタムボタン設定に［マイモード選択］を登録した場合、モードダイヤルを MY 以外に合わせて（カスタム）ボタンを押しても、受け付けられません。モードダイヤルを MY に合わせて（カスタム）ボタンを押してください。マイモード選択画面が表示されます。

カスタムボタンを使う

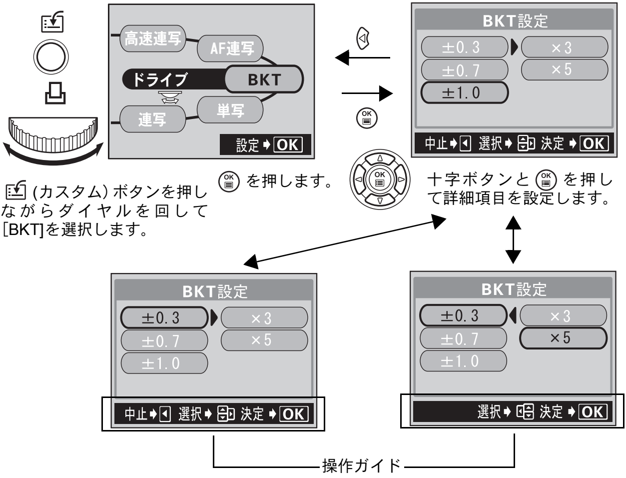
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 (カスタム)ボタンを押します。

- 液晶モニタが点灯し、登録した機能がメニュー表示されます。



例)カスタムボタンにドライブを登録した場合
BKTを設定します。画面下部の操作ガイドにしたがって設定します。

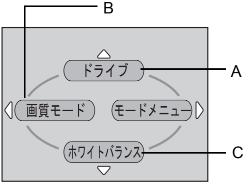


9

カメラの便利機能

ショートカット設定

静止画撮影モード（P / A / S / M / ）のトップメニューのショートカットメニュー（A、B、C）を登録します。
使用頻度の高い機能をショートカットメニューとして登録しておくと、ダイレクトにその機能の設定画面までジャンプできるので便利です。



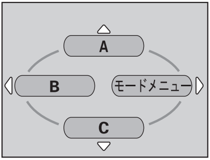
トップメニュー

初期値
A: ドライブ
B: 画質モード
C: ホワイトバランス

ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁	ショートカットメニューに登録できる機能	参照頁
ドライブ	P.118	合成ツーショット	P.123
ISO感度	P.133	ファンクション撮影	P.125
マイモード選択	P.101	ヒストグラム表示	P.147
フラッシュ選択	P.92	画質モード	P.128
スローシンクロ	P.90	ホワイトバランス	P.136
ノイズリダクション	P.145	WB補正	P.141
デジタルズーム	P.57	カスタムWB登録	P.138
フルタイムAF	P.103	シーンプリセット	P.145
AF方式	P.102	シャープネス	P.142
スチル録音	P.126	コントラスト	P.143
パノラマ	P.121	彩度	P.144

ショートカットメニューを登録する

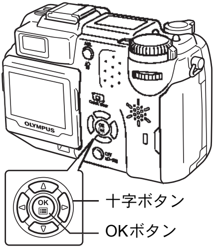
右図のA、B、Cの位置のショートカットメニューを登録します。



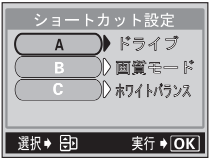
モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ショートカット設定］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

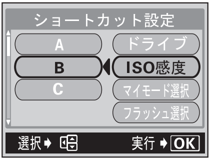


2 △▽を押して［A］または［B］、［C］を選択し、▷を押します。



3 △▽を押して設定する機能を選択し、Ⓞを押します。

- ショートカットメニューが設定されました。
- 再度Ⓞを押すと、メニューが終了します。



9

カメラの便利機能

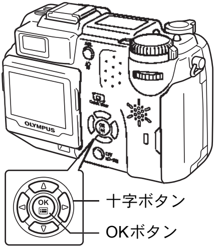
ショートカットメニューを使う

設定したショートカットメニューを使用します。

モードダイヤル設定 P A S M

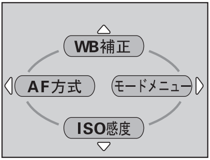
1 ㊫を押してトップメニューを表示します。

- 登録したショートカットメニューがトップメニューに表示されます。

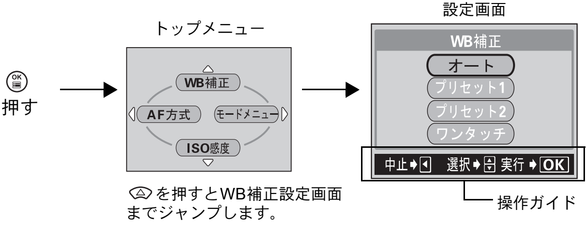


2 △または◁▽を押して、ショートカットメニューを選択します。

- 設定した機能の設定画面までジャンプします。



（例）ショートカットメニュー Aに「WB補正」を登録した場合



3 画面下部の操作ガイドにしたがって設定します。

マイモード設定

撮影に関する機能を自由に設定し、マイモードとして登録します。**P** / **A** / **S** / **M** モードで使用中に、設定している内容をマイモードとして登録することもできます。
マイモードを設定してモードダイヤルを MY にすると、その設定で撮影することができます。マイモード設定は、マイモード1〜8まで8種類のパターンが設定できます。マイモード1のみ初期値が設定されています。

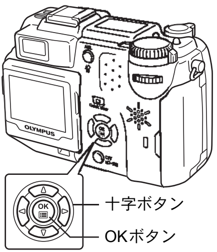
●マイモード設定が適応される項目

マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁	マイモード設定が可能な項目	初期値	参照頁
P/A/S/M/S-Prg	P	P.65	ノイズリダクション	オフ	P.145
絞り値	F. 1.8	P.97	デジタルズーム	オフ	P.57
シャッタ速度	1/1000	P.98	フルタイムAF	オフ	P.103
露出補正	±0	P.134	AF方式	iESP	P.102
xD・SM/CF	xD・SM	P.35	スチル録音	オフ	P.126
LCD	オン	―	パノラマ	オフ	P.121
ズーム位置	35mm	―	合成ツーショット	オフ	P.123
フラッシュ	オート	P.85	ファンクション撮影	オフ	P.125
フラッシュ補正	±0	P.91	ヒストグラム表示	オフ	P.147
スポット	ESP	P.108	画質モード	HQ	P.128
セルフ／リモコン	オフ	P.115, 116	ホワイトバランス	オート	P.136
AF／マクロ／MF	AF	P.106, 113, 114	WB補正	±0	P.141
ドライブ	単写	P.118	シーンプリセット	標準	P.145
ISO感度	オート	P.133	シャープネス	±0	P.142
フラッシュ選択	内蔵＋外部	P.92	コントラスト	±0	P.143
スローシンクロ	先幕効果	P.90	彩度	±0	P.144

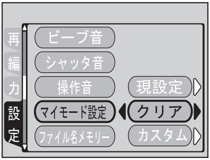
モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［マイモード設定］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押してマイモード設定の種類を選択し、▷を押します。



現設定　現在のカメラの設定を一括して登録します。
クリア　現在登録されている設定を初期値に戻します。
カスタム　1つずつ機能を登録します。

- マイモード登録画面が表示されます。

3 設定するマイモードのNo.を選択します。

- △▽を押して［マイモード1］～［マイモード8］を選択し、OKを押します。



●手順2で［現設定］を選択

4 △▽を押して［登録］を選択し、OKを押します。

- 選択したマイモードに現在のカメラの設定が登録されます。



9 カメラの便利機能

●手順2で［クリア］を選択

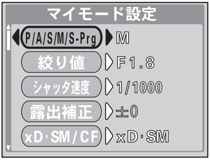
4　△▽を押して［クリア］を選択し、OKを押します。



- 選択したマイモードに登録されている設定がクリアされます。
  何も登録されていないとマイモード撮影で選択できません。

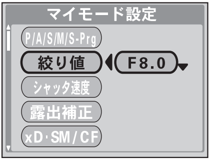
●手順2で［カスタム］を選択

4　△▽を押してマイモードに設定するカスタム設定項目を選択し、▷を押します。



- カスタム設定項目については、「マイモード設定が適応される項目」（P.175）を参照してください。

△▽を押してカスタム設定項目の設定を変更し、OKを押します。



- 設定内容が保存されます。
- 必要に応じて他のカスタム設定項目の設定も変更します。

5　すべての設定が終了したらOKを押します。

- 手順2の画面に戻ります。
- 再度OKを押すと、メニューが終了します。

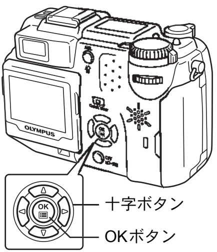
9

カメラの便利機能

カードのフォーマット

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M ▶



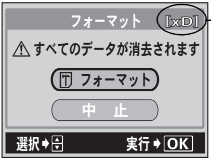
1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］→を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- P A S M
  フォーマット画面が表示されます。
- ▶
  カードセットアップ画面が表示されます。

2 モードダイヤルがP A S Mの場合は、△を押して［フォーマット］を選択します。

▶の場合は、△を押して［フォーマット］を選択し、OKを押します。フォーマット画面が表示されますので、△を押して［フォーマット］を選択します。



フォーマットしようとしているカードが表示されます。

3 OKを押します。

- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。



9 カメラの便利機能

注意

- フォーマット中は絶対にカードカバーを開けたり、電池を取り外したりしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- フォーマット中はACアダプタの抜き差しをしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- 当社製テンプレートカード（別売）をフォーマットすると、カード中のテンプレート情報は失われます。テンプレートカード中の画像データをパソコンにバックアップすることをおすすめします。詳しくはテンプレートカードの説明書をお読みください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるスマートメディアはフォーマットできません。シールをはがしてからフォーマットしてください。はがしたシールは再使用しないでください。

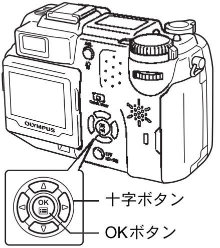
情報表示

再生時の画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」（P.21）を参照してください。

モードダイヤル設定 ▶ ▭ [▶]

1 トップメニューで ◁ を押すと詳細情報が表示されます（オン）。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



- Ⓞを押し、もう一度トップメニューを表示させて ◁ を押すと詳細情報が表示されなくなります（オフ）。



情報表示オンの時



情報表示オフの時

注意

- このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でも日付、コマNo、電池残量だけが表示されます。
- ヒストグラム表示が設定されているときは、情報表示オン／オフに関わらずヒストグラムが表示されます。
- DPOFを使用せずにプリントサービスを利用する場合に指定するファイル番号は、情報表示をオンにしたときに表示されます。
  ☞「プリントについて」（P.198）

スーパーコンパネ表示

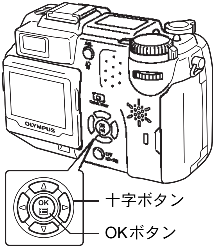
撮影モード時、液晶モニタにコントロールパネルの表示内容をより見やすく表示します。被写体を表示したり、メニューを表示するときは [IOI] を押すと、液晶モニタの表示が切り換わります。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［スーパーコンパネ］→［オン］を選択し、(OK) を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

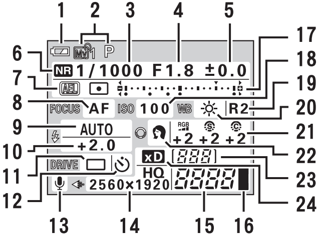
- 再度 (OK) を押すと、メニューが終了します。
- 液晶モニタにスーパーコンパネが表示されます。
- スーパーコンパネ画面の各項目の詳細については、次項の「●スーパーコンパネ画面表示」（P.182）を参照してください。



注意

- マクロ撮影やデジタルズームなど、液晶モニタを使って撮影する機能に設定されているときは、液晶モニタに被写体が表示されます。

●スーパーコンパネ画面表示



1 電池残量
2 撮影モード
3 シャッター速度
4 絞り値
5 露出補正値
6 ノイズリダクション
7 AEロック／AEメモリ
8 フォーカスモード
9 フラッシュモード
10 フラッシュ補正値
11 ドライブ
12 セルフタイマー／リモコン
13 録音
14 画質モード、画素数
15 撮影可能枚数／撮影可能秒数
16 メモリゲージ
17 スポット測光／マルチ測光ポイント
18 ISO感度
19 WB補正
20 ホワイトバランス
21 彩度、シャープネス、コントラスト
22 シーンプリセット
23 フォルダ番号
24 使用カード

- 撮影モード時は液晶モニタに常にスーパーコンパネが表示されます。
- ダイレクトボタンを押すと、スーパーコンパネ上に設定項目が緑で表示されます。ダイヤルを回して、スーパーコンパネで設定値を確認しながら設定することができます。

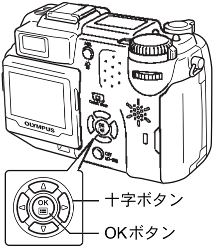
モニタ調整

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 液晶モニタを見ながら△▽を押して明るさを調整し、設定が決まったら OK を押します。

- △を押すと明るくなり、▽を押すと暗くなります。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



9

カメラの便利機能

レックビュー

撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

オン　撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

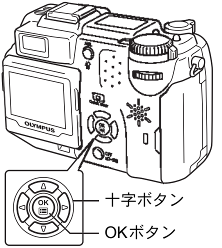
オフ　記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［レックビュー］→［オフ］または［オン］を選択し、OK を押します。

「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



注意

- レックビューをオンに設定して液晶モニタを消して撮影しているとき、電池残量が少ない場合はレックビュー表示をしないことがあります。

9 カメラの便利機能

ビープ音

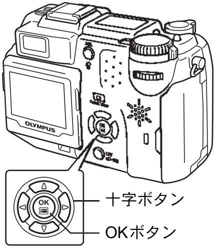
カメラが発する警告音の音量を「オフ」「小」「大」から選択します。ご購入時は「大」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］→［オフ］または［小］、［大］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



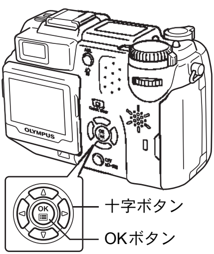
操作音

メニュー表示などカメラのボタン操作をしたときに発する操作音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を「小」「大」から選択できます。ご購入時は音色「1（ピッ)」、音量「小」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

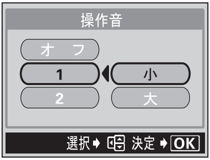
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［操作音］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.76)



2 ［1］または［2］を選択して▷を押し、さらに［小］または［大］を選択してOKを押します。

- 無音に設定する場合は［オフ］を選択し、OKを押します。
- 再度OKを押すと、メニューが終了します。



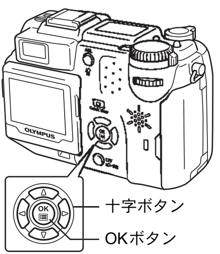
シャッター音

シャッターボタンを押して撮影したときに発するシャッター音の音色を2種類から選びます。さらに、それぞれの音量を「小」「大」から選択できます。ご購入時は音色「1」、音量「小」に設定されています。音を消す場合は「オフ」に設定してください。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

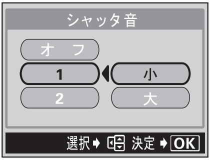
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［シャッタ音］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 ［1］または［2］を選択して▷を押し、さらに［小］または［大］を選択して OK を押します。

- 無音に設定する場合は［オフ］を選択し、OK を押します。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



9

カメラの便利機能

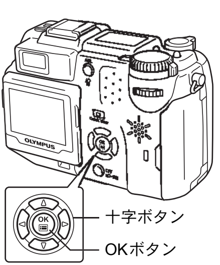
再生音量

静止画の音声メモやムービー再生時の音量、電源をオン／オフするときの音量を設定します。5段階の音量が設定できます。

モードダイヤル設定 ▶ [▶]

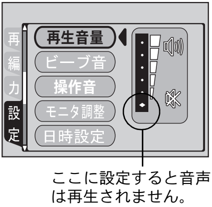
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［再生音量］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して音量を設定し、OK を押します。

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



9

カメラの便利機能

PW ON／PW OFF設定

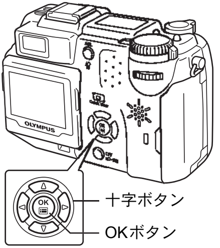
電源を入れた時や切った時に表示される画面と音を設定します。自分で画像を登録して設定することをできます。☞「画面登録」（P.190）

PW ON設定　電源を入れた時の画面と音を設定
PW OFF設定　電源を切った時の画面と音を設定

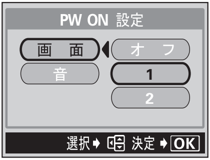
モードダイヤル設定　P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［PW ON］（［PW OFF］）を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

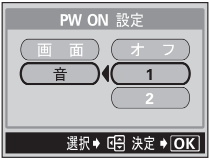


2 ⊜⊝を押して［画面］を選択し、PW ON時またはPW OFF時の画面を設定します。⊜⊝を押して［オフ］または［1］［2］を選択し、⊲を押します。



オフ　画面表示なし
1　初期設定画面
2　自分で登録した画像が選択できます。何も登録されていないと、電源を入れたとき／切ったときに何も表示されません。

3 ⊜⊝を押して［音］を選択し、PW ON時またはPW OFF時の音を設定します。⊜⊝を押して［オフ］または［1］［2］を選択し、⊲を押します。



- 無音にする場合は、［オフ］を選択します。
- 音量は再生音量で設定した音量です。☞「再生音量」（P.188）
- 設定が終了したら Ⓞ を押します。
  メニューが消えるまで繰り返し Ⓞ を押します。

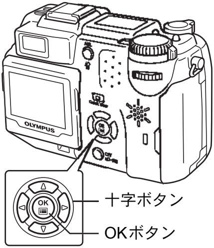
画面登録

電源を入れた時や切ったときに表示される画面を登録します。カードに保存されている画像から登録することができます。登録した画面を表示するときはPW ON／PW OFF設定を行います。
☞「PW ON／PW OFF設定」（P.189）

PW ON　電源を入れた時の画面を登録
PW OFF　電源を切った時の画面を登録

モードダイヤル設定 ▶ ▭ ▶

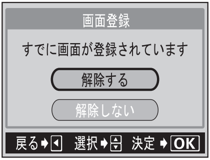
1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［画面登録］を選択し ▷ を押します。
☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 △▽を押して［PW ON］または［PW OFF］を選択し、OK を押します。

- すでに画像が登録されている場合は、登録済みの画像を解除して新たに画像を登録するかどうか確認するメッセージが表示されます。画面を登録する場合は［解除する］を選択し、OK を押します。［解除しない］を選ぶと［PW ON］［PW OFF］を選択する画面に戻ります。





3 十字ボタンで登録する画像を選択し、OK を押します。

4 を押して[決定]を選択し、を押します。

- 画面登録され、手順2に戻ります。続けて画面登録することができます。
- を押すと、メニューに戻ります。

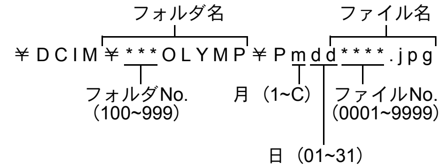


注意

- このカメラで正しく再生できない画像およびムービーコマは、画面登録できません。

ファイル名メモリー

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.（0001-9999）、フォルダNo.（100-999）を含み、以下のように付けられます。



- ファイル名の「月」の表記は、1月～9月は1～9、10月はA、11月はB、12月はCとなります。

フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、［リセット］［オート］の2種類あります。パソコンで画像を取り込む際に、扱いやすい方をお選びください。

ファイル名メモリーの設定

リセット　カードを入れ換えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No. 100」に、ファイルNo.は「No. 0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

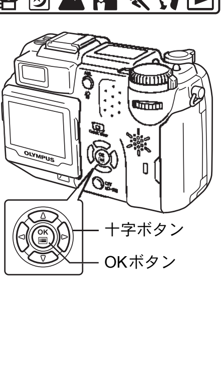
オート　カードを入れ換えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。すべての画像を通し番号で管理するのに便利です。

モードダイヤル設定　P A S M

1　トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ファイル名メモリー］→［リセット］または［オート］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



9
カメラの便利機能

注意

- ファイルNo.が9999を超えるとファイルNo.は0001に戻り、フォルダNo.が変わります。
- 最大のフォルダNo.999、ファイルNo.9999に達すると、カードに残量があっても撮影可能枚数が0になり撮影できません。新しいカードに取り換えてください。

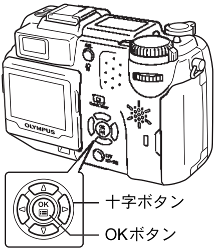
ピクセルマッピング

CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほど時間を空けた後に実行します。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ピクセルマッピング］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）



2 OKを押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。



注意

- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

m／ft設定

マニュアルフォーカスモード時の画面に表示される距離の単位を選択します。

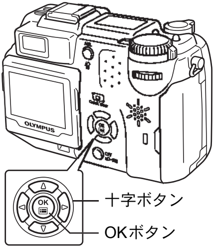
m　長い距離はメートル、短い距離はセンチで表示します。
ft　長い距離はフィート、短い距離はインチで表示します。

モードダイヤル設定 ▶ P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［m／ft］→［m］または［ft］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



9
カメラの便利機能

ビデオ出力

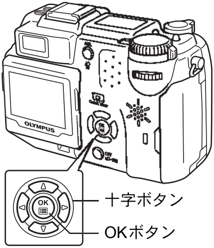
お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。「ビデオ出力」はビデオケーブルを接続する前に選択してください。間違った映像（ビデオ）信号を選択すると、テレビで画像が正しく再生できません。

モードダイヤル設定 P A S M

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ信号］→［NTSC］または［PAL］を選択し、OK を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.76）

- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。



ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号

カメラをお使いのときは、あらかじめご確認ください。

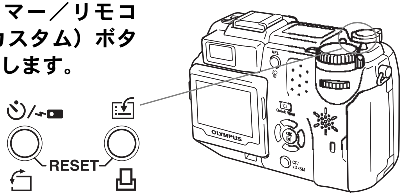
NTSC　日本、台湾、韓国、北米
PAL　ヨーロッパ諸国、中国

オールリセット

設定した項目をリセットして初期値に戻します。

モードダイヤル設定 P A S M

1 （セルフタイマー／リモコン）ボタンと（カスタム）ボタンを同時に3秒間押します。



リセットされる項目

機能名	初期設定	参照頁	機能名	初期設定	参照頁
絞り値	F1.8	P.97	フルタイムAF	オフ	P.103
シャッター速度	1/1000	P.98	AF方式	スポット	P.102
露出補正	±0	P.134	スチル録音	オフ	P.126
ヒストグラムターゲット	中央	P.149	パノラマ	オフ	P.121
フラッシュ	オート	P.85	合成ツーショット	オフ	P.123
フラッシュ補正	±0	P.91	ファンクション撮影	オフ	P.125
AF／マクロ／MF	AF	P.106, 113, 114	ヒストグラム表示	オフ	P.147
AFターゲット	中央	P.104	画質モード	HQ	P.128
測光	ESP	P.108	ホワイトバランス	オート	P.136
AEロック（マルチ測光）	オフ	P.111	WB補正	±0	P.141
セルフタイマー／リモコン	オフ	P.115, P.116	シーンプリセット	標準	P.145

機能名	初期設定	参照頁
液晶モニタ	オフ （消灯）	ー
カード切換え	xD・SM	P.35
ドライブ	単写	P.118
BKT設定	±1、3枚	P.119
ISO感度	オート	P.133
フラッシュ選択	内蔵+外部	P.92
スレーブ	1	P.96
スロー シンクロ	先幕効果	P.90
ノイズ リダクション	オフ	P.145

機能名	初期設定	参照頁
シャープネス	±0	P.142
コントラスト	±0	P.143
彩度	±0	P.144
TIFF設定	2560×1920	P.130
SHQ・HQ 設定	2560×1920	P.130
SQ1設定	1600×1200 標準	P.130
SQ2設定	640×480 標準	P.130
情報表示	オフ	P.180

10 プリント予約

プリントについて

画像をプリントするには、以下の方法があります。

●プリント予約を設定してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。
•DPOFとは
Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。
プリント予約したカードをDPOF対応のお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントできます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

●オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400／P-200／P-330Nでプリント

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
xDピクチャーカードを直接プリンタに差し込むことはできません。カードアダプタが必要です。（別売）

●画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント

カメラとパソコンの接続や画像の転送については、別冊の「デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書」をお読みください。
パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016
フォルダの通し番号　画像の通し番号

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi （dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpi の値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質モード」（P.128）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マークは表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- 当社製デジタルプリンタP-300など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330N で印刷する場合、カード内に記録された 999 枚目以降の画像はプリントできません。
- TIFF で記録された画像は、プリントできない場合があります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。
- RAWデータで記録された画像は、プリント予約できません。

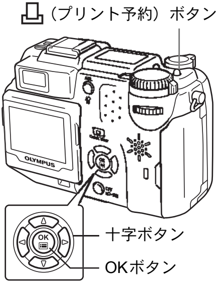
全コマ予約

カードの中の全画像をプリント予約します。プリントする枚数と撮影日時のプリントを指定することができます。

モードダイヤル設定 ▶ [▶]

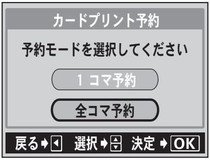
1 静止画を再生します。

- 🎥のついた画像はプリントできません。



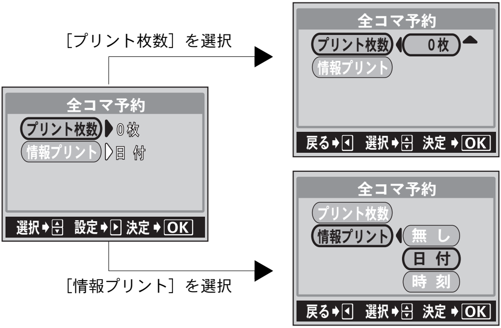
2 （プリント予約）ボタンを押してカードプリント予約画面を表示します。△▽を押して、［全コマ予約］を選択し、OKを押します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」（P.207）



3 △▽を押して、［プリント枚数］［情報プリント］から選択し、▷を押します。

4 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。



●プリント枚数を設定するには

△▽を押してプリント枚数を設定し、(OK)を押します。
続けて情報プリントを設定するにはプリント枚数設定後◁を押して手順 3 に戻ります。

△ ：枚数が増えます。
▽ ：枚数が減ります。

●情報プリントを設定するには

△▽を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、(OK)を押します。

無し　画像のみプリントされます。
日付　全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻　全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

- プリント枚数、情報プリントの設定後、(OK)を押すと、再生メニューに戻ります。

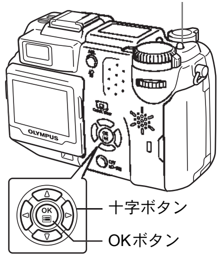
1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。プリントするコマを表示してプリント枚数を設定します。

モードダイヤル設定 ▶ ▶

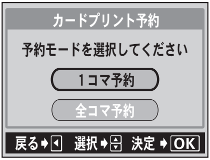
1 静止画を再生します。

- 🎞 のついた画像はプリントできません。



2 (プリント予約) ボタンを押してカードプリント予約画面を表示します。△▽を押して、[1コマ予約] を選択し、OK を押します。

- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」(P.207)



3 プリント予約したいコマを十字ボタン、またはダイヤルを使って選択し、OK を押します。



4 プリント予約したい内容に応じて、十字ボタンで項目を選択します。



詳細予約 プリント枚数、情報プリント、トリミングを設定します。→手順5

1枚予約 プリント枚数が1枚の設定のみです。情報プリント、トリミングの設定はありません。→手順6

予約解除 プリント予約を解除します。→「予約解除」（☞ P.204）

予約終了 プリント予約を終了します。→手順7

5 △▽を押して、［プリント枚数］［情報プリント］［トリミング］から選択し、▷を押します。



6 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

△▽を押してプリント枚数を設定し、(OK)を押します。
続けて情報プリント、トリミングの設定をするにはプリント枚数の設定後、◁を押して手順5に戻ります。

△ ：枚数が増えます。
▽ ：枚数が減ります。



●情報プリントを設定するには

△▽を押して［無し］［日付］［時刻］を選択し、(OK)を押します。

無し 画像のみプリントされます。

日付 全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻 全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。



10

プリント予約

●トリミングをするには

☞「トリミング」（P.205）

プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定後、◁を押すと、手順3の画面に戻ります。

7 Ⓞを押して1コマ予約メニュー画面を表示させます。

8 ◁を押して［予約終了］を選択します。

- カードプリント予約画面に戻ります。
- 再度◁を押すと予約確認の画面が表示され、もう一度◁を押すと、再生メニューに戻ります。プリント予約した画像がない場合は予約確認の画面は表示されません。

予約解除

手順4で［予約解除］を選択すると、解除するコマを選択する画面が表示されます。



1 プリント予約を解除するコマを選択しⓄを押します。

2 上記の画面が表示されますので、◁を押して［予約終了］を選択します。

- カードプリント予約画面に戻ります。
- 再度◁を押すと予約確認の画面が表示され、もう一度◁を押すと、再生メニューに戻ります。プリント予約した画像がない場合は予約確認の画面は表示されません。

トリミング

撮影した画像の一部を拡大してプリントします。

モードダイヤル設定

1　1コマ予約画面で を押して［トリミング］を選択し を押します。

「1コマ予約」（P.202）

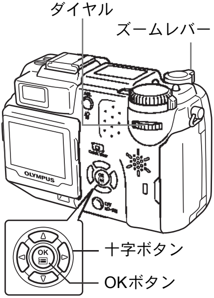
2　 を押して［設定］を選択し、 を押します。



- すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、 をを押して［再設定］を選択し、 を押します。

決定　設定されているトリミングを保存します。1コマ予約画面に戻ります。
再設定　再度トリミングをし直します。→手順 3
中止　設定されているトリミングを解除します。1コマ予約画面に戻ります。

3　十字ボタン、ズームレバー、ダイヤルを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。



- を押してトリミングする位置を移動し、ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。
- ダイヤルでトリミング枠の縦と横を選択します。

4　 を押します。

- 設定されたトリミング画像が 1 秒間表示されます。



5 ⊜⊝を押して［決定］を選択し、㊋を押します。



- 作成中を示すバーが表示された後、1コマ予約画面に戻ります。
- トリミングをやり直す場合は［再設定］を選択して㊋を押します。手順3からやり直します。
- トリミングをやめるときは［中止］を選択して㊋を押してください。

6 ㊋を押すとプリント予約が設定され、画像の選択に戻ります。再び㊋を押します。

7 ◁を押して［予約終了］を選択します。



- 再度◁を押すとカードプリント予約画面に戻ります。

注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行うためには、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をおすすめします。
- 元の画像はトリミングされていません。トリミングに対応していないプリンタでは、通常のプリントになります。
- トリミングを設定した画像を回転再生しないでください。トリミングで指定した範囲が変わります。
- 3:2で記録されている画像も、縦横比が4:3に固定されます。

プリント予約の解除

カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

モードダイヤル設定

1 静止画を再生します。

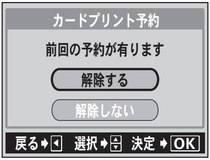
- のついた画像はプリントできません。

2 （プリント予約）ボタンを押します。

- プリント予約した画像がある場合は、予約を解除する画面が表示されます。

3 を押して［解除する］を選択し、を押します。

- プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。
- カードプリント予約画面が表示されます。プリント予約をやめるときはボタンを押して再生メニューに戻ります。



ヒント

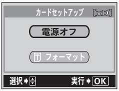
選択した画像のみ予約を解除する場合

「解除しない」を選択し、を押します。
「1コマ予約」（P.202）の手順2の画面が表示されますので、手順2、3と進み、手順4で［予約解除］を選択します。

11 その他

エラーコード表示

コントロールパネル	液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
- - -	カードを 認識できません	カードが入っていません。 または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。 市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
- E -	このカードは 使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
- P -	書き込み禁止に なっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影する場合はカードのプロテクトシールをはがしてください。 詳しくはカードの取扱説明書をご覧ください。
0	撮影可能枚数が 0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
0	カード残量が ありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
0 0 0	画像が記録 されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が記録されていません。撮影してから再生してください。

表示なし	! この画像は 再生できません	選択した画像が再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。
- O -	 カードカバーが 開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
- F -		カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
表示なし	! コピーできません	25MB以上の画像(HQ で約 75 秒、SQで約300秒以上のムービーコマ)はカード間のコピーができません。	1コマコピーで左記の画像を避けてコピーしてください。

故障かな？と思ったら

●うまく操作ができない

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	パワースイッチをONにしてください。	P.37
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れなおしてください。	P.27
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.24
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	ー
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.38
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	ー
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	ー

* 結露：　外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
再生モードになっている	モードダイヤルを ▶ 以外にしてください。	P.46
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指をはなし、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.86
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.64, 166, 178
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった（コントロールパネルの電池残量マークのみが点滅している）	新しい電池を入れてください。（カード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.27
液晶モニタのメモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.24

スマートメディアにライトプロテクトシールが貼られている	新しいカードを入れるか、スマートメディアのライトプロテクトシールをはがしてください。	P.31
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.208

フラッシュが発光しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.85
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.85
連写（連写・高速連写・AF連写・オートブラケット撮影）が設定されている	連写ではフラッシュはご使用になれません。 ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.118
ムービーモードに設定されている	ムービーモードではフラッシュはご使用になれません。 以外の撮影モードにしてください。	P.54
ファンクション撮影の白板・黒板モードが設定されている	ファンクション撮影の白板・黒板モードではフラッシュはご使用になれません。	P.125
スーパーマクロモード撮影をしている	スーパーマクロモードではフラッシュはご使用になれません。スーパーマクロを「オフ」に設定してください。	P.114
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。 パノラマ撮影を解除してください。	P.121

ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
原因	こうしましょう	参照ページ
電池の残量がない	新しい電池を入れてください。	P.27

液晶モニタが点灯しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.37

ファインダが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
視度調節が正しくない	AFターゲットマークがはっきり見えるように調整してください。	P.44

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ調整」で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.183
太陽光の下である	液晶モニタを引き出して下に向けて使用するか、太陽の光を手などでさえぎってください。	ー

液晶モニタ上で再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	モードダイヤルを ▶ に合わせてから、パワースイッチをONにしてください。	P.59
撮影モードになっている	🔲 をすばやく 2 回押すか、モードダイヤルを ▶ にしてください。	P.59, 60
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	ー
カードに問題がある	「エラーコード表示」でご確認ください。	P.208
テレビに接続している	AVケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.154

日本語以外の言語で画面表示される		
原因	こうしましょう	参照ページ
表示言語が日本語以外に設定されている	言語の設定を「日本語」に設定してください。	P.40

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.42
電池が少なくなってきた	電池が少なくなると、日時設定が解除されたり遅れたりします。新しい電池を入れて、日時を設定してください。	P.27, 42

電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で数時間放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.27, 42

画像の消去・プロテクト・回転・プリント予約ができない、カードのフォーマットができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
スマートメディアにプロテクトシールが貼られている	スマートメディアのプロテクトシールをはがしてから操作してください。はがしたシールは再使用しないでください。	P.31

設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
原因	こうしましょう	参照ページ
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定」タブにある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.167

カメラとテレビを接続してもテレビに映像がでない		
原因	こうしましょう	参照ページ
カメラの映像出力信号が間違っている	使用する地域のビデオ出力の設定に合わせてください。	P.195
再生モードになっていない	モードダイヤルを ▶ にしてください。	P.154
テレビの映像信号の設定が間違っている	テレビを映像入力モードにしてください。	P.154

●画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.85
被写体が明るすぎた	露出補正をマイナス（−）側に設定するか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.134

撮影した画像が暗い		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.45

撮りたいものがフラッシュ撮影範囲内より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.85
フラッシュが「発光禁止」になっていた	フラッシュを「発光禁止」以外に設定してください。	P.85
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.85, 108
連写モードで撮影した	連写モードはシャッタースピードが短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.118

室内で撮影した画像の色がおかしい		
原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.136
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.85
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.136

画像の一部が欠けてしまった		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.45
撮影距離が近かった	液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.48
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	P.227

ピントが合っていない		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.45

被写体との距離が近すぎた	被写体との距離は20cm以上はなして撮影してください。20cmよりも近づいて撮影するときは、スーパーマクロモードに設定してください。	P.113, 114
フラッシュが必要な暗い状況で「発光禁止」に設定していた	シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.85

画像のハレーション部に不自然な色がつく

原因	こうしましょう	参照ページ
紫外線の影響で輝度差の大きい被写体（木漏れ日、夜景での明るい窓の枠、直射日光下の金属の反射など）を撮影すると、発生する場合があります。	• UV フィルターを使用します。全体の色再現バランスを崩す場合がありますので、左記の条件下のみでの使用をおすすめします。 • 画像をパソコンでレタッチします。フォトレタッチソフト（Photoshop、PaintShop Pro など）を使用して、レタッチします。不自然な色の部分をスポイトツールなどで抽出したあと、色域指定を行ない、色変換や色彩度の調整をする方法があります。レタッチの方法は、各ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。	ー

メニュー一覧

●P/A/S/M/ / / / / / モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ドライブ※1	単写／高速連写／連写／AF連写／BKT	P.118
		ISO感度	オート／64／100／200／400	P.133
		マイモード選択※2	マイモード1～マイモード8	P.101
		フラッシュ選択	内蔵+外部／外部／スレーブ	P.92
		スローシンクロ	先幕効果／先幕•赤目効果／後幕効果	P.90
		ノイズリダクション※3	オフ／オン	P.145
		デジタルズーム	オフ／オン	P.57
		フルタイムAF	オフ／オン	P.103
		AF方式	iESP／スポット	P.102
		スチル録音	オフ／オン	P.126
		パノラマ※4		P.121
		合成ツーショット		P.123
		ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア／白板／黒板	P.125
		ヒストグラム表示※5	オフ／ オン／オン	P.147
	画　像	画質モード	RAW／TIFF／SHQ／HQ／SQ1／SQ2	P.128
		ホワイトバランス	オート／プリセット1／プリセット2／カスタム／ワンタッチ	P.136
		WB補正	−7～+7	P.141
		カスタムWB登録	カスタム1／カスタム2／カスタム3／カスタム4	P.138
		シーンプリセット※3	標準／ポートレート／風景／夜景	P.145
		シャープネス	−5～+5	P.142
		コントラスト	−5～+5	P.143
		彩度	−5～+5	P.144
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.178

次のページにつづく

● P / A / S / M モード（つづき）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	設 定	設定クリア※6	オフ／オン	P.167
		(言語設定)	日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.40
		PW ON設定	オフ／1／2	P.189
		PW OFF設定	オフ／1／2	P.189
		レックビュー	オフ／オン	P.184
		ビープ音	オフ／小／大	P.185
		シャッタ音	オフ／1／2	P.187
		操作音	オフ／1／2	P.186
		マイモード設定	現設定／カスタム／クリア	P.175
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.192
		ピクセルマッピング		P.193
		モニタ調整		P.183
		日時設定		P.42
		m／ft設定	m／ft	P.194
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.195
		ショートカット設定	A／B／C	P.172
		カスタムボタン設定		P.169
		スーパーコンパネ	オフ／オン	P.181
		AFイルミネータ	オフ／オン	P.105
(ドライブ)			ショートカット設定で登録した機能	
(画質モード)			ショートカット設定で登録した機能	
(ホワイトバランス)			ショートカット設定で登録した機能	

※1 モードでは選択できません。

※2 モード以外では選択できません。

※3 モードでは選択できません。

※4 A S M モードでは選択できません。

※5 M モードでは選択できません。

※6 モードでは選択できません。

11

その他

●  モード

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ISO感度	オート／64／100／200／400	P.133
		デジタルズーム	オフ／オン	P.57
		フルタイムAF	オフ／オン	P.103
		ファンクション撮影	オフ／モノクロ／セピア	P.125
	画　像	WB補正	−7～+7	P.141
		シーンプリセット	標準／ポートレート／風景／夜景	P.145
		シャープネス	−5～+5	P.142
		コントラスト	−5～+5	P.143
		彩度	−5～+5	P.144
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.178
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.167
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.40
		PW ON設定	オフ／1／2	P.189
		PW OFF設定	オフ／1／2	P.189
		ビープ音	オフ／小／大	P.185
		操作音	オフ／1／2	P.186
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.192
		ピクセルマッピング		P.193
		モニタ調整		P.183
		日時設定		P.42
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.195
		スーパーコンパネ	オフ／オン	P.181
ムービー録音				P.127
画質モード			HQ／SQ	P.128
ホワイトバランス			オート／プリセット1／プリセット2／カスタム／ワンタッチ	P.136

● ▶ モード(静止画)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	録音	スタート	P.156
	編　集	RAW編集	画質モード／ホワイトバランス／WB補正／シーンプリセット／シャープネス／コントラスト／彩度／ファンクション撮影／トリミング	P.160
		リサイズ	640×480／320×240／中止	P.158
		トリミング	新規作成／中止	P.158
		コピー	全コマ／選択コマ	P.165
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.166, 178
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.167
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.40
		PW ON設定	オフ／1／2	P.189
		PW OFF設定	オフ／1／2	P.189
		画面登録	PW ON／PW OFF	P.190
		再生音量		P.188
		ビープ音	オフ／小／大	P.185
		操作音	オフ／1／2	P.186
		モニタ調整		P.183
		日時設定		P.42
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.195
		インデックス表示	4／9／16	P.152
自動再生				P.153
情報表示				P.180
ヒストグラム表示				P.147

● [▶] モード(ムービー)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	編　集	コピー	全コマ／選択コマ	P.165
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.166, 178
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.167
		(言語アイコン)	日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.40
		PW ON設定	オフ／1／2	P.189
		PW OFF設定	オフ／1／2	P.189
		再生音量		P.188
		ビープ音	オフ／小／大	P.185
		操作音	オフ／1／2	P.186
		モニタ調整		P.183
		日時設定		P.42
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.195
		インデックス表示	4／9／16	P.152
ムービープレイ		ムービー再生	再生／コマ送り／中止	P.61
		インデックス作成	決定／再設定／中止	P.161
		ムービー編集	決定／再設定／中止	P.163
情報表示				P.180

初期設定一覧

●撮影モード

絞り値	F1.8
シャッタースピード	1/1000秒
ズーム	広角
LCD	オフ（ ：オン）
使用カード	xD（xD・SM挿入口に入っているカード）
露出補正	±0
フラッシュモード	オート発光 （S M：先幕効果、 ：発光禁止）
フラッシュ補正	±0
測光	ESP（M ：スポットに固定）
AF/マクロ/MF	AF
AFターゲット移動	中央
ヒストグラムターゲット移動	中央
セルフタイマー /リモコン	オフ
AEロック	オフ
ドライブ	単写
オートブラケット撮影	±1EV、3枚
ISO感度	オート（A S M：64）
マイモード選択	マイモード1
フラッシュ選択	内蔵+外部
スレーブ	1
スローシンクロ	先幕効果
ノイズリダクション	オフ（ ：オンに固定）
デジタルズーム	オフ
フルタイムAF	オフ
AF方式	iESP（ ：iESPに固定）
スチル録音	オフ
ムービー録音	オン
パノラマ	オフ
合成ツーショット	オフ
ファンクション撮影	オフ

ヒストグラム表示	オフ
画質モード	HQ（2560×1920、 ：320×240）
TIFF設定	2560×1920
SHQ設定	2560×1920
HQ設定	2560×1920
SQ1設定	1600×1200　標準
SQ2設定	640×480　標準
ホワイトバランス	オート
WB補正	±0
カスタムWB登録	オフ
シーンプリセット	標準
シャープネス	±0
コントラスト	±0
彩度	±0
設定クリア	オン
	日本語
PW ON設定	1
PW OFF設定	1
レックビュー	オン
ビープ音	小
シャッタ音	1－小
操作音	1－小
マイモード設定	現設定
ファイル名メモリー	リセット
モニタ調整	標準
日時設定	年月日 2002/01/01 00:00
m/ft設定	m
ビデオ出力	NTSC
ショートカット設定	A：ドライブ、B：画質モード、 C：ホワイトバランス
カスタムボタン設定	ドライブ
スーパーコンパネ表示	オフ

AFイルミネータ	オン

●再生モード

自動再生	オフ
情報表示	オフ
ヒストグラム表示	オフ
プロテクト	オフ
回転再生	0°
プリント予約	オフ
リサイズ	640×480
録音	オフ
コピー	全コマ
設定クリア	オン
	日本語
PW ON設定	1
PW OFF設定	1
再生音量	3
ビープ音	小
操作音	1－小
ファイル名メモリー	リセット
モニタ調整	標準
ビデオ出力	NTSC
インデックス表示	9

撮影モード別の設定可能な機能

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">モード
機能</th><th>P</th><th>A</th><th>S</th><th>M</th><th></th><th rowspan="2"></th></tr>
<tr><th colspan="5"></th></tr>
<tr><td colspan="2">ズーム</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">デジタルズーム</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">オートフォーカス</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フォーカスロック</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AF方式</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">フルタイムAF</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFターゲット移動</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AFイルミネータ</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マニュアルフォーカス</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td rowspan="7">フラッシュモード</td><td>オート発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>赤目軽減発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>強制発光</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕効果</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>先幕・赤目効果</td><td colspan="2">○</td><td colspan="2">–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>後幕効果</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td>発光禁止</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ補正</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スローシンクロ</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">フラッシュ選択</td><td colspan="5">○（スレーブはA、Mのみ）</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">スポット測光</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">マルチ測光</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">AEロック</td><td colspan="3">○</td><td>–</td><td>○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">マクロ撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーマクロ撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
<tr><td colspan="2">スーパーマクロMF撮影</td><td colspan="5">○</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">セルフタイマー撮影</td><td colspan="6">○</td></tr>
</table>

機能＼モード	P	A	S	M		
	My					
高速連写・連写・AF連写	○※1					–
オートブラケット撮影	○			–	○※1	–
パノラマ撮影	○	–			○	–
合成ツーショット	○					–
ファンクション撮影 モノクロ	○					
ファンクション撮影 セピア	○					
ファンクション撮影 白板	○					–
ファンクション撮影 黒板	○					–
スチル録音	○					–
ムービー録音	–					○
画質モード	○					
ISO感度	○					
露出補正	○			–	○	
ホワイトバランス	○					
WB補正	○					
カスタムWB登録	○					–
シャープネス	○					
コントラスト	○					
彩度	○					
シーンプリセット	○				–	○
ノイズリダクション	○				–	
ヒストグラム表示	○			–	○	–
ヒストグラムターゲット移動	○			–	○	–
設定クリア	○※2					
言語設定	○					
PW ON設定	○					

11 その他

モード / 機能	P	A	S	M	シーンモード	動画
	My					
PW OFF設定	○					
レックビュー	○					－
ビープ音	○					
シャッタ音	○					－
操作音	○					
マイモード設定	○					－
ファイル名メモリー	○					
ピクセルマッピング	○					
モニタ調整	○					
日時設定	○					
m/ft設定	○					
ビデオ出力	○					
ショートカット設定	○					－
カスタムボタン設定	○					－
スーパーコンパネ	○					

○：設定可能　　－：設定不可

※1 夜景 モードをのぞく
※2 My モードをのぞく

カメラのお手入れと保管

●使用後のカメラの取り扱い

電源を切り、レンズキャップをつけてください。

●カメラのお手入れ

1　カメラの電源を切ります。（☞ P.37）

2　電池を取り出します（☞ P.27）。（AC アダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。）

3　カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード

→ 乾いた柔らかい布で拭きます。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、TIFF（非圧縮）、JPEG（DCF準拠）、RAWデータ、Exif 2.2対応、DPOF対応、PRINT Image Matching II対応
静止画音声	：Waveフォーマット準拠
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：xDピクチャーカード（16-128MB）／スマートメディア※1（4/8/16/32/64/128MB）／コンパクトフラッシュ／マイクロドライブ※2 ※1 2MB、5Vカードは使えません。 ※2 340MBのマイクロドライブは使えません。
記録サイズ	：3200×2400ピクセル（プリント拡大 SHQ／HQ） 2560×1920ピクセル（RAW／TIFF／SHQ／HQ） 2560×1696ピクセル（3:2　TIFF／SHQ／HQ） 2288×1712ピクセル（TIFF／SQ1） 2048×1536ピクセル（TIFF／SQ1） 1600×1200ピクセル（TIFF／SQ1） 1280×960ピクセル（TIFF／SQ2） 1024×768ピクセル（TIFF／SQ2） 640×480ピクセル（TIFF／SQ2）
記録コマ数	
32MBカード使用時（音声なし）	：約4枚（RAW　：2560×1920） 約2枚（TIFF　：2560×1920） 約8枚（SHQ　：2560×1920） 約26枚（HQ　：2560×1920） 約64枚（SQ1　：1600×1200標準） 約331枚（SQ2　：640×480標準）
カメラ部有効画素数	：500万画素
レンズ	：オリンパスレンズ7.1～21.3mm、F1.8～2.6、7群10枚 （35mmフィルム換算35～105mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
絞り	：F1.8～8.0
シャッター	：16～1/2000秒
撮影範囲	：0.8m～∞（通常） 0.2m～0.8m（マクロ撮影時）

ファインダ	：光学実像式ファインダ
液晶モニタ	：1.8型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン)、114000画素
オートフォーカス	：TTL方式AF コントラスト検出方式／焦点調節範囲
コネクタ	：DC入力端子、USB接続端子、A/V出力端子
自動カレンダー機能	：2000～2099年の範囲で自動修正
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源	：リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個 あるいは単 3 アルカリ電池／リチウム電池／ニッケル水素電池／ニッカド電池を4本使用 または専用ACアダプタ 単 3 マンガン電池は使用できません。
大きさ	：幅113.5 mm×高さ79.5 mm×厚さ69.5 mm (突起部を除く)
重さ	：375g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640x480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640x480のときではモニタ全体に表示されますが、1024x768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

銀塩写真
ハロゲン化銀を使った、従来からあるフィルムを用いた写真のことをいいます。

けられ
撮影画面内に邪魔なものが入り、被写体が完全に写らないとき、またファインダで覗いたときに、撮影レンズの鏡胴で視野の一部が見えないことも、けられといいます。撮影レンズに不適切なフードを使った場合など、視野の四隅が暗くなることもいいます。

コントラスト検出方式
被写体までの距離を測るのに使用している方法。被写体のコントラストの大小を検出することで、ピントがあったかどうかを検出します。

絞り
レンズを通して入ってくる光量を調節する機構。値が小さいほど光が多く入り、値が大きいほど入る光が少なくなります。そのレンズで使える最小の絞り値にすることを開放するといい、絞り値を大きくするのを絞り込むといいます。

シンクロ端子
外部フラッシュとカメラとの接続のための端子。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

スレーブフラッシュ
カメラとシンクロコードなどで接続せずに使用するワイヤレスフラッシュ。カメラ側のフラッシュの発光に同調して発光します。被写体の影のつき方を変えるなど、ライティングに変化をだすことができます。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

バックライト
液晶モニタを背面から照らすための光源。

フラッシュブラケット
フラッシュを撮影レンズからはなして使うときに用いる器具。被写体の影のでき方を変えることができます。フラッシュケーブルと併せて使います。

リングフラッシュ
フラッシュの発光体であるクセノン管を、ちょうど蛍光灯のサークラインのように、リング状にしたフラッシュ。接写（近接撮影）などに使用します。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

Aモード（aperture priority mode）
絞り優先AEモード。絞り値は自分で決め、カメラが絞り値にしたがってシャッター速度を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。このカメラには、絞りとシャッタースピードをカメラに任せるPモード、絞り値を決めてシャッタースピードをカメラに任せるAモード、シャッタースピードを決めて絞り値をカメラに任せるSモードの3種類のAEがあります。Mモードでは、絞り値とシャッタースピードの両方を決める必要があります。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

ISO
国際標準化機構（ISO）の規格で決められた、フィルム感度の表示法。通常「ISO100」のように表記します。数値が大きくなるほど、光に対する感度が強くなり、少ない光でも感光します。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQ1／SQ2に設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

Mモード（manual mode）
シャッター速度と絞り値を、自分で設定して撮影するモード。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

Pモード（program mode）
プログラムAEモード。カメラが自動的に、適正な絞り値とシャッター速度を設定して撮影するモード。

Sモード（shutter speed priority mode）
シャッタースピード優先AEモード。シャッタースピードを自分で決め、カメラがシャッタースピードにしたがって絞り値を変化させ、適正な露出で撮影するモード。

TIFF（tagged image file format）
モノクロやカラーの画像データを圧縮しないで保存するためのフォーマット。スキャナ用やグラフィックス用のアプリケーションで扱えます。

TFT（thin-film transistor）
カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

TTL（through-the-lens）方式
カメラ内部に受光体を置き、レンズを通ってきた光を直接測光する露出調節機構。

TTL-AUTO
外部フラッシュの機能。ストロボから発光された光を、撮影レンズを通してカメラの受光体で受け、この光量調節信号をストロボ本体に発信して、発光量をコントロールする方式。

索引

た行

な行

は行

メモ

OLYMPUS

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　　　　9：30〜21：00

土・日・祝日　10：00〜18：00

（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町 1 の 3 の 1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）	Tel.03（3292）1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北 4 条東 1 の 2 の 3　札幌フコク生命ビル	Tel.011（231）2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央 1 の 13 の 4　泉エクセルビル	Tel.022（218）8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦 2 の 19 の 25　日本生命広小路ビル	Tel.052（201）9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場 2 の 12 の 26　オリンパス大阪センター	Tel.06（6252）6991
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀 16 の 11　日本生命広島第 2 ビル	Tel.082（228）3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通 3 の 6 の 11　福岡フコク生命ビル	Tel.092（761）4466

※　土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

1AG6P1P1438　　VT406403